

第二十二回 帝國議會 貴族院議事速記錄第二十一號

明治三十九年三月二十七日(火曜日)

午前十時七分開議

議事日程 第二十一號 明治三十九年三月二十七日

午前十時開議

第一 國債ニ關スル法律案(政府提出衆)

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三 登錄稅法中改正法律案(政府提出衆)

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五 明治三十三年法律第七十五號中改正法律案(政府提出衆)

第六 明治三十三年法律第七十六號中改正法律案(政府提出衆)

第七 關稅定率法改正法律案(政府提出衆)

第八 鐵道國有法案(政府提出衆)

第九 京釜鐵道買收法案(政府提出衆)

第十 東京市制案(衆議院提出)

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十二 明治三十三年法律第八十六號中改正法律案(衆議院提出)

第十三 屠場法案(衆議院提出)

第十四 羽越線鐵道速成ノ請願

第十五 韓米輸入稅撤廢ニ關スル請願

第十六 朝鮮米及穀輸入稅廢止ノ請願

第十七 取引所稅法及賣買取引ノ方法改正ニ關スル請願

第十八 商法第一百五十六條ノ規定改正ニ關スル請願

第十九 舞鶴開港ニ關スル請願

第二十 大阪市市街法制定ニ關スル請願

第二十一 豊日鐵道第一期線上ノ請願

第二十二 掛川驛ヲ自由下車驛トナスノ請願

第二十三 矢作川改修工事ニ關スル請願

第二十四 農業資料交付ノ請願

第二十五 八戸區裁判所管轄變更ノ請願

第二十六 村立小學校特別補助ノ請願

第二十七 町村小學校教育費國庫補助ノ請願

第二十八 狩獵法中一部改正ノ請願

第二十九 教科書改正ニ關スル請願

第三十 地方各町村ニ招魂社建設ノ請願

第三十一 水面埋立ニ關スル請願

第三十二 夏秋蠶專門蠶業講習所設置ノ請願

第三十三 漆樹栽培獎勵ノ請願

第三十四 日露戰爭罹災者救濟ノ請願

第三十五 北陸鐵道三國支線敷設ノ請願

第三十六 鳥見山靈時之古蹟顯彰ノ請願

○議長(公爵徳川家達君) 本日ノ諸般ノ報告ハ省略ヲ致シマシテ御異存ゴザ  
イマセヌカ  
〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス  
〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經ケルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

昨二十六日本院ニ於テ議決シタル左ノ政府提出案及衆議院提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

政府提出案

醬油稅則中改正法律案

衆議院提出案

醫師法案

歯科醫師法案

同日本院ニ於テ議決シタル政府提出臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律案

ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

同日本院ニ於テ採擇スヘシト議決シタル左ノ各請願ハ意見書ヲ付シテ之ヲ  
政府ニ送付セリ

石川縣能美石川兩郡境界變更ニ關スル請願

宅地地價修正法案ニ關スル請願

滿韓ニ於ケル小學兒童戰捷紀念殖林資金ニ關スル請願

質屋取締法修正ノ請願

市町村立小學校教員俸給額國庫補助ノ請願

宅地地價修正ノ請願

官立種牛場增設ノ請願

煉乳事業保護ニ關スル請願

明治二十二年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則改正ノ請願

北海道鐵道天鹽北見線工事速成ノ請願

津山鳥取間鐵道敷設ノ請願

平壤元山間鐵道急設ノ請願

礦毒被害地地價修正ニ對シ再修正ノ請願

船舶職員法改正ノ請願

廣軌鐵道敷設ノ請願

田租特免及食費給與並義務教育費補助ノ請願

下級海員養成補助ニ關スル請願

利根川及江戸川浚渫工事進捗ノ請願

日露戰役ニ付個人損害救濟ノ請願

絲魚川松本間鐵道敷設ノ請願

平南鐵道敷設ノ請願

同日明治三十八年法律第七十號改正法律案並民事訴訟法中改正法律案特別

委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 兒島 惟謙君 副委員長 奥山 政敬君

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案及衆議院提出案ヲ受領セリ

政府提出案

帝國鐵道會計法案

官設鐵道用品資金會計法中改正法律案

韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ關スル法律案

鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ買收シタル鐵道ノ出納官吏ニ關スル  
法律案

市制又ハ區制施行地内ノ有租ニ關スル法律案

地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法律案

衆議院提出案

癩豫防法案

狩獵法中改正法律案

同日衆議院ヨリ紙幣類似證券取締法案及臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法  
律案ハ本院ノ議決ニ同意シ奏上シタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

本日衆議院ヨリ同院提出辯護士法中改正法律案ヲ受領セリ

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第一、  
國債ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、通牒文ノ朗讀ハ省  
略イタシテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス  
〔左ノ通牒文及議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之  
ニ徵フ〕

〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕

國債ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
明治三十九年三月二十六日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵德川家達殿

國債ニ關スル法律案

第一條 國債ノ起債、元金償還、利子仕拂、證券及登錄ニ關スル取扱手續  
ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

第二條 國債ニ對シテハ無記名利札付證券ヲ發行ス

國債ノ登錄ハ債權者ノ請求ニ因リ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ證券ヲ發行ス  
セス但シ債權者ノ請求アルトキハ記名利札付證券ヲ發行ス

第三條 登錄國債ヲ移轉シ又ハ登錄國債ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキ

ハ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ政府其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四條 相續、遺贈及強制執行ノ場合ヲ除クノ外權利ノ移轉ニ因ル國債ノ登録ハ其ノ利子仕拂期前一箇月間之ヲ停止ス

第五條 記名國債證券又ハ其ノ利札ヲ滅失又ハ紛失シタルトキハ其ノ記名者ヨリ直ニ之ヲ所管取扱銀行ニ届出ツヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ前項ノ規定ニ依リ滅失又ハ紛失ノ届出ヲ爲シタル者ハ届出ヲ爲シタル後三箇月ヲ經過シテ仍發見セサルトキハ代證券又ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ元金ノ償還期又ハ利子ノ仕拂期開始以後ハ代證券又ハ代利札ノ交付ヲ爲ス

減失又ハ紛失ノ届出アリタル記名國債證券又ハ其ノ利札ハ代證券又ハ代利札ノ交付ニ因リ其ノ效力ヲ失フ

第六條 無記名國債證券又ハ其ノ利札ヲ滅失又ハ紛失シタル者ハ其ノ證券又ハ利札ノ持參人カ償還又ハ仕拂ヲ受ケタル場合ニハ其ノ額及其ノ仕拂ノ日以後ノ利子ヲ辨償スヘキ旨ヲ約シテ擔保ヲ提供シ其ノ元金ノ償還又ハ利子ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得但シ取扱銀行ノ確實ト認メタル保證人ヲ立テ擔保ノ提供ニ代フルコトヲ得

擔保ヲ提供シタル者カ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充テ過剩額アルトキハ之ヲ還付ス

金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付ス  
公賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 無記名國債證券ニ對シ元金ヲ償還スル場合ニ於テ其ノ證券ニ附屬スル利札中欠缺セルモノアルトキハ之ニ相當スル金額ヲ元金ノ内ヨリ控除ス但シ既ニ利子仕拂期ノ開始シタル利札ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
前項利札ノ所持人ハ何時ト雖其ノ利札ヲ提出シテ控除金額ノ仕拂ヲ請求スルコトヲ得

第八條 民法施行法第五十七條ノ規定ハ國債證券及其ノ利札ニ之ヲ適用セス

第九條 國債ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ十箇年、利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス

## 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

新舊公債證書發行條例ニ依ル舊公債ノ賦金ニハ本法中利子ノ規定ヲ、賦札ニハ本法中利札ノ規定ヲ準用ス

國債ニ關スル現行法令中本法ノ規定ニ抵觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ但シ時效ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス  
本法施行前ニ整理公債條例ノ規定ニ依リ滅失又ハ紛失ノ届出ヲ爲シタル無記名國債證券及其ノ利札ノ處分ニ付テハ仍整理公債條例ニ依ル  
〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君)此法律案ハ國債ノ取扱法ニ關シマスル法律案デゴザイマシテ、別ニ新ニ國債ヲ起スト云フ法律デハゴザイマセヌ、即チ國債ノ取扱ニ關スル規程ヲ定メマスノデゴザイマス、御承知ノ如クニ是マデノ我國ノ國債ニ關シマスル規定ハ國債ヲ新ニ起シマスル度毎ニ一ツヅ、出來テ居リマシテ、唯今專ラ行ハレテ居リマスノハ明治十九年ノ整理公債條例ヲ用ヰテ居リマス、然ル所ガ段々此從來ノ手續ノ中ニ不便ナ廉モゴザイマスルシ、又日露戰役ノ結果ト致シマシテ、外國ノ市場ニ我公債ガ多數出ルヤウニナリマシタノデ此取締ヲ改正イタシタイト考ヘマスノデゴザイマス、即チ此紛失ノ場合ニ於ケル證書ノ取扱方若クハ登録公債ノ取扱方ノ如キモノヲ新ニ加ヘマシテ、之ヲ成ルベク便利ニ致シタイト云フ考ヘデゴザイマス、デ其次ニ日程ニ載ツテ居リマスル此登録稅法中改正法律案、是ハ矢張リ此國債ニ關シマスル取扱ヲ改正イタスニ付キマシテ此登録稅ヲ廢スル必要ガアルノデゴザイマス、此二ツノ議案ハ茲ニ併セテ説明イタシテ置キマスルデ、成ルベクハ同一ノ委員ニ付託サレマシテ最早會期切迫ノ場合デゴザイマスデ、成ルベク至急ニ御議決ヲ願ヒタインデゴザイマス、此段御協賛ヲ仰イデ置キマス  
○議長(公爵徳川家達君)別ニ御發言ガゴザイマセヌカラ、次ノ日程ニ移リマス

○議長(公爵徳川家達君)議事日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉、此特別委員ノ選定ハ議長ガ致シマシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君)御異議ナイト認メマス、直ニ指名ヲ致シマス

〔仙石書記官朗讀〕

## 國債ニ關スル法律案特別委員

子爵松平直平君	子爵永井尙敏君	田邊輝實君
男爵沖守固君	男爵平野長祥君	男爵長松篤秉君
中島永元君	富田鐵之助君	道源權治君

中島

永元君

富田

鐵之助君

道源

權治君

- 議長(公爵徳川家達君) 議事日程第三、登錄稅法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

## 登錄稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月二十四日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

## 登錄稅法中改正法律案

登錄稅法中左ノ通改正ス

## 第十六條 削除

## 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

- 議長(公爵徳川家達君) 説明ハ唯今大藏大臣ガ致サレマシタ、御異議ガ無ケレバ次ノ日程ニ移リマス

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ]

- 議長(公爵徳川家達君) 議事日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉、此特別委員ハ前ノ國債ニ關スル法律案ノ委員ニ付託シテハ如何デゴザイマセウ

- 議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認メマス

- 議長(公爵徳川家達君) 報告ヲ致シマス

〔小原書記官朗讀〕

一帝國鐵道會計法案

## 一官設鐵道用品資金會計法中改正法律案

一韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ關スル法律案
一鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ買收シタル鐵道ノ出納官吏ニ關スル法律案

## 海上衝突豫防法中改正法律案

右法案ハ緊急事件トシテ議決相成度此段及請求候也  
明治三十九年三月二十七日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

貴族院議長公爵徳川家達殿

- 男爵有地品之允君 此場合ニ唯今報告ニナリマシタ海上衝突豫防法改正ノ件ヲ議事日程ニ加ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○村田保君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 村田君ハ賛成デスカ

○村田保君 ハイ

〔賛成〕ト呼ブ者アリ]

- 議長(公爵徳川家達君) 有地男爵ノ動議ノ通り取計テ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ]

- 議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、ソレカラ諸君ニ御諮詢リヲ致シマスガ、唯今御聽キノ通リノ要求ガ政府ヨリ出マシタカラ、此法案モ此際議事日程ニ追加イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ]

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

- 議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ海上衝突豫防法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、原案ノ朗讀ハ省略シテ宜シカラウト思ヒマスガ、如何デゴザイマス

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ]

- 議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認メマスカラ省略イタシマス、序デニ諸君ニ御諮詢リ致シマスガ、本日ノ法案ノ朗讀ハ皆省略イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

海上衝突豫防法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月二十六日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

海上衝突豫防法中改正法律案  
海上衝突豫防法中左ノ通改正ス

第八條 水先船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セス周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ掲ケ且十五分時ヲ超エサル短時ノ間隙ヲ以テ閃火一箇若ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船舶へ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ掲クル代リニ隨時之ヲ表示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ得

免許水先人ノ業務ニ専用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊セサルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ檣燈ノ下方八尺ノ所ニ周回少クモニ海里ノ距離ヨリ見得ヘキ紅燈一箇ヲ增掲シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ掲クヘシ  
前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニ依リ紅燈ヲ増掲スヘシ但シ舷燈ヲ掲クヘカラス  
水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事セサルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同様ノ燈ヲ掲クヘシ

第九條 漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當ス

ル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲クルカ又ハ之ヲ表示スヘシ  
一 無甲板船即チ全部張詰メタル甲板ニ因リテ海水ノ浸入ヲ防ガサル船

夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺以内ナルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ

無甲板船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺ヲ超ユルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲ケ且我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキハ其ノ白燈ノ下方ニ少クモニ三尺ヲ隔テ且漁具ノ結著シタル方

向ニ於テ水平上少クモニ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ増表スヘシ  
二 第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舡ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ見得易キ所ニ白燈二箇ヲ掲クヘシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラス十五尺ヨリ多カラス且骨骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラス十尺ヨリ多カラサル様其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其ノ下燈ハ網ノ方向ニ掲クヘシ此ノ兩燈ハ周回少クモニ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

總積量二十噸未満ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモニ海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(網又ハ漁具ノ方向ニ於テ)ニ表示スヘシ  
三 第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スルニ當リ延繩ヲ結著シ又ハ之ヲ曳入ル船舡ニシテ碇泊セス又ハ第八ニ依リ停留セサルモノハ流シ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舡ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ其ノ延繩ヲ延ヘ又ハ曳繩ヲ用ウルモノハ其ノ船ノ種類ニ應シ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲クヘシ  
總積量二十噸未満ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモニ海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(釣繩ノ方向

四

ニ於テニ表示スヘシ

打タセ網(總テ海底ニ漁具ヲ曳クモノヲ包含ス)ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

九

霧中降雪其ノ他暴雨中流シ網打タセ網桁網又ハ延繩ヲ用ヰテ漁業ニ對シテ規定シタル霧中信號ヲ爲スヘシ(第十五條第四項及末項參照)

甲 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ尙其ノ下方六尺ヨリ少カラス十二尺ヨリ多カラサル所ニ

白色ノ燈籠一箇ヲ増掲スヘシ此ノ三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其レヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シ且装置スルヲ要シ又白燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘク製造シタルモノタル

ヲ要ス

乙 帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘク製造シタル白色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ且他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メ

最モ見得易キ所ニ白色ノ閃火又ハ炬火一箇ヲ表示スヘシ  
甲及乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモニ海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

十

網延繩又ハ打タセ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶航行中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ籠其ノ他ノ信號ヲ掲ケ近寄リ來ル他船ニ其ノ漁業中ナルコトヲ表示スヘシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルトキハ他船ノ近寄リ來リタルトキ同様ノ信號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示スヘシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ掲ケ又之ヲ表示スルヲ要スル船舶ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

## 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣山縣伊三郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(山縣伊三郎君)此海上衝突豫防法中改正ヲ要シマスル趣旨ハ今回英國ヨリ……英國政府ヨリ水先船及漁船ノ燈火ノコトニ關シマシテ此改正ヲ用ヰテ且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得  
長サ百五十尺未滿ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ  
長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲ケ且第十一條ニ規定シタル白燈一箇ヲ増掲スヘシ  
長サ百五十尺未滿ナルト百五十尺以上ナルトヲ間ハス碇泊中ノ漁船漁網其ノ他ノ漁具ヲ結著シタルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキ碇泊燈ノ下方少クモ三尺ヲ隔テ且漁網其ノ他ノ漁具ノ方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ増表スヘシ

八 漁船漁業ニ從事中漁具ノ岩礁其ノ他障礙物ニ纏著シタル爲メ停留スルトキハ晝間ニアリテハ第十二條ニ規定スル晝間信號ヲ引下シ夜間ニア

○議長(公爵徳川家達君)別ニ御發言ガゴザイマセヌカラ特別委員ノ選舉ニ移リマス、特別委員ノ選定ハ議長ガ致シマシテ御異存ゴザイマセヌ力  
〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

〔仙石書記官朗讀〕

海上衝突豫防法中改正法律案特別委員

侯爵細川護成君 伯爵吉井幸藏君 子爵板倉勝達君  
男爵赤松則良君 黒岡帶刀君 男爵南岩倉具威君  
石井省一郎君 奥山政敬君 兒玉淳一郎君

○議長（公爵徳川家達君）諸君ニ御諮リヲ致シマスガ、帝國鐵道會計法案、官設鐵道用品資金會計法中改正法律案、韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ關スル法律案、鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ買收シタル鐵道ノ出納官吏ニ關スル法律案、是ダケハ連ネテ問題ニ供シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長（公爵徳川家達君）御異議ナイト認メマス、然ラバ此法案ノ第一讀會ヲ開キマス

帝國鐵道會計法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
明治三十九年三月二十六日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長杉田定一

帝國鐵道會計法

第一條 帝國鐵道ノ事業ヲ經營スル爲從來出資シ及將來出資スル金額ヲ以テ資本ト爲シ特別ノ會計ヲ立テシム

前項ノ資本ハ本會計ノ負債トシ一般會計ニ對シ漸次償還スルモノトス但シ官設鐵道會計法第四條ニ依リ純益トシテ從來一般會計ノ歲入ニ編入シタル金額ハ利子ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ負債ノ償還ニ充テタルモノト看做ス

第二條 本會計ハ之ヲ資本勘定及收益勘定ニ區分ス

第三條 資本勘定ハ帝國鐵道建設改良ノ爲一般會計ヨリ支出スル資金及所屬財產ノ賣拂代金ヲ以テ其ノ歲入トシ帝國鐵道ノ建設改良ニ要スル費用ヲ以テ其ノ歲出トス

第四條 収益勘定ハ營業上ノ諸收入及資本所屬物件ノ貸付料並帝國鐵道用

品資金會計ノ過剰金ヲ以テ其ノ歲入トシ營業上ノ諸費用及資本所屬物件ノ維持修理並補充費ヲ以テ其ノ歲出トス

第五條 収益勘定ニ於テ歲入總額ヨリ歲出總額ヲ控除シタル金額ヲ益金トシ負債ノ利子ト負債消却金トニ區分シテ之ヲ一般會計ニ納付スヘシ

第六條 政府ハ毎年帝國鐵道資本勘定及収益勘定ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 資本勘定ニ屬スル毎年度豫算殘額ハ事業ノ完成ニ至ル迄順次之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第八條 収益勘定ノ歲出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歲入及第十條ニ依ル借入金ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條 収益勘定ノ歲出豫算ニハ災害事變其ノ他豫期セサル歲出ノ不足ニ應スル爲豫備費ヲ設クルコトヲ得

第十條 収益勘定ノ歲出ヲ支辨スルニ當リ歲入金不足ノ場合ニ於テハ一時一般會計ヨリ五十萬圓ヲ限り借入ヲ爲スコトヲ得

前項借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第十一條 資本勘定及収益勘定ハ帝國鐵道用品資金ヨリ物品ヲ購入スルトキハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十二條 本會計ニ關シ必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

官設鐵道會計法ハ之ヲ廢止ス

官設鐵道用品資金會計法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
明治三十九年三月二十六日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

官設鐵道用品資金會計法中改正法律案

「官設鐵道」ヲ「帝國鐵道」ニ改ム

第一條中「購入貯藏」ノ下ニ「及製作修理」ヲ加フ

第二條 帝國鐵道用品資金ハ從來ノ官設鐵道用品資金二百五萬圓及官設鐵

道會計ノ据置運轉資本二十萬圓ヲ以テ之ニ充テ鐵道國有法ニ依リ政府力

第三條 削除

第五條 帝國鐵道用品資金會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生シタルトキハ

其ノ過剩金ヲ同年度ニ於ケル帝國鐵道收益勘定ノ歲入ニ編入スヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月二十六日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵德川家達殿

韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ關スル法律案

帝國鐵道會計法及帝國鐵道用品資金會計法ハ韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ニ之ヲ準用ス但シ其ノ用品資金ハ漸次增加シテ百萬圓トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ買收シタル鐵道ノ出納官吏ハ當分ノ内  
法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
明治三十九年三月二十六日

貴族院議長公爵德川家達殿 衆議院議長杉田定一

鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ買收シタル鐵道ノ出納官吏ニ關スル

鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ買收シタル鐵道ノ出納官吏ハ當分ノ内  
雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得  
「國務大臣坂谷芳郎君演壇ニ登ル」

スル法律案

○國務大臣(坂谷芳郎君) 帝國鐵道會計法案、是ハ此度鐵道ノ國有ニナリマスニ付キマシテ從來ノ官設鐵道會計法ヲ改正イタシマスノデゴザイマス、デベク一般會計ニ準ジテ豫算其他ヲ調製シテ來マシタノヲ、成ルベク此商業ノ主義ニ依リマシテ損益ヲ明瞭ナラシムル爲ニ資本勘定、收益勘定ニ分ケテ豫算ヲ組ムト云フノガ改正ノ重モナル眼目デゴザイマス、其他ノ點ニ於キマシテハ從來ノ會計法ト豫算ヲ議會ニ提出イタシマスル手續其他毫モ異ナル所ハゴザイマセヌガ、改正ノ眼目ト致シマスル所ハ右損益ヲ明瞭ニスルト云フ點ニ重キヲ置イテ改正ヲ致シマス、サウ致シマシテ從來此鐵道ニ關シマスル會計ハ種々ニ分レテ居リマス、或ル部分ハ一般會計ニ這入ッテ居リ、或ル部分ハ作業會計ニ這入ッテ居ル等、數多ニ分レテ居リマシタノヲ一ツニ纏メテ損益ヲ明ニスルト云フ主義ヲ執リマシタノデ、是ハ全國ノ鐵道ヲ統一イタシマシテ其損益ヲ明瞭ニシ、財政上ノ關係ヲ明ニスルニハ極メテ必要ト存ジマス、尙細目ニ關シマスコトハ矢張リ商業ノ主義ニ基イテ成ルベク此取引上ノ便宜ヲ規定イタシタイト存ジマス、是ハ細則ニ屬シマスルコトデ勅令ニ讓テ規定イタシマス積リデアリマス、ソレカラシテ此官設鐵道用品資金會計法中改正法律案ハ、今日マデ二百五萬圓ノ用品資金ヲ五百萬圓ニ増加スルノデアリマス、是ハ諸會社ヲ合併シテ其用品ヲ之ニ加ヘテ參リマスノデアリマス、若シ諸會社カラ合併シタモノガ五百萬圓ヲ超過イタシマス時分ニハ、ソレハ賣拂ヒマシテ處分ヲ致シマスカラ、茲ニ五百萬圓ト云フ制限ヲ設ケラレテモ何等差支ハゴザイマセス、全國鐵道ヲ統一イタシマス上ニ於キマシテ、五百萬圓ノ用品資金ガアルトシマスレバ、先づ十分デアルト考ヘマシテ、斯ノ如クニ改正イタシマス、而シテ用品資金ノ會計ハ一般會計ニ入レマシタガ、前申シマシタ通り鐵道ノ營業ノ方法ヲ總テ商業ノ主義ニ改メテ損益ヲ一途ニ明瞭ニ致シマスコトニ致シマシタガ故ニ、此用品資金ノ益金モ是ハ矢張リ鐵道ノ會計ノ方ニ入レルコトニナリマス、ソレカラ其次ノ韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ關スル法律案ト申シマスノハ、韓國ノ鐵道ハ内地ノ鐵道

ト合併シテ經營スルト云フコトニハ參リ兼ネマスルノデ、韓國ニ於テ政府

ガ有ツテ居リマス鐵道ハ韓國ダケノ一ノ特別會計ヲ以テ之ヲ漸次發達サセテ

行キタイト考ヘマスノデアリマス、而シテ其規定ハ唯今述ベマシタ帝國鐵道

ニ關シマス會計法ヲ準用イタシマスノデ、唯是ハ韓國ニ於テ政府ガ有ツテ

居ル鐵道ハ特別ニ別段ノ會計ニスルト云フ規定ヲ設ケタイト云フ趣意デアリ

マス、ソレカラ其次ノ鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ買收シタル鐵道ノ

出納官吏ニ關スル法律案ト申シマスノハ、検査院ニ對シマシテ出納ノ證明ニ

當リマスノハ、官吏ノ資格ヲ要スルト云フコトニナツテ居リマスノヲ、此度

數多ノ鐵道ガ合併ニナリマスニ付ヲ備員ヲ一時用ヰタイト云フコトデアリマ

ス、是ハ即チ官吏ノ資格ノ無イモノデアリマスガ、事實ニ於キマシテハ矢張

リ政府ノ監督ノ下ニアル使用人デアリマス、即チ其備員ヲ出納官吏トシテ矢

張リ出納ノ證明ニ當ラシムルト云フコトノ規定ヲ設ケタイ、是ハ矢張リ郵便

局等ノ場合ニハ此便法ガ開イテアリマスノデ何等差支ナイコト考ヘマスノ

デアリマス、此四ツノ法案ハ前申シマシタ通り、新ニ變リマシタ點ハ、資本

勘定、收益勘定ヲ明ニスルト云フコトノ點ガ新ニ變リマスダケデ、從來トサ

ウ別段ニ異タ點ハゴザイマセヌ、唯モウ一つハ韓國ニ在ル鐵道ハ内地ノ鐵

道ト區分シテ別ノ會計ヲ置ク、此二ツガ要點ナノデゴザイマス、ドウゾ速ニ

協賛ヲ與ヘラレルヤウニ希望シテ置キマス

○伯爵柳澤保惠君 大藏大臣ニ質問イタシタウゴザイマス、唯今ノ御説明ニ

依リマシテ、此帝國鐵道會計法外三件ノ御提出ノ理由ハ分リマシタガ、是等

ノ法案ハ元來鐵道國有法案ニ附帶シテ出ヅベキ法律案ト考ヘマス、然ルニ左

様ナモノデアルニ拘ラズ鐵道國有法案ヲ御提出ノ時、同時ニナサラズニ此會

期ノ切迫ノ時ニ御出シニナツタノハドウ云フノデアリマスカ、一言伺ヒタウゴ

ザイマス

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君) 是ハ唯今申上グマシタル資本勘定、收益勘定ノコ

ト、ソレカラシテ韓國ノ鐵道ノ經營ニ關シマスコトニ付テ取調ヲ致シテ居リ

マシタノデ、大變時日ガ後レマシタ次第デアリマス、是ハ如何ニモ政府ニ於キ  
マシテハ遺憾ニ考ヘマスガ、何分ニモ調査ニ時日ヲ要シマシタガ爲ニ、國有法

案ト同時ニ提出スルコトガ出來ナカッタノデアリマスガ、宜シク御了承ヲ願ヒ  
手順ノ後レマシタコトハ甚ダ恐縮ニ考ヘテ居リマスガ、宣シク御了承ヲ願ヒ

マス

○男爵尾崎三良君 私モ一ツ大藏大臣ニ質問イタシタウゴザイマスガ、私ノ  
ハ柳澤伯爵ノトハ少シ反對デ、一體是ハ鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ

買收シタル鐵道ノ云々ト云フノデアルカラ、鐵道國有法案ガ成立ツタ後デナク

テハ用ノ無イコトデアル、定メテ國有法案ハ成立ツデアラウ、成立ツタ暁ニ

出ス積リデアツタガ、今日デ議會ハ終リデアルカラ據ロナク出サレタノデア

ラウト考ヘマスガ、併ナガラ如何ナモノデアリマセウカ、鐵道國有法案ハ是

カラ本院ニ於テ議スルノデアリマスカラ、未ダ是レガ可決スルモノヤラ、又

成立シナイヤラ譯ノ分ラヌノニ、是レバカリ可決ニナツタ時ニハ如何ナルデ

アリマセウカ、其節ハ全ク此附帶ノ法案ハ無效ニナルト云フ考ヘデアリマス

カ、固ヨリ此法案ガ成立スレバ有效デアリマスルガ、未ダ分ラヌノデアリマスカラ、豫メ貴族院ハ異存ハ無イモノ、衆議院サヘ承知スレバソレデ宜イモ

ノト云フ御考ヘデ御出シニナツタニモアラウカト考ヘマスガ、餘リ貴族院ヲ蔑視シタコトデハナイカト考ヘル

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君) 唯今ノ尾崎男爵ノ御尋ねハ一向分ラヌ御尋ねデア

リマスガ、國有法案ト云フモノハ日程ニ載ツテ居リマスノデ、イヅレ唯今第

一讀會ヲ開カレテ居リマスカラ國有法案ガ否決ニナリマスレバ自然此法案ハ

否決ニナルコトニナル、國有法案ガ成立スレバ此法案ハ必要トナルノデアリ

マスカラ、之ヲ政府ガ提出シタカラ貴族院ヲ蔑視シタコト云フコトハ一向無イ

筈デアリマス、是ハ即チ此第一讀會ノ場合デ相當ノ順序ヲ得テ居ルコトト考

ヘマス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ選舉ニ移リマス、諸君ニ御諮詢ヲ致シ

マスガ、特別委員ノ選定ハ議長ガ致シテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) ソレカラ尙諸君ニ御諮詢致シマスガ、唯今大藏

大臣ノ説明ヲ致サレマシタ法案ハ皆ナ同一委員デ宜カラウカト存ジマスガ如

何デアリマセウカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマスカラ左様取計ヒマス、直ニ

特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔仙石書記官朗讀〕

帝國鐵道會計法案外三件特別委員

子爵曾我祐準君	子爵牧野忠篤君	男爵相浦紀道君
男爵菊池大麓君	男爵佐野延勝君	男爵川口武定君
古市公威君	下條正雄君	木村誓太郎君

〔男爵小澤武雄君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長（公爵德川家達君） 小澤男爵ハ何デスカ

○男爵小澤武雄君 日程ノ追加ノコトヲ請求イタシマス、宜シウゴザイマス

○議長（公爵德川家達君） 宜シウゴザイマス

○男爵小澤武雄君 此場合ニ地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法律案

之ヲ追加アラムコトヲ願ヒマス

〔「贊成」ト呼ブ者多シ〕

○議長（公爵德川家達君） 小澤男爵ニ伺ヒマスガ、地租條例ヲ北海道ニ施行

スル件ニ關スル法律案、此法案デスカ

○男爵小澤武雄君 左様

○議長（公爵德川家達君） 小澤男爵ノ議事日程追加ノ動議ニハ贊成者ガアツ

タト認メマス、小澤男爵ノ議事日程追加ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

〔仙石書記官朗讀〕

○議長（公爵德川家達君） 過半數ト認メマス、直チニ第一讀會ヲ開キマス

地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付  
候也

明治三十九年三月二十六日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵德川家達殿

〔小字ハ修正ノ符號〕

地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法律案  
第一條 北海道ニ於ケル郡村宅地及市街宅地以外ノ土地ノ地租定率ハ當分  
地價百分ノ一トス

第二條 北海道ニ於ケル郡村宅地及市街宅地ノ地租ノ定率ハ地價百分ノ一トス  
宅地地價修正法ニ依リ修正シタル地價ニ依リ地租ヲ徵收スル以前ニ於テ  
徵收スル郡村宅地及市街宅地ノ地租ノ定率ハ地價百分ノ一トス

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（阪谷芳郎君） 本案ハ地租條例ヲ北海道ニ施行シマスト云フ法律  
案デゴザイマシテ、是ハ御承知ノ通リ既ニ今日ニ於キマシテハ、段々地租條  
例ハ事實、北海道ニ於テハ行ハレル有様ニナツテ居リマスノデ、極メテ行政上  
便利ト考ヘマス、然ル所ガ、衆議院ニ於キマシテハ修正ガゴザイマシテ、政  
府ノハ宅地ノ地租ノ率ヲ少シ上ゲタイト云フ考デゴザイマシタガ、矢張リ是  
モ當分ノ内百分ノ一即チ從來ノ通リニシテ置キタイト云フ修正デゴザイマス  
ノデス、此修正ニ對シマシテハ政府ハ別段異議ハゴザイマセヌノデ、即チ此  
衆議院ノ意見通リニ決定セラレテ然ルベキト考ヘマス

○議長（公爵德川家達君） 此特別委員ノ選舉ニ移リマス、此特別委員ノ選定  
ハ議長ガ致シマシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長（公爵德川家達君） 御異議ナイト認メマスカラ直チニ特別委員ノ氏名  
ヲ御報道ニ及ビマス

〔仙石書記官朗讀〕

地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法律案特別委員

子爵山口弘達君	子爵伊集院兼知君	男爵野村素介君
關義臣君	男爵安藤直行君	谷森眞男君
湯地定基君	村岡淺右衛門君	日高榮三郎君

○議長（公爵德川家達君） 議事日程第五ニ移リマス、明治三十三年法律第七  
十五號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報  
告ニ諸君ニ御諮詢致シマスガ、議事日程ノ第六ノ法案モ同一委員ニ付託  
セラレマシタカラ委員長ノ報告ハ連ネテ煩ハシテハ如何デゴザイマス

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認メマスカラ左様イタシマス

明治三十三年法律第七十五号中改正法律案  
右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十五日

右特別委員副委員長

伯爵島津忠亮

貴族院議長公爵徳川家達殿

明治三十三年法律第七十六號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十五日

右特別委員副委員長

伯爵島津忠亮

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔伯爵島津忠亮君演壇ニ登ル〕

○伯爵島津忠亮君 今日ハ本案ノ特別委員長ノ大炊御門侯爵ハ所勞デ缺席ニナリマシタカラ、私ハ代理デ御報告ヲ致シマス、去ル二十五日ニ委員會ヲ開キマシテ本案ハ誠ニ簡単ナ案デアリマシテ、此理由書ニ書イテアリマス通り別ニ申上ヌデモ御分リニナツテ居ルコトト考ヘマス、政府委員ヨリ簡単ナル説明ガアリマシテ、委員中一ノ質問モ無ク、一ノ異論モ無ク僅カ十數分ヲ経テ全會一致ヲ以テ可決イタシマシタ次第デアリマス、ソレデドウカ讀會省略ニナツテ速ニ御確定アラムコトヲ希望イタシマス

○千坂高雅君 讀會省略贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

〔其他「贊成」ト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 讀會省略ノ動議ハ定規ノ贊成者ガアッタト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ゴザイマセスカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認メマス

明治三十三年法律第七十六號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續

○伯爵大原重朝君 是モ同ジク讀會省略デ可決アラムコトヲ希望イタシマス

〔賛成〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵徳川家達君) 大原伯爵ノ讀會省略ノ動議ハ贊成者ガアッタト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第七、關稅定率法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

○男爵松平正直君 委員長ノ正親町伯爵ガ差支ガアルヤウデゴザイマスカラ、松平カラ報告イタシマスデゴザイマス、尙チヨット伺ヒマスガ、此同一委員ニ付託ニナリマシタ明治三十三年法律第八十六號中改正法律案、是モ同様報告イタシタウゴザイマス、チヨット伺ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ諸君ニ御諸リ申スマデモアルマイト存ジマスガ、報告セラレテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 松平男爵ノ御登壇ヲ願ヒマス

右別冊ノ通り修正セリ依テ及報告候也

明治三十九年三月二十六日

右特別委員長

伯爵正親町實正

貴族院議長公爵德川家達殿

〔修正ノ部分ノヨリ改錄ス、小字ハ修正、一ハ削除ノ符號〕

## 第七條 左ノ物品ニハ輸入稅ヲ免ス

一 御料品

二 本邦ニ來遊スル外國ノ元首、其ノ一族又ハ其ノ從者ニ屬スル物品

三 陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器、彈藥及爆發物

四 軍艦

五 本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使又ハ公使ニ屬スル自用品

六 本邦在住者ニ贈與スル勳章、賞牌及記章

七 記錄文書其ノ他ノ書類

八 官立公立ノ學校、博物館、物品陳列所其ノ他ノ營造物ニ陳列スル標

九 慈善又ハ救恤ノ爲ニ寄贈スル物品

十 政府ノ輸入ニ係ル政府ノ專賣品

十一 商品ノ見本但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル

十二 旅客ノ用具及旅客ノ職業上必要ナル器具但シ旅客ノ身分ニ相當ス

ルモノニシテ稅關カ適當ト認メタルモノニ限ル

十三 在外軍隊及軍艦ヨリ送還セル物品

十四 個人ニ屬スル引越荷物但シ既ニ使用セラレタルモノニ限ル

十五 輸出シタル物品ニシテ五箇年以内ニ輸入セラレ輸出ノ時ノ性質及

入稅ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク

十六 命令ヲ以テ指定シタル輸出貨物ノ容器ニシテ再輸入スルモノ

十七 本邦ヨリ出漁セル船舶ヲ以テ捕獲採取シタル魚介類、海獸、海藻

其ノ他ノ水產物及其ノ製品ニシテ工程ノ簡單ナルモノ但シ當該船舶

又ハ之ニ附屬セル船舶ヲ以テ輸入シタルモノニ限ル

十八 外國航行ノ艦船ニ船用ノ爲開港内ニ於テ引渡ス物品

十九 難破シタル本邦船舶ノ解體材及艦裝品

二十 本邦ヨリ出港シタル船舶ニ搭載シタル輸出貨物ニシテ該船舶難破シタル爲積戻リタルモノ

## 二十一 國府縣市町村其ノ他ノ公共團體ノ輸入スル種馬、種牛及種

豚

(別表) 輸入稅表

番號 品名 單位 稅率

## 三三四 印刷料紙

一	一枚千〇八十六方インチヨリ少 ナカラサルモノ五百枚每ニ四十 五ポンド以下ノ重量ヲ有スルモ ノ	同	一百斤	一、二七 一割五分
二	其ノ他	同	一百斤	一、二七 一割五分

## 明治三十三年法律第八十六號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十六日

右特別委員長

伯爵正親町實正

貴族院議長公爵德川家達殿  
〔男爵松平正直君演壇ニ登ル〕

○男爵松平正直君 關稅定率法改正法律案、委員會ノ經過ヲ御報告イタシマス、本日ハ委員長ノ正親町伯爵ガ少シ差支ガゴザイマスカラ、代リマシテ御報告ヲ致シマス、此委員會ハ二十五日、六日ト兩日開キマシテ、出來得ルダケノ質問審議討論ヲ盡シマシテ、今日議事日程ニ上ボッテ御報告イタスト云フ順序ニ運ビマシタ、審査ノ内容ヲ簡単ニ御報告ヲ致シマス、此關稅定率法ノ發セラレマシタノハ理由書ニモ語ツテアリマス通り、明治三十年ニ制定セラレマシタ位デ、ソレカラ以來、外國ノ輸入ノ進歩シマシタコト、發達シマシタコト、又内國ノ產業ノ擴張發達セラレテ行キマス有様デ此現行ノ關稅法デハ甚ダ其當ヲ得ナイ廉ミモアリマスルカラ、遂ニ今日ノ改正ノ必要ヲ生ジマシタ所以デ、段々政府委員ノ説明ヲ委シク承リマシタノデアリマスガ、一

一ハ茲ニ申上ゲマスルモ却テ時間ヲ費ヤシマスカラ、其要點ダケヲ一二申上  
ゲテ置キマス、此關稅定率法ノ中、此本條ニ於キマシテ第二條第四條第五條  
第六條ト云フ如キハ既定法律ニハ明記ナカタ次第アリマスガ、此條々ヲ  
明記セラレタノハ、他日各國ト協定稅率ノ改正ノ時期ニ到達シマシテモ、此  
條項ハ大ニ是カラ將來ニ於キマシテモ功ヲ奏スルト云フ目的デ茲ニ掲グラレ  
マシタ、又此第七條ニ於キマシテ輸入稅ヲ免スルト云フ廉ガ現行法トハ餘ホ  
ド數ヲ増シマシテ二十號マデニ及ブヤウニナリマシタ、其中ノ二或ハ八、十  
二、十三、十四、十六、十七、十八、十九、二十ト云フ如キハ先づ此度政府  
ニ於キマシテ審議セラレタ結果トシテ茲ヘ載セラレタ次第アル、又第九條  
ノ如キ輸入原料品ヲ云々ト云フ廉モ、是モ新ニ加ヘラレマシタ、又附則ノ第  
十一條ノ如キ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ムルト云フコトニナッテ居ツテ、現行  
法ニハ、或ハ稅法ノ改正ヲスルトキニハ六箇月前ニ公布スルト云フコトモア  
リマシタガ、ソレ等モ今日ハ入用ガ無イカラ此度ノ改正案ニハ此事ハ載ツテ  
居ナイト云フコトデ、大ニ此政府案ニ於テハ更正ヲ要スル廉ニハ皆更正セラ  
レテ居ル、又別表ニ於キマシテハ之ヲ一々スルニハ、ナカニ容易ナ時間デ  
アリマセヌガ先づ其要領ヲ承リマシタ所ガ、其要領ノ點ハ先づ此輸入稅表ノ  
中デ重モナル稅率ノ高イノガ六割、又一番輕イノガ五分ト云フ間ヲ以テ適當  
ニ之ヲ分配ラシテ居ル、且第一種類カラ第十九種類ニ別ケ、此類別モ是マデト  
ハ多少増減ラシテ、或ハ加ヘ或ハ別チ或ハ一ツニ集メルト云フコトラシテ、  
大ニ此度整理ヲシテ居ル、アル、デ此高イノガ五割ト云フノガ極點ト云フノデ  
アルガ、尙其上ニモ酒精ノ如キ甘精ノ如キハ或ハ數倍ニ及シテ居ルノモア  
ル、是ハ特別ニサウ云フ高イ稅率ヲ設ケタノデアル、或ハ中ニハ是マデ取り  
來ツタノヲ無稅トシタノモ此中ニアル、皆其事實ニ徵シテ數年間ノ經驗ニ依ッ  
テ示サレタ結果トシテ斯ウ云フ整理ヲシタト云フ次第アリマス、一通リ質  
問モ十分終ヘマシタカラ、衆議院ノ修正ノコトニ付テモ尙又能ク質問ヲ致シ  
マシタ、衆議院ノ修正ガ右等ノ問題ニ付キマシテハ條項ニ於テ衆議院ノ修正  
ハ第七條ノ輸入稅ヲ免ズルト云フ此條ニ於キマシテ第二十一ノ國、府縣、市町  
村其他ノ公共團體ノ輸入スル種馬種牛及種豚ト云フモノヲ輸入稅ヲ免ズル中  
ニ加ヘマシタ、ソレカラ衆議院ノ條項ニ於テノ修正ハ第十二條ノ「米及穀輸  
入稅ヲ除クノ外」ヲ削ル、「及第八十六號」ト云フヲ削ル、斯ウ云フノガ此條  
項ノ修正、又別表ノ方ノ修正ハ多少御覽ノ如ク修正ニナリマシタガ、此中稅

率ヲ上ゲマシタノハ兎ニ角、此稅率ノ減ジマシタ方ニ付キマシテハ政府ノ意  
思モ能ク承リマシタ、所ガ護謨ノ稅ノ無稅トナリマシタノハ、是ハ政府モ同  
意シテ成ルホド尤ナ次第アル、是ハ無稅ガ相當ナリト同意ヲ表シマシタ、  
ソレカラ此「クラウンコルク」是ガ即チ「〇、二〇」ガ「〇、一〇」ニナリマシタ、  
是ハ減ズルガ相當ナコトデアル、ソレカラ鐵線ノ三割ガニ割トナッタ、是モ  
ノヲ三割ニスル、是モ政府バ同意シタ、ソレカラ「バラフヰンワックス」是モ  
無稅、是モ必要ナモノデ相當ナリト政府ガ同意ヲシマシタ、ソレカラ亞麻子  
油ノ減ジマシタ、是モ同意ヲシタ、ソレカラ米及糲、是ハ無稅ナノヲ「〇、六  
四」ニシマシタト云フノモ是モ政府ハ同意ヲ致シマシタ、ソレカラ紅茶粉、  
ルノデゴザイマシテ、米ト云フモノノ無稅ト云フコトアツタノヲ、六十四  
錢ノ稅ヲ：之ヲ有稅ニ致シマシタ、此六十四錢ノ稅ニシタノハ、非常特別  
稅ニ於テ之ヲ：六十四錢ノ非常特別稅ノアルノヲ、アノ方ヲ廢メテコチラ  
ノ方ニ於テ米ノ稅ヲ六十四錢ト云フモノヲ課スルト云フコトヲ以テ衆議院デ  
修正ヲ提出ニナッタガ、是ハ至極同意デアルト云フコトデ同意ヲサレタ、所  
デ：唯衆議院ノ修正案ニ政府ハ皆同意デアルガ、唯一ツ此ノ紙ト云フ問題  
ニ付テハ如何デアルカト云フ、大ニ政府ハ杞憂ヲ懷カレテ居ツタノデアリマ  
ス、其點ハ紙ハ印刷料紙デスネ、是ガ衆議院ノ修正説ガ第一、第二ト別ケマ  
シテ、政府案ハ即チ唯印刷料紙ト云フコトデアルノヲ衆議院デハ第一第二ト  
別ケマシテ、第一ヲ從價一割、第二ヲ一割五分、斯ウ云フコトデアルノデ、  
所ガ此所ガ此政府案ハドウカト云フト、其一割ト云フコトニナルト、今ノ協  
定稅率ヨリハ以下ニナル、是ハ同意ガ出來ナイト云フコトデ、是ニハ政府ハ  
同意ヲ表サナカタト云フ趣旨ヲ述ベラレマシタ、何故ニ同意ガ出來ナイカ  
ト云フト一面、此新聞等ノコトニ就テ紙ノ大ニ價ガ減ズルト云フコトハ必要  
デハアルガ、又一面カラ内地ノ紙ノ製造、此問題ハ大ニ此工業ヲ發達サセヌ  
ナラヌ場合デアルカラ、紙ノ如キハ日本内地ニ製造ガ今相應ニアルケレドモ、  
マダ外國ノ輸入ノ六百萬圓餘モ紙ガ這入ツテ居ルノデアルカラ、マダニ内地  
ノ紙ノ製造ト云フモノハ發達サセヌナラヌノデアル、ソレヲ非常ナ稅ガ輕ク  
ハ如何デアラウカト云フ杞憂ヲ以テ此稅ヲ一割ニ減ズル、所ガ其金額ハ僅ニ

二萬圓バカリノコトデアル、所ガ此内地ノ製造ノ關係カラ論ズルト、二萬三萬ト云フ關係デハ無イ、大ニ此工業上ノ發展ヲ圖ルニ如何デアラウカト云フヤウナ杞憂ノ點ガアル、此内地ノ工業ヲ獎勵スル上ニ於テハ餘ホド茲ハ考ヘベキモノデアラウト云フ考ヘカラ同意ヲ表サナカッタ次第デアル、斯ウ云フ次第デアリマス、ソレデ政府ハ衆議院ノ修正ニ對シテ同意ヲ表シタモノト、又同意ヲ表セザル所以ト云フモノハ、大略今申シタヤウナコトデアリマス、右等段々質問ヲシマシテ、而シテ委員會ハ皆サンノ御手許ニ回ッテアル、此修正案ヲ可決シマシタ次第デアリマス、此修正案ハドウ云フコトデアルカト申シマスト、衆議院ノ修正モ皆相應ニ能ク調べハ付イテ、サウ反対ヲ表スルヤウナ廉ハ先ヅ無イコトデアリマス、唯茲ニ其衆議院ノ修正說ノ中ニ其意味ハ大ニ同意ヲ表シテアルガ、少シ其字句ノ足ラナイ爲ニ本意ヲ達セヌヤウナコトハアルマイカ、マア第一此無稅ニナリマスル廉ニ就テ御話ヲシマスガ、第七條ノ二十一ノ「國府縣市町村其ノ他ノ公共團體ノ輸入スル種馬種牛及種豚」ト云フモノヲ加ヘ無稅ノ内ニ入レマシタ、之ニ政府ガ同意シタノハ、此無稅ヲ入レマシタノハ、此定率ノ内ニ於テ牛馬ノ稅ハ五分ト云フノヲ一割ニ上ゲタト云フノデ、種馬ト云フモノヲ無稅ニスル代リニ種馬以外ノモノ即チ豚ノ食用的ノモノデアルカラ、即チ食用ト之ヲ看做シテ幾分カ上ゲテモ宜イト云フ所カラ、其區別ヲ付ケテ種馬、種牛、種豚、之ニ讓ッテ居ツテ、食用ノ分ハ即チ此定率ニ於テ五分ヲ一割トスルガ宜シイ、斯ウ云フ目的デ修正ヲシタト云フカラ、政府モ其修正ノ意思ハ至極尤モデアルト云ウテ同意ヲ表シタ云フ、是ハマア譯デアルノデ、所ガ此種馬種牛ト云フモノノ輸入稅ヲ免ズルノハ宜イガ、此文デ見マスルトデス、此產馬組合、或ハ種馬組合トカ云フモノハ數町數郡ニ互リ、或ハ一縣ニモ瓦ツタヤウナ組合ガアル、其組合デヤルノニハ矢張リ無稅ト云フ譯ニハイカナインデ、公共團體町村又ハ郡、又ハ縣、府、國、斯ウ云フヤウニ此公共團體ハ即チナルノデ、公共團體ノ中ニハ右等ノ組合ハ這入ラレス、斯ウ云フ政府委員ノ説明デアリマス、シテ見ルト之ヲ無稅ニスル目的ハ、或ハナル此產馬組合、產牛組合トカ云フモノノ爲ニ無稅ニシテヤリタイト云フ目的ハ或ハ達シナイデハナイカ、斯ウ云フ懸念ガアリマスカラ、即チ此貴族院ニ於テハ此二十一ヲ修正シマシテ「產馬組合ノ輸入スル種馬、產牛組合ノ輸入スル種牛又ハ國、府縣ノ輸入スル種馬、種牛及種豚」斯ウ云フ修正ヲシタノデアリマス、此市町村ノ如キガ種馬ヲ持チ

種牛ヲ持ツト云フコトハ或ハ類ハ少イ、絕對的無イトハ言ハレナイケレドモ、或ハ是ハ少イ、種馬ノ如キハ此組合ト云フモノハ東北ノ如キ大ニ此組合ガアリマスカラ、其種馬種牛等ノ無稅ト云フ方ハ最モ必要デアルカラ、其方ヲ無稅ニセラレテ、市町村ノ如キハ寧ロ無イ方ガ却ツテ當然デアルト云フ爲ニ此修正ヲ加ヘマシタ次第デアリマス、事實ニ於テハ寧ロ此方ガ大ニ此牛馬ノ發達ニ蕃殖ヲ圖リマス上ニ於テ却ツテ此方ガ宜カラウト云フ爲ニ此修正ヲ加ヘマシタ、ソレカラ右ノ此ノ紙ノ稅ニ就テ印刷料紙……此條ニ就テノ修正ハ今御話申シタ通リ一面ニ文明ノ利器トナル新聞紙社會ニ於テ愈々此紙ト云フモノハ必要デアル、之ガ發達ヲスルニ就テハ稅ガ高クナルト實ニ困ルト云フ、是亦誠ニ尤モナ話デアル、併ナガラ政府ガ杞憂スルノハ、一面ニ内地ノ此製紙ノ工業ヲ發達セシムルト云フコトハ、即チ日本ノ國ノ工業ノ發達ノ一ノ要素デアル、之ヲ發達サセルト云フコトハ實ニ大事デアルカラ、若シ輸入ノ紙ガ廉クナルト云フコトニナツテハ、又此内地ノ生產ヲ保護スルト云フコトハ甚ダ茲ハ困難ヲ生ジハシナイカト云フ、是亦誠ニ尤モ、ソコデ此貴族院ノ修正ハ現今ノ輸入スル紙ニ向ツテハ幾ラ茲ハ高クスルト云テモ協定稅率ト云フモノガアル、今此紙ヲ協定稅率以上ニ上ボスコトハ出來ナイ、ソコデ此協定稅率ノ現在ノ金額ト云フモノヲ標準トシマシテ、此第一ノ方ハ「一、一七」トスウ云フコトニ致シマシタ、ソレカラ「二、其ノ他」ト云フ方ニ於キマシテモノガアル、即チ是ハ現ニ別ケタノデ、將來矢張リ印刷料紙ハ一、一七ト云フコトヨリホカ稅ヲ取ルコトハ出來マセヌ、之ニ修正ヲシテ置キマスレバ文明ノ利器タル新聞アツテ、是ダケハ取レナイ、矢張リ協定稅率以外ノ稅ヲ取ルコトハ出來ナイ、此二ツニ別ケタノデ、將來矢張リ印刷料紙ハ一、一七ト云フコトヨリホカ稅ヲ取ルコトハ出來マセヌ、之ニ修正ヲシテ置キマスレバ文明ノ利器タル新聞紙モ今ヨリ輸入稅ガ上ガル爲ニ困ルト云フコトハ出來ナイ、今ノ通リデイケル、又此工業上ノ方ハドウデアルカラト云フト、是モ輸入ノ紙ガ廉クナルカラ困ルト云フコトハ無クナル、今ノ通リノ輸入稅デアル、此兩方トモ現在ノ儘デ動カナイト云フコトニナリマシタラバ、自ラ之ガ爲ニ困難ヲ受クルト云フコトハ無イデアリマセウト云フ所デ此修正案ヲ提出シタ次第デアル、斯ウ云フ動議ガ委員會ニ起リマシテ段々審議討論シマシテ、詰リ此兩案共ニ至極是ガ宜カラウト云フコトニ全會一致ヲ以テ可決イタシマシタ次第デアリマス、

先ツ大略委員會ノ審査ノ順序ハ右等ノ次第ゴザイマス、殊ニ此關稅定率ハ豫算ノ中ニ既ニ加ヘテアリマスルノデ、關稅定率ガ改正ニナリマシタ結果トシテ、收入ノ數百萬増セルト云フ結果ヲ是ガ見ルニ違ヒナイ、ソコデ此結果トシテ豫算ノ收入ノ上ニ計上シテゴザイマスカラ、是ハマア議會切迫、誠ニ時日ガゴザイマセヌカラ、十分ニ審議討論ノ餘地ハゴザイマセヌケレドモ、出來得ルダケ調査ヲシマシタ次第デアリマスカラ、ドウゾ皆サン此委員會ノ修正ニ御贊成クダサイマシテ可決アラムコトヲ幾重ニモ希望イタシマス、ソレカラソレニ次ギマシテ併セテ御報告シマスノハ、明治三十八年法律第八十六號中改正法律案、是ハ衆議院提出デ簡單ナル問題デアリマスガ、此事ハチヨット分リ兼ネマスヤウナモノデアリマスガ、斯ウ云フ次第ニナルノデアリマス、此「鹹魚及燻製魚ニ對シ」ノ下「明治三十年法律第十四號」ヲ削ルト云フノハ、是ハ此第十四號ト云フノハ鹹魚及燻製魚ノ外國製造品ヲ日本ニ輸入スルモノハ日本ノ水產物ヲ保護スル爲ニ附加稅ヲ課スルコトヲ與ヘタル法律デアル、其法律デアリマスカラ是ハ即チ現存シタイ、故ニ衆議院デハ現存スルコトニ決議シテアル、之ヲ現存スルナラバ明治三十年法律第十四號ト云フモノガ今度ノ關稅ノ法律ニナッタ後、活キテ居ツテハ困リマスカラ、ソレダケヲ削ルト云フニ過ギナイ、而シテソレガ活キテ居リマスレバ或ハ露西亞領、亞米利加領カラ製造シテ參リマスル此鹽魚、鹹魚、燻製魚ト云フ如キ製造物ニ附加稅ヲ課スルコトガ出テ、幾分カ保護稅ヲ課スルコトガ出來ルト云フ、斯ウ云フコトヲ規定シテアル法律デゴザイマスカラ、是ハ固ヨリ存スルノヲ希望イタシマスノデゴザイマス、衆議院ノ提出案ハ至極是ハ相當ナリト認メマシテ、此委員會ニ於キマシテモ全會一致ヲ以テ可決イタシマシタ次第デゴザイマス、ドウゾ此兩案共ニ委員會ノ決議ヲ御贊成下サレテ可決アルコトヲ希望イタシマス

○伯爵廣澤金次郎君 私ハ委員長ニ質問ガ致シタウゴザイマスガ、此衆議院ノ修正案ノコトニ就テ色ニ御説明ガアリマシタガ、少シ分リ兼ネマスルカラモウ一應委員長ニ説明ヲ煩ハシマスルガ、輸入稅表ノ第二類ノ穀物ト云フ點デゴザイマスガ、此「米及穀」其他「大麥」等ハ初メノ政府ノ原案ハ無稅デアリマスノヲ、是ニ僅カバカリデハアリマスルガ輸入稅ヲ課セラレマシタノハ、之ニ政府ハ同意サレタト本員ハ考ヘテ居リマスルガ、委員會ハ此米、即チ我ガ日本ノ國民ノ一般ノ食料ナル米、是ハ年々ノ產額ガ我ガ人口ノ食料トシテ

足リルト云フヤウナ事モ御調べニナリマシタラウカ、又政府ノ謂ハユル色ニシテ、收入ノ數百萬増セルト云フ結果ヲ是ガ見ルニ違ヒナイ、ソコデ此結果トシテ豫算ノ收入ノ上ニ計上シテゴザイマスカラ、是ハマア議會切迫、誠ニ時日ガゴザイマセヌカラ、十分ニ審議討論ノ餘地ハゴザイマセヌケレドモ、出來得ルダケ調査ヲシマシタ次第デアリマスカラ、ドウゾ皆サン此委員會ノ修正ニ御贊成クダサイマシテ可決アラムコトヲ幾重ニモ希望イタシマス、ソレカラソレニ次ギマシテ併セテ御報告シマスノハ、明治三十八年法律第八十六號中改正法律案、是ハ衆議院提出デ簡單ナル問題デアリマスガ、此事ハチヨット分リ兼ネマスヤウナモノデアリマスガ、斯ウ云フ次第ニナルノデアリマス、此「鹹魚及燻製魚ニ對シ」ノ下「明治三十年法律第十四號」ヲ削ルト云フノハ、是ハ此第十四號ト云フノハ鹹魚及燻製魚ノ外國製造品ヲ日本ニ輸入スルモノハ日本ノ水產物ヲ保護スル爲ニ附加稅ヲ課スルコトヲ與ヘタル法律デアル、其法律デアリマスカラ是ハ即チ現存シタイ、故ニ衆議院デハ現存スルコトニ決議シテアル、之ヲ現存スルナラバ明治三十年法律第十四號ト云フモノガ今度ノ關稅ノ法律ニナッタ後、活キテ居ツテハ困リマスカラ、ソレダケヲ削ルト云フニ過ギナイ、而シテソレガ活キテ居リマスレバ或ハ露西亞領、亞米利加領カラ製造シテ參リマスル此鹽魚、鹹魚、燻製魚ト云フ如キ製造物ニ附加稅ヲ課スルコトガ出テ、幾分カ保護稅ヲ課スルコトガ出來ルト云フ、斯ウ云フコトヲ規定シテアル法律デゴザイマスカラ、是ハ固ヨリ存スルノヲ希望イタシマスノデゴザイマス、衆議院ノ提出案ハ至極是ハ相當ナリト認メマシテ、此委員會ニ於キマシテモ全會一致ヲ以テ可決イタシマシタ次第デゴザイマス、ドウゾ此兩案共ニ委員會ノ決議ヲ御贊成下サレテ可決アルコトヲ希望イタシマス

○男爵松平正直君 簡單デゴザイマスカラ此所デ御答イタシマス、サウ云フ深イ御議論ニナッテ、政府ノ意思ガ何トカ云フコトデアレバ、又政府委員ニ御尋ネヲ願ヒマスルケレドモ、委員會デハ是ハモウ謂ハユル此六十四錢ト云フ米及粉ノ稅ハ特別稅ノ所ニアルノデアリマス、此特別稅ト云フノハ十二條デ「米及粉輸入稅ヲ除クノ外」ト云フコトヲ削リマシタカラ、非常特別稅ノ中ノ云々ト云フコトハ削ッテ、コチラノ方ニ於テ稅ヲ取ルト云フ、斯ウ云フダケデアル、是ハ格別論ハ無カッタ、ソレカラ米ノ稅ヲ取ルガ宜イカ惡イカ、謂ハユル米穀ヲ保護稅のニサスルモノデアルヤ否ヤト云フ問題マデニハ委員會デハ行キマセヌ、是マデ特別稅ニアルノヲ取ッテコチラニ移シマシテ特別稅ノ方ヲ無クスト云フダケノ問題ニナリマシタノデ、尙此以上ノ問題ニナリマスレバ、ドウゾ其筋ノ人ノ方ニ御尋ネニナルヤウニ願ヒマス

○男爵尾崎三良君 唯今廣澤伯爵カラ質問ニナリマシタ米及麥ノ稅デアリマスガ、是ハ非常特別稅デアルノヲ此方へ入レルト云フコトニナリマシタノハ、唯今デハ格別稅額ハ殖エヌヤウデアリマスケレドモ、非常特別ト云フモノハ過日ノ法案デ繼續スルコトニハナリマシタケレドモ、サリナガラアレハ矢張リ非常特別稅デアッテ、政府ノ證言ニ於テモ數年ノ内ニ必ズ十分ナ調査ヲ遂ゲテ、惡ルイモノハ改正スルト云フノ御意見デアル、我ニモソレヲ希望シテ居ルノデアリマスガ、此粉、米ナドノ輸入稅ナドト云フモノハ隨分民間ニ物議ノアルモノデアル、我ニモ是レハ廢スルガ宜イト考ヘテ居ルノデアリマスガ、此關稅定率改正ノ際ニ非常特別稅カラズット此中ニ入レテ仕舞フト云フノハ甚ダ宜シクナイ仕方デアルト思ヒマスガ、是ハ政府ハ御異存ナインデアリマスカ、我ニハ若シ贊成者ガアレバ、是ハ元ノ通リ直シタイト思フノデアリマスガ…

○國務大臣(阪谷芳郎君) 是ハ政府ハ異議ハゴザイマセヌ、唯今松平委員長カラ御報告ニナリマシタ通リニ、少シモ現在ノ有様ニハ變化ガ無イ、唯法律

ノ形式ト致シマシテ、コチラニ入レタ方ガ宜カラウト云フコトデ、コチヘ  
這入リマシタ、而シテ之ヲ削ルト云フコトハ今日ハ出來マセヌ、如何トナレ

バ歲入ノ方ニ是ハ關係イタシマシテ、歲入ノ方ニ這入テ居ル稅デアリマス  
カラ、之ヲ今日削ルト云フコトハ到底御同意ガ出來マセヌ

○議長(公爵德川家達君) 諸君ニ御諮詢致シマスガ、唯今特別委員長ニ代  
ラレマシテ松平男爵ガ御報告ニナリマシタガ、議事日程ノ第七ト第十二ト連  
ネマシタ御報告デゴザイマシタ、問題ニ供スルモ連ネテ宜シウゴザイマス  
カ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ガ無ケレバ議事日程ノ第十二ハ衆議院提出  
案デゴザイマスカラ議事日程變更ニナリマス、政府ノ同意ヲ求メマス、…  
政府ハ同意ノ趣デゴザイマス、兩案トモ第二讀會ニ移スベキヤ否ヤノ決ヲ探  
リマス、第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス

○男爵松平正直君 直ニ第三讀會ヲ…

〔二讀會ダト呼ブ者アリ〕

直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

〔贊成ト呼ブ者アリ〕

○男爵伊達宗敦君 私ハ反對デアリマス、直ニ第二讀會ヲ開クト云フニハ異  
議ガアリマス、即チ反對デアリマス、ナゼナレバ此案ハ唯今廣澤伯爵尾崎男  
爵カラモ御質問ガアリ、實ハ自分ノ勝手ヲ申ス譯デハ無イガ、私ナドハ鐵道  
國有法案ノ委員デ、其方ニバカリ行ツテ居ッテ此案ハ見ルコトモ出來ヌ、併シ  
松平男爵ノ如キハ委員デアッテモ、其間ニ於テ委員會ヲ催サレタノデアリマセ  
ウガ、或ハ鐵道國有法案ノ委員ノ人ハ之ヲ御覽ニナラヌ方モアラウト思ヒマ  
スカラ、今日唯今第二讀會ヲ開クト云フコトハ私ニ於テハ不同意デアリマス、  
サリナガラ成規ノ日數ト云フモノモアリマセヌカラ、願ハクハ是ハ此日程ノ  
終リニ於テスルト云フコトニシタイト思ヒマス、直ニ二讀會ヲ開クト云フコ  
トニハ不同意デアリマス

○男爵尾崎三良君 本員モ伊達男爵ノ御說ニ同意ヲ致シマス、實ハ私モ甚ダ

不勉強デアッタカ知レマセヌガ、十分ニ是マデ調査ヲ致シテ居リマセヌカラ、直ニ二讀會ヲ開クト云フコトハ迅速スギハシマセヌカ、餘リ輕卒デハアリマスマイカ、斯ノ如キ數箇條アルモノヲ、隨分是ハ經濟ノ上ニ影響ヲ及ボス重  
大ノモノデアル、是ガ一箇條ヤ二箇條ノモノデアレバ格別デアリマスケレド  
モ、斯ノ如キ重大ノモノヲ今見テ直グ二讀會ヲ開クト云フ旨ラ滅法ナコトハ  
甚ダ是ハ本院トシテ慎ムベキコトト思ヒマスカラ、伊達男爵ノ二讀會ヲ先キ  
ニ延バスト云フコトハ至極宜カラウト思ヒマスカラ、贊成イタシマス

○關義臣君・伊達男爵竝ニ尾崎男爵ノ說ニ贊成デアリマス

○平山成信君 私ハ松平男爵ニ贊成ヲ致シタノデアリマスガ、唯今伊達男爵  
ノ仰シャル注意ハ御尤デアリマスガ、何シロ是ハ大キナ法律デアリマシテ、  
到底之ヲ十分ニ調査スルニハ二日三日アッタ所ガ出來ナイノデアリマス、大  
體ニ於テ此法律ハ如何ニモ重要ノ關係ヲ持ッテ居リマシテ、現行ノ關稅定率  
ニ比スレバ大ニ改良シテアッテ、縱シヤ其中ニ一二ノ缺典ガアッタ所デ、今日  
ノ場合之ヲ通過シテ置クト云フコトハ甚ダ必要デアルト思ヒマス、縱シ之ヲ  
所ガ到底十分ニ御覽ニナルコトモ出來ナイノデアルカラ、寧ロ是ハ直ニ二讀  
會ヲ開キ二讀會ガ濟ミマシタラ、三讀會ヲ開イテ通過ニナッタ方ガ宜カラウ  
ト思ヒマス

○子爵谷干城君 私モ平山君ノ御說ニ贊成イタシマス、私ハ關稅ノコトニ付

テハ非常ニ頭ヲ惱ンデ居ルコトデアリマス、甚ダ是ハ十分デナイ、不満足ノ  
所モアルケレドモ先づ一步進ンダ所デ悚ヘルヨリホカ仕方ガ無イ、又私ドモ  
ハ見テ居ル、實ハ其所此所一通リ眼ヲ通シテ居リマス、ソコデ一人ヤ二人御  
覽ニナラヌ方ガアルカラト言ツテ之ヲ延バスト云ウテハ是亦日モ足ラヌ、速  
ニ御採決ニナルコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 伊達男爵ニ議長ハ伺ツテ置キタイト思ヒマス、唯  
今直ニ二讀會ヲ開クト云フ說ニ御反對ノヤウニ議長ハ伺ヒマシタガ、伊達男  
爵ハ本日中ニ開クト云フ御意見デゴザイマシタカ、ソコヲ確メテ置キタイ  
○男爵伊達宗敦君 私ノ申シタノハ能ク御分リデナカツタカモ知レマセヌガ、  
謂ハユル直ニト云フコトニ反對デアル、直チニデ無ク多少ノ時間ヲ與ヘラ  
レテ、不敏ナル私ノ如キ者デモ此案ヲ幾ラカ合點シ得ルダケノ餘裕ヲ與ヘラ

レタイト云フ希望デゴザイマス、サウデナケレバ之ニ賛成モ反対モ出來ナイ  
コトニナツテ仕舞ヒマス、ソレハ私ガ怠慢ノ爲カト云ヘバ必シモ本員ノ怠慢  
バカリデナク、過日來ノ委員會ノ爲ニ此案ノ調査ノ暇ガ實際無カッタノデア  
ル、ソレガ故ニ願ハクハ成規ノ日數ト申シタイケレドモ、ソレハ無理ナ注文  
デ、成規ノ日數ハアリマセヌカラ、此議事日程ノ終ヒニ於テ議セラレルト云  
フ位ナコトニナツタラ、幾ラカ案ヲ見ルコトガ出來マスカラ、願ハクハ左様  
イタシタイト思ヒマス

○侯爵細川護成君 谷子爵ニ賛成デス

○議長(公爵徳川家達君) 松平男爵ノ直ニ第二讀會ヲ開クト云フ動議ニ賛成  
ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第二讀會ヲ開キマス、兩案共ニ全部ヲ問題ニ  
供シマスニ、兩案トモ特別委員長ノ報告ヲ可トセラル、諸君ノ起立ヲ請ヒマ  
ス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス、是デ第二讀會ハ終リマシタ  
○男爵松平正直君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

〔「賛成」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 松平男爵ノ直チニ第三讀會ヲ開クト云フ説ニ賛成  
者ガゴザイマスカラ採決ヲ致シマス、直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイ  
マセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通り  
御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八ニ移リマス、鐵道國有法案、政府提  
出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

鐵道國有法案

右別冊ノ通リ修正セリ依テ及報告候也

明治三十九年三月二十六日

右特別委員長  
侯爵黒田長成

貴族院議長公爵徳川家達殿

鐵道國有法

第一條 一般運送ノ用ニ供スル鐵道ハ總テ國ノ所有トス但シ一地方ノ交通  
ヲ目的トスル鐵道ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 政府ハ明治三十九年ヨリ明治四十四年迄ノ間ニ於テ<sup>(八)</sup>左ニ掲タル  
私設鐵道株式會社所屬ノ鐵道ヲ買收スヘシ

- |               |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            |
|---------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 一 北海道炭礦鐵道株式會社 | 一 日本鐵道株式會社 | 一 岩越鐵道株式會社 | 一 北越鐵道株式會社 | 一 甲武鐵道株式會社 | 一 川越鐵道株式會社 | 一 總武鐵道株式會社 | 一 成田鐵道株式會社 | 一 上武鐵道株式會社 | 一 東武鐵道株式會社 | 一 房總鐵道株式會社 | 一 豆相鐵道株式會社 | 一 水戸鐵道株式會社 | 一 七尾鐵道株式會社 |
|---------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|

〔小字ハ修正ノ削除ノ符號〕

一 中越鐵道株式會社  
一 豊川鐵道株式會社  
一 關西鐵道株式會社  
一 尾西鐵道株式會社  
一 近江鐵道株式會社

一 參宮鐵道株式會社  
一 京都鐵道株式會社  
一 南海鐵道株式會社  
一 西成鐵道株式會社  
一 高野鐵道株式會社

一 河南鐵道株式會社  
一 阪鶴鐵道株式會社  
一 山陽鐵道株式會社

一 中國鐵道株式會社  
一 德島鐵道株式會社  
一 九州鐵道株式會社

一 博多灣鐵道株式會社

○タル各會社ハ他ノ私設鐵道株式會社ト合併シ又ハ他ノ私設鐵道株式會社ノ鐵道株式會社ニシテ本法發布ノ日ニ於テ未タ運輸

ヲ買收スルコトヲ得ス  
ヲ開始セザルモノモ亦前條ノ規定ニ準シテ之ヲ買收スルコトヲ得

第三條 前條ニ掲ケタル各鐵道買收ノ期日ハ政府ニ於テ之ヲ指定ス

第四條 政府ハ兼業ニ屬スルモノヲ除クノ外買收ノ日ニ於テ會社ノ現ニ有スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株主ニ對スル權利義務、拂込株金ノ支出殘額並收益勘定、積立金勘定及雜勘定ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラ

第五條 買收價額ハ左ニ掲タルモノトス

一 會社ノ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ六營業年度間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乗シタル額ヲ二十倍シタル金額

二 貯藏物品ノ實費ヲ時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シタル金額但シ借入金ヲ以テ購入シタルモノヲ除ク

前項第一號ニ於テ益金ト稱スルハ營業收入ヨリ營業費、賞與金及收益勘定以外ノ諸勘定ヨリ生シタル利息ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合ト稱スルハ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ每營業年度ニ於ケル建設費合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノノ二倍ヲ謂フ

第六條 借入金ハ建設費ニ使用シタルモノニ限り時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

會社カ鐵道及附屬物件ノ補修ヲ爲サヌ又ハ鐵道建設規程ニ依リ期限内ニ改築若ハ改造ヲ爲サナル場合ニ於テハ其ノ補修、改築又ハ改造ニ要スル金額ハ前項ノ例ニ依リ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

第七條 資本勘定ニ屬スル支出ハ借入金ヲ以テシタルモノヲ除クノ外順次ニ建設費及貯藏物品ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做ス

借入金ノ支出ハ前項ノ支出ノ後ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第八條 會社カ明治三十八年前半期ノ營業年度末ニ於テ運輸開始後六營業年度ヲ經過シタル線路ヲ有セザル場合又ハ第五條第一項第一號ノ金額カ建設費ニ達セザル場合ニ於テハ政府ハ其ノ建設費以内ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ第五條第一項第一號ノ金額ニ代フ

第九條 左ニ掲タル場合ニ於テハ政府ハ審查委員ヲシテ決定ヲ爲サシムヘシ

一 權利義務ノ承繼ニ關シ又ハ計算ニ關シ會社ニ於テ異議アルトキ二 前條ノ場合ニ於テ協定調ハサルトキ

○對シ不服アルトキハ會社ハ主務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

審查委員ノ決定。ハ終局トス

審查委員ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 買收ノ執行ハ審查委員ノ審査中ト雖之ヲ停止セス

第十一條 會社カ買收ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ解散ノ登記ヲ登記所ニ嘱託スヘシ

第十二條 買收代價ハ買收ノ日ヨリ二箇年以内ニ於テ券面金額ニ依リ五分利付公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ之ヲ五十圓トス

會社殘餘財產ノ分配ハ前項公債證書ヲ以テス  
買收後公債證書ノ交付ヲ終ル迄ニ要スル清算人ノ職務ニ關スル會社ノ費用ハ命令ノ定ムル所ニ  
依リ政府之ヲ支拂ス  
第十三條 政府ハ買收ノ日ヨリ公債證書交付ノ日ニ至ル迄買收價額ニ對シ  
一箇年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ヲ從前ノ決算期毎ニ會社ニ交付ス  
ヘシ

前項ニ依リ交付シタル金額ハ清算中ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ株主  
ニ配當スルコトヲ得

第十四條 政府ハ鐵道買收ノ執行ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行ス  
第十五條 政府ハ前條ニ依リ發行シタル公債及第四條ニ依リ承繼シタル債務ノ整理ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ利率、募集ノ方法、規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 前二條ノ公債ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外  
整理公債條例ヲ適用ス

第十七條 第五條第一項第二號及第六條ニ規定シタル公債時價ハ買收期日前六箇月間ニ於ケル帝國五分利公債ノ平均相場ニ依ル

第十八條 買收ヲ受クヘキ會社カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬スル資產ヲ併セテ買收スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル

#### 附 則

第二條ニ掲タル會社ノ<sup>。本法發布</sup>明治三十九年二月一日以後ニ於ケル貯藏物品ノ購入、建設費<sup>ノ増加ヲ</sup><sub>減</sub>生スヘキ施設及債務ノ負擔ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケサルモノニ付テハ政府之ヲ承繼セス但シ政府ハ<sup>。其ノ</sup>價額ヲ査定シ<sup>。又ハ相當ノ補償ヲ徵シテ</sup>テ之ヲ承繼スルコトヲ得

〔侯爵黒田長成君演壇ニ登ル〕

○侯爵黒田長成君 是ヨリ鐵道國有法案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告イタ

シマス、此委員會ハ去ヌル二十日ニ第一回ノ委員會ヲ開キマシテ、爾來五回

ノ委員會ヲ開キマシタ、此委員會ハ近來稀ナル多數ノ委員ニアリマシテ、十分政府ニ對シテ質問モ致シ、政府ノ方ヨリモ十分ノ答辯ガアリマシタ、其上、委員外トシテ柳澤伯爵、廣澤伯爵及西村君ヨリモ委員會ニ於テ質問モ致サレマシタ、ソレヽヽ委員諸君ハ熱誠ヲ以テ種々ノ質問ヲ細密ナル點ニ亘ルマデ

モ試ミラレタノデアリマス、其詳細ノ點ニ付キマシテハ速記録ニ讓リマシテ、茲ニハ贊否兩論者ノ要點ヲ諸君ニ御報告イタシマス、先づ反對論ノ要點ハ、

今日ハ鐵道ヲ國有ニスルノニハ時機ガ適當デ無イト云フノデアリマス、近年我國ノ財政上ノ有様ヨリ、又經濟上ノ情況ヨリ考ヘテモ、今日多大ノ國債ヲ負テ居ル場合ニ於テ更ニ又鐵道ノ爲ニ多額ノ公債ヲ發行スルノハ内外ニ對シテ我公債ノ價格ヲ下落セシムル虞ガアッテ、大ニ經濟上ニ影響ヲ及ボスコトデアル、其上此鐵道ノ買收ノ方法ニ付テモ私設鐵道法ニ依ルト云フト、政府ハ或ル約束年限ノ後ニ買收スル所ノ權利ヲ持ツテ居ルニモ拘ラズ、其約束年限ノ以内ニ於テ強制的ノ方法デ之ヲ買收スルト云フコトハ即チ人權ヲ蹂躪スルノデアッテ、内外ニ其信用ヲ失フコトガ大ナルモノデアル、且鐵道ヲ統一スルコトハ必ズ國有ニシナイデモ、政府ガ之ヲ監督スル權利ヲ持ツテ居ル以上ハ、十分今日ノ儘デモ運轉ノ妙ヲ得ルコトガ出來ル、必シモ國有ニシナイデモ宜シイ、其他此國有ニ付テ絶對的ニ反對ノ論者モアリマシタ、ソレハ畢竟營利的ノ事業ト云フモノハ專ラ民業ニ委ネテ宜シイノデアッテ、政府ガ是非之ヲ經營シナクテモ宜シイ、サウ云フ根本的ノ反對モアリマシタ、併シ此論ハ餘リ多數デハ無カツタヤウニ見受ケマス、ソレカラ本案ニ賛成ノ諸君ハ鐵道ト云フモノハドウシテモ統一シナケレバ、軍事上、生產上ノ發達ヨリ見テモ甚ダ不利益ナモノデアッテ、鐵道ト云フモノハドウシテモ性質上、統一的ノ制度ニ依ラナケレバ國家ノ爲ニ不經濟デモアリ、且不便デモアル、ソレデ之ヲ統一スル以上ハドウシテモ國有ニシナケレバ十分其目的ヲ達スルコトハ難イ、且今日ハ鐵道ヲ買收スルノニ時機ハドウデアルカト云ヘバ、至極適當デアラウ、是カラ先キニナレバ段々私設會社モ膨大スルヤウニナル、一日後ルレバ一日後ル、ダケ買收ニ困難ヲ來タスヤウニナルカラシテ、會社ガ餘リ大キクナラヌ中ニ、成ルベク買收ノムヅカシク無イ間ニ、之ヲ買收スルコトハ宜シカラウ、或ル人ハ公債ノ増發ト云フコトヲ大變ニ心配スルケレドモ、成ルホド五億ニモ近イ公債デハアルガ、之ヲ長イ年月ニ割當テテ、發行

スルノデアルカラシテ、經濟界ニ及ボス所ノ劇變モ少ク、公債ノ價格ニモ非常ナ影響ヲ及ボスコトハアルマイ、其上、公債デ鐵道ヲ買收スルノニハ、鐵道會社ノ株券ガ唯政府ノ公債ト變ッタダケノコトデ、一國ノ經濟ノ大局上カラ見タトキニハ大シタ變化ノ無イモノデアツテ、公債ノ增發ト云フコトハ鐵道ノヤウナ生産的ノ公債デアツテ見レバ、發行ノ數ガ多クナツテモ、サウ心配スルニハ及ブマイ、ソレカラ此買收ノ方法ニ付テモ、約束ノ年限内ニ強制的ニ買收ヲ行フト云フコトハ人權ヲ蹂躪スルノデアルト言フケレドモ、元來此約束年限ト云フモノモ元ト法律ヲ以テ附與セラレタモノデアル以上ハ、更ニ法律ヲ以テ之ヲ變ヘテモ敢テ不當デアルトハ言ヘナイ、或ハ不穩當トハ言ヘルカモ知レナイガ、國家ノ必要上已ムヲ得ナイ場合ニハ變更シテモ差支ナイ、且此法案ニ依ルト買收ノ價額ハ此約束ノ年限内ニ買收スルノデアルカラシテ、本案ニ於テ幾分カ賠償ノ趣意ヲ含マセテアルノデ、私設鐵道法ニ依ル所ノ買收價額ヨリモ此法律ニ依ル所ノ買收價額ノ方ガ會社ノ爲ニ餘ホド都合ノ宜シイヤウニ出來テ居ル、此利益ト云フモノハ幾分カ賠償ノ意味ヲ含ンデ居ルモノデアル、ソレ故ニ強チニ人權蹂躪デアルト斷言スル譯ニハ行クマイ、先ヅ贊否ノ大體ノ論ハ右申シタ様ナ次第デアリマス、其他種々ナ議論モ出マシタガ、大要ハ今申述ベタ數點ニ止マルト思ヒマス、ソレデ此大體ノ討議ヲ終リマシテ、可否ヲ起立ニ問ヒマシタ所ガ、八名ニ對スル十六名ノ多數デ、本案ノ大體ヲ可トシテ逐條ノ審議ニ移ルコトニナリマシタ、ソレカラ逐條ノ審議ニ移リマシタ所ガ、正親町伯爵カラ此全體ニ互ツテ修正意見ヲ提出ニナリマシタ、ソレデ會議ノ進行ノ便利ノ爲ニ委員長ノ指名ヲ以テ小委員ヲ七名選ビマシテ、サウシテ修正案ヲ議セシムルコトニナリマシタ、其七名ハ正親町伯爵、德川伯爵、曾我子爵、堀田子爵、有地男爵、古市君、藤田君ノ七人デアリマス、ソレカラ間モ無ク小委員ヨリ修正案ノ提出ガアリマシテ、續イテ委員會ヲ開イテ逐條ノ審議ヲ致シテ、遂ニ修正案ノ通リニ多數ヲ以テ可決イタシマシタ、ソレデ此修正案ノ大要ヲ一通り申上げテ置キマス、第二條ノ「明治四十四年」ト云フノヲ四十八年マデ延バ、コトニナリマシタ、是ハ成ルベク經濟上今日ハ隨分困難ナ時デモアルカラシテ、公債ノ發行ヲ緩カニシヤウト云フ趣意カラシテ十年間ニナツタノデアリマス、「本法ノ規定ニ依リ」ト云フコトヲ入レマシタノハ十年延バシタ結果、私設鐵道法デ買ハル、モノモ此中ニ這入りマスカラシテ、私設鐵道法ニ依ッテ買收サル、カ、本案ニ依ッテ買

收サル、カト云フ區別ヲ明カニスル爲ニ本法ニ依ッテ買收スルト云フコトヲ入レタノデアリマス、ソレカラ會社ノ數ヲ十七ニ致シテ、アトノ十五ヲ削除イタシマシタノハ、其標準トスル所ハ重キニ鐵道敷設法ノ豫定線ニ屬スル分ヲ取ツテ、其他ニ三必要ナルモノヲ附加ヘタノデアリマス、從ツテ末項ノ私設鐵道株式會社ニシテ未ダ運輸ヲ開始セザルモノト云フコトハ、前ノ修正ノ結果ニ依ッテ當然削除ニナリマシテ、其代リニ各會社ハ他ノ會社ト合併シタリ又他ノ會社ノ鐵道ヲ買收スルコトハ出來ナイト云フ規定ヲ設ケテ、合併若クハ買收ノ弊ヲ防イダノデアリマス、ソレカラ第八條ノ末項ヲ削除イタシマシタノハ、是ハ第二條ノ二項ヲ削除イタシマシタ當然ノ結果デ、斯ウ云フコトニナリマシタ、ソレカラ第九條ノ審查委員ノ決定ヲ終局ト致シテアリマスノヲ、此決定ニ對シテ不服アルモノハ訴願ガ出來ルト云フコトニ致シマシテ、訴願ノ途ダシカヘ開イタ方ガ相當デアラウト云フ所カラ、訴願ヲ許スコトニナリマシタ、ソレカラ第十二條ノ「二箇年」ト云フノヲ「五箇年」ニ延バシマシタノハ、矢張リ前申シタ所ト同一ノ趣意ニ依ッテ、成ルベク緩カニ公債ヲ渡シテ市場ヲ攪亂シナイ方ガ宜シカラウト云フ趣意カラ三年延バスヤウニナツタノデス、此終ヒニ一項設ケマシタノハ五箇年ト云フコトニ修正ガナルト云フト、清算人ノ職務ニ關スル會社ノ費用ト云フモノハ、會社ガ其間負擔スルノハ餘リ酷デアラウ、是ハ政府ガ支辨スルガ宜シカラウト云フコトデ、斯ウ云フコトニナリマシタ、此第十二條ノ結果トシテ其金額ヲ取調ベテ見レバ、政府ノ答フル所ニ依レバ、大凡十七八萬圓デ足ルト云フコトデアリマス、ソレカラ附則ノ所ニシタ、ソレデ會議ノ進行ノ便利ノ爲ニ委員長ノ指名ヲ以テ小委員ヲ七名選ビマシテ、サウシテ修正案ヲ議セシムルコトニナリマシタ、其七名ハ正親町伯爵、德川伯爵、曾我子爵、堀田子爵、有地男爵、古市君、藤田君ノ七人デアリマス、ソレカラ間モ無ク小委員ヨリ修正案ノ提出ガアリマシテ、續イテ委員會ヲ開イテ逐條ノ審議ヲ致シテ、遂ニ修正案ノ通リニ多數ヲ以テ可決イタシマシタ、ソレデ此修正案ノ大要ヲ一通り申上げテ置キマス、第二條ノ「明治四十四年」ト云フノヲ四十八年マデ延バスコトニナリマシタ、是ハ成ルベク方ガ宜シイ、間違ノ無イヤウニスル方ガ宜イカラト云フノデ「増減」ト云フコトニナリマシタ、「價額」ト云フコトガ「其ノ額ヲ査定シ」ト云フコトニナリマシタノハ、貯藏物品ノ購入、建設費ノ増減ト云フノハ宜シウザイマスガ、債務ノ負擔ノ價額ト云フノハ、ヲカシク聽エマスカラ「其ノ額」ト云フコトニ改メマシタ、「又ハ相當ノ補償ヲ徵シテ」ト云フコトヲ入レマシタノハ今ノ増減ノ減ズル方ヲ入レマシタノハ當然ノ結果、此句ヲ挿ンデ賣却ノ場合ニ價ヲ詐ル憂ガアリマスカラ、ソレヲ防グ爲ニ斯様修正ニナリマシタ、終リニ一言

附加ヘテ置キマスガ、曾我子爵カラシテ第五條ノ次ニ會社ノ權利ノ補償ノ爲ニ條文ヲ設ケテ、強制的デナク協定ニ依ツテ權利ノ補償ヲセシメヤウ、ソレハ約束年限以内ニ買收セラル、モノガアルカラシテ、權利ノ補償ヲ設ケタ方ガ宣カラウト云フノト、第十二條ノ券面金額デ交付スルノハ穩カデナイ、是ハ矢張リ時價ニ依ツテ換算スル方ガ公平デアルト云フ論モ、小委員ノ會議ノ時ニ出タサウデアリマスガ、初ノ點ニ付テハサウ云フ風ニナルト本案ノ大體ノ性質モ變リ、且ツ金額モ殖エテ來ルカラシテ、サウ云フコトハ加ヘナイ方ガ宜シカラウ、其上、本案ニ依レバ私設鐵道法ニ依ルヨリモ買收ノ價額ノ割合ハ宜クナツテ居リマスカラシテ是ニハ贊成ガ出來ヌト云フノガ多數デ、此說ガ容レラレナカッタノデゴザイマス、ソレカラ公債ニ就テハ券面金額ヲ時價デ渡スト云フコトニナルト、サウナルト買上價額ノ一體割合ガ宜シイカラシテ、餘リソレデハ金額モ宜シ、ソレ程ニスルニハ及ブマイト云フノデ、矢張リ是ハ券面ニ依ツテ渡シテ差支ナイト云フ方ガ多數デ此說モ容レラレナカッタノデアリマス、唯斯ウ云フ說ガ出タト云フコトダケヲ御耳ニ入レテ置キマス、最後ニ委員ノ中ヨリ政府ニ向ツテ此修正案ニ付テハ政府ハ同意デアルカ、不同意デアルカト云フコトヲ確メマシタ所ガ、政府ハ無論原案ヲ飽クマデモ維持スル考デアッテ、修正案ニハ應ジ兼ネル、四十四年ヲ四十八年ト云フコトニスルノハ益期限ガ長過ギル譯デアルカラ、是ニハ不同意デアル、且ツ會社ノ數ヲ斯ク減少スルノハ政府ノ本旨デナイ、政府ニ於テハ此原案ニ連ネタルモノヲ皆入レテ、假令小會社デアッテモ之ヲ加ヘテ統一スル方ガ適當デアルト政府ハ思フ、斯ウ云フコトデアリマス、併ナガラ委員會ニ於テハ大多數ヲ以テ此修正案ノ通り決シタノデアリマス、是ハ申スマデモナイ重要ナ問題デアリマスカラシテ、諸君ニ於カレテハ十分御審議ニナツテ御決シアラムコトヲ希望イタシマス、報告ハ是ニ止メマス

○村田保君 委員長ニ少々伺ヒタイ、成ルホド委員諸君ノ御盡力ニ依リマシテ此十五ノ鐵道ト云フモノハ削除ニナリマシタカラ、餘程ソレダケノ買收價格ガ減ジマスルカラ、誠ニ結構トハ存ジマスガ、併ナガラ此十五鐵道ヲ除キマシテモ矢張リ鐵道國有デアリマセウカ、ソレヲ伺ヒタイ、私ハ是デハ鐵道國有デハナカラウ、國有ノ精神ハ滅ビテ仕舞ツタモノデアラウト思フ、全國ノ鐵道ヲバ政府ガ買上グマスレバ成ルホド鐵道國有デゴザイマセウガ、此理由書ニモゴザイマス通り鐵道ト云フモノハ國家ノ事業、ソレ故ニ全國ノ鐵道

ヲ残ラズ買上ゲルト云フ趣意デアリマスカラ、ソレデ鐵道國有ト言ハレマセウガ、斯ク少數ニナリマシテモ矢張リ鐵道國有デゴザイマセウカ、ソレヲ伺ヒタイ、ソレカラ此第二條ノ四十四年ヲ四十八年ニ御修正ニナツタ、又第十二條ノ二年ガ五年ニ御修正ニナツテ三年延ビマシタ、是ハ誠ニ結構ノヤウニ存ジマス、ソレダケ年限ガ延ビマスルカラ宣イヤウデゴザイマスケレドモ、是ナラヌカト云フ解釋ハ本員ハ出來ナイ、ソレマデノ間ニ政府ガヤルノデアルカラ、例ヘバ今年中ニヤツテモ或ハ宜イカモ知レナイ、三十九年カラ四十八年マデノ間、又アトハ二箇年以内ヲ五箇年以内ト云フノダカラ、或ハ五箇年以内ト云ヘバ、一箇年ニヤツテモ宜イ、矢張リ第二條モ其通リニ四十四年マデノ間ニスルノデスカラ、其間デスカラシテ、或ハ四十二年ニヤツテモ是ハ決シテ小言ハ言ヘマイト思フ、本員ハサウ解釋シマスガ、コレハ是非四十四年マデニシナケレバナラスト云フコトハ本員ハ能ク解釋ヲシナイ、政府ニソレダケハ萬々ガ一ノ場合ニ、或ハ一箇年二箇年ノ間ニハ買收ガ覺束ナイ、ソレ故ニ四十四年マデノ間ニスルト云フ猶豫ヲ興ヘタモノデハナイカト本員ハ考ヘル、丁度例ヘバ株式ノ拂込モイツマデノ間ト云ヘバ其間ハイツ、サシテモ同ジコトデアラウ、ソレト同ジ譯デハナイカト思ヒマスカラシテ、是ハ修正ニナリマシタケレドモ、格別精神ニ於テ違ヒハナイト本員ハ考ヘル、ソレカラ尙ホ委員會ニ於テ斯ウ云フコトハ御尋ニナツテ居リマセヌデゴザイマセウカ、三十九年度ニ於テ政府ガ、成ルホド會社ノ名前ヲ指スコトハ出來マ收スル御見込デアルカト云フコトヲ御尋ニナツテ居リマスカ、ナツテ居リマセヌカ、ソレヲ序デニ伺ヒタイ、其他ノコトハゴザイマスケレドモ、先ヅ本員ハ是ダケヲ御尋ネ申ス、ソレカラ是ハ其委員諸君ニ御尋ネシタイ、本員ハ委員會ニモ臨ミマセヌデゴザイマスガ、風聞ニ承ツテ見マルト、此案ニ就キマシテハ政府ハドウモ趣意ガ一定シテ居ラヌ、政府ノ答辯ガ前後矛盾ヲシ或ハ甚ダ曖昧ナコトガアル、甚ダ趣意ガ一定シナイ、即チ政府ノ中ニモ一定シナイモノヲ出サレルト云フコトハ如何ナモノデアラウカト本員ナドハ甚ダ不安ニ思ツテ居ル、ソレ故ニ承リマスル所デ見マルト、曾我子爵或ハ伊達男爵アタリノ質問ノトキハ、始終趣意ガグラ／＼シテ居タト云フヤウナコトヲ承ツテ

居リマスガ、ソレラモドウカ若シ事實ソンナコトガゴザイマシタナラバ序デ  
ニ是ハ委員ノ御方ニ伺ヒタイ

○侯爵黒田長成君 村田君ニ御答イタシマスガ、會社ノ數ヲ十七ト限ッテモ  
國有ト云フコトガ言ヘルカト云フ御問ハ、元ト地方ノ交通ヲ目的トスル所ノ  
鐵道ハ此限ニ在ラズト云フコトハ第一條ニモ斷ッテアル、ソレデ重モナ鐵道

ダケニ止メタノデアリマスカラ、是ハ矢張リ國有ト云フコトハ言ヘルト私ハ  
思ヒマス、併シ其事ハ銘々ノ見込ニアラウト思ヒマスガ、本員ハ國有ト云フ  
コトヲ申シテモ差支ナイト考ヘマス、ソレカラ年限ノ所ヲ四十四年ヲ四十八  
年ニシ、二年ヲ五年ニシテモ格別ノ相違ハアルマイト云フノハ、是ハ村田君  
御一個ノ御意見トシテ拜聽シタノデアリマスガ、折角ノ御問デアリマスカラ

委員ノ見ル所ヲ御答イタシテ置キマスガ、是ダケ年限ヲ緩メレバソレダケ矢  
張リ買收スルノニ、ユトリガ取レルノデアリマスカラ、市場ヲ攪亂スル憂ガ少  
イト云フコトニ委員ハ認メテ居リマス、ソレカラ、三十九年ニハドウ云フ鐵  
道ヲ買收スルカト云フコトハ、別段委員會ニ於テ質問ハ無カッタヤウニ記憶

シマス、其他委員ニ向ツテ政府ノ答辯ノ模様ヲ御問ヒニナリマシタガ、成ル  
ホド初ハ區々ニ聽エタヤウデアリマシタガ、結局政府ノ趣意ノアル所ハ分ッタ  
ノデ、ソレユエ委員ノ多數ハ斯ノ如キ修正案デ大體ヲ決シタ次第デアリマス、  
ソレダケ御答イタシマス

〔男爵尾崎三良君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 休憩ヲ致シマス

午前十一時五十一分休憩

マス

〔小原書記官朗讀〕

午後二時二十一分開議  
關稅定率法改正法律案

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ午後ノ會議ヲ開キマス、報告ヲ申上ゲマス  
事ガゴザイマス

〔小原書記官朗讀〕

關稅定率法改正法律案

右案ニ付本院ハ貴院ノ議決ニ同意セサルコトニ決議セリ因テ議院法第五十  
五條ニ依リ兩院協議會ヲ開クコトヲ請求候也

明治三十九年三月二十七日

衆議院議長杉田定一

本院ハ關稅定率法改正法律案協議會委員ノ數ヲ十名ト爲スニ決セリ此段反  
通知候也

明治三十九年三月二十七日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵德川家達殿  
本日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ公民權及議員選舉權被選舉權ニ關スル法  
律案

○議長(公爵德川家達君) 唯今御聽キノ通リ衆議院ヨリ協議會ノ要求ガゴザ  
イマシタ、協議委員ノ選定ハ唯今致ス方ガ宜シカラウト存ジマスガ、御異存  
ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、ソレカラ其協議委員ノ指  
名ハ議長ニ御任セニ相成リマスカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマスカラ直ニ議長ガ選定ヲ致シ  
マス

〔小原書記官朗讀〕

關稅定率法改正法律案兩院協議會協議委員

伯爵正親町 實正君	辻 新次君	男爵松平 正直君
平山 成信君	男爵吉川 重吉君	男爵本多 政以君
西村 亮吉君	南郷 茂光君	藤田 四郎君
廣海 二三郎君		

○議長(公爵德川家達君) 尾崎男爵ハ何デスカ  
○男爵尾崎三良君 此鐵道國有法案ニ付テ質問ヲ致シタウゴザイマスガ、宜  
シウゴザイマスカ、何カ其間ニアリマスカ

○議長（公爵徳川家達君） 通告順ニ依リマシテ登壇ヲ促シマス、桑田熊藏君

〔男爵尾崎三良君〕質問ヲ致シタウゴザイマスガ、マダ質問ガ盡キヌ  
ト思ヒマスカラ質問ハ如何デスカ、御許シニナリマセヌカ」ト述ブ」

○議長（公爵徳川家達君） 桑田熊藏君ニ登壇ヲ促シマシタ

〔男爵尾崎三良君〕「ソレデハ質問ハイツ致シタラ宜シウゴザイマス  
カ、ソレヲ一ツ伺ヒタイ」ト述ブ」

〔桑田熊藏君演壇ニ登ル〕

○桑田熊藏君 本員ハ是ヨリ鐵道國有法案ニ對スル反對意見ヲ申述ベタイト  
考ヘマス、鐵道ト云フモノハ本來ノ性質カラ考ヘマスルト云フト、國有ニス  
ベキモノデアルト云フコトニ於テハ最早異論ハ無イノデアル、本員モ矢張リ  
鐵道國有論者デゴザイマス、併ナガラ本案ニ對スル贊否ヲ決スルニ當ッテハ  
唯鐵道國有ノ可否ヲ理論上カラ、學理上カラ、研究イタシマシタノデハ、不  
十分デアリマスカラ、之ヲ日本ノ財政ノ現狀ニ訴ヘテ、果シテ國有ニスベキ  
時機デアルカ無イカト云フコトヲ考ヘ、又此法案ノ内容トナッテ居ル所ノ鐵  
道ノ買上方法ガ果シテ至當デアルカ無イカト云フコトヲ考ヘテ、本問題ニ對  
スル贊否ヲ決シタイト考ヘマス、此二條ノ研究ノ結果ト致シマシテ、私ハ鐵道  
國有論者タルニ拘ラズ茲ニ本案ニ對シテ反對ノ意思ヲ表明セヌケレバナリマ  
セヌ、本案ニ對スル政府ノ調査ハ甚ダ杜撰デアル、甚ダ不十分デゴザイマス、  
政府委員ノ答辯モ如何ニモ要領ヲ得ナイ、聽ケバ聽クホド分ラナクナルノハ  
本案デアル、唯我學界ノ先輩トシテ崇拜イタシテ居リマスル所ノ大藏大臣ノ  
御説明ハ多少見ル價值ガゴザイマスカラ、先ヅ大藏大臣ノ御説明ニ向ッテ一矢  
ヲ酬イヤウト考ヘマス、大藏大臣ハ曰ク、戰後ノ經營トシテ民力ノ發展ヲ圖  
ルニ付テハ商工業ノ擴張ヲ必要トスル、殊ニ又滿韓地方ニ對シテ我日本ノ商  
權ノ擴張ハ最モ戰後ノ經營トシテ必要ノ事デアル、トスウ云フ論據カラ商權  
ノ擴張、貿易ノ擴張ノ方法トシテハ生産費ヲ減ズルノ必要ガアル、生産費ヲ  
減ズルノ必要カラシテ運賃ヲ低廉ニスルノ必要ガアル、運賃ヲ低廉ニスルガ  
爲ニハ鐵道ヲ國有ニセヌケレバイカヌ、トスウ云フ御論カラ大藏大臣ハ本案  
提出ノ理由ヲ述ベラレマシタ、然ルニ大藏大臣ノ此御意見ハ運賃ノ低減ガ主  
タル目的デアル、本案ノ主タル目的デアルト云フ、斯ウ云フ御考デアリマス  
ノニ、遞信省ノ調查ニ係ル所ノ鐵道公債償還表、即チ諸君ノ御手許ニゴザイ  
マスル所ノ鐵道公債ヲ償還スルト云フ其統計ガゴザイマス、此表ニ依テ見マ

スト云フト、經費ノ節約ガ幾ラ幾ラアル、約百幾万アル、此經費ノ節約ト云  
フモノハ是ハ公債ノ元利ノ償還ニ充テル計算ニナツテ居ッテ、此計算表ニ於テ  
ハ少シモ餘裕ハ無イ、即チ運賃ノ低減ヲ圖ルベキ餘裕ハ少シモ此計算ニハ見  
エテ居ラナインデアル、ソコデ私ハ委員會ニ於テ遞信省ノ政府委員ニ此點ヲ  
質問イタシマシタ所ガ、遞信省ノ政府委員平井君デゴザイマシタカ、答ヘテ  
曰ク、統一ノ結果トシテ生ズベキ經費ノ節約ハ強チ此表ニアルバカリデ無  
イ、此以上ニ幾ラモアル、此計算ニ現ハレナイ所ノ節約額ヲ以テ運賃ノ低減  
ヲ行フト、斯ウ云フ御説明デアッタ、諸君、政府ガ責任ヲ負ウテ議會ニ發表シ  
タル所ノ其調査表ニ經費ノ節約スペキモノガアレバ、是ハ十分ニ見積ッテ出  
スノハ是ハ常識デアル、然ルニ此經費ノ節約額ヲ、或ル程度マデハ表ニ見積ッ  
テ、其以上ハ尙ホ有ルト思フガ、併シ表ニハ書カナカッタノデアル、斯ノ如  
キ答辯ヲ我ムガ信用スベキ義務ガアルデゴザイマセウカ、信用スベキ理由ガ  
アルデゴザイマセウカ、果シテ然ラバ此鐵道公債償還表ニアル所ノ此節約額  
ト云フモノハ、是ハ政府ハ此以上ハ節約ハ出來ヌト云フ所カラ此額ヲ示シタ  
モノト我ムハ見ナケレバナラヌ、即チ政府ハ運賃低減ノ餘地ハ全ク認メテ居  
ラナイ、大藏大臣ハ經濟ノ發達上、如何ニ遞信大臣ニ向ッテ運賃ノ低減ヲ請  
求イタシマシテモ、遞信省ノ計算ニ於テ明ニ運賃ヲ低減スルノ餘裕ノ無イコ  
トヲ示シテ居ルノデアル、斯ク論ジ來リマスルト云フト、大藏大臣ガ本案ノ  
理由トシテ產業ノ發展ヲ圖ル、滿韓地方ニ於ケル商工業ノ發達ヲ圖ルト云フ、  
此理由ハ、大藏大臣御一個ノ考デアルカモ知レヌガ、是ハ統一シタル政府ノ  
意思デ無イト私ハ斷言ヲ致シマス、且又之ヲ歐洲ノ例ニ考ヘテ見マスルト、  
獨逸ガ近年、鐵道國有ヲ實行イタシマシタガ、鐵道國有以後、運賃ノ低減ガ  
豫想通り行ハレナカッタト云フコトハ、是ハ定論デアル、是ハ何故カト云ヘ  
バ、獨逸ハ近時各聯邦トモ財政ハ餘ホド裕カデアル、然ルニモ拘ラズ鐵道ヨ  
リ生ズル利益ト云フモノハ、是ハ財政ノ當局者ガ切りニ之ヲ要求シテ、遞信  
ノ當局者ニ向ッテ、之ヲ運賃ノ低減、或ハ鐵道ノ改良ニ使フノ自由ヲ與ヘナ  
イノデアル、ソコデ益金ハ如何ニ増加シテモ、之ヲ大藏省デ取ッテ仕舞ッテ、  
鐵道ノ改良、運賃ノ低減ニハ少シモ取ラセナイト云フノガ、是ガ獨逸ノ各聯  
邦ノ實例デゴザイマス、幸ニモ日本ノ大藏大臣ハ鐵道ノ益金ヲ自ラ使フト  
云フコトハ要求シナイデ、成ルベク運賃ノ低減ニ使フト云フ御趣意ハ、是ハ  
如何ニモ感服ノ至リデアルガ、併シ現在ノ大藏大臣ガイツマデ大藏大臣ノ地

位ニ居ラル、カ、是ハ分ラヌ、或ハ來年迭ルカモ知レヌ、此大臣ガ未來永劫、大藏省ニ居ラルレバ此經畫モ實行サレマセウガ、浮世ノ定メナキ、此大臣ガ居ラル、カラト云ウテ、到底此口約ハ私ハ信ジマセヌ、何故ニ本案ガ時機ニ適シナイカト云フコトニ付テハ、諸君モ御承知ノ通り我國ノ公債ハ日露戰役ノタメ、否、ポーツマウスニ於ケル外交ノ失敗ノ爲ニ、現ニ二十餘億ニ上ボッテ居ル、ソレカラ三十九年度ニ於ケル豫算ノ缺陷ガ約八千萬アル、是等ノ計算カラ致シマスルト云フト、日本ノ公債額ハ年ヲ逐ウテ增加シ非常ノ額ニ達スルモノデアル、然ルニ今約五億ノ鐵道公債ヲ發行スル、此公債ノ爲ニ如何ナル影響ガ此公債ノ市價ニ生ズルデアラウカ、是ガ本案ヲ決スルニ當ツテモ緊要ナル問題デゴザイマス、鐵道公債ヲ發行スルニ付キマシテハ、政府モ種々ナ御苦心ガアルヤウニ聞イテ居ル、總テ公債ノ市價ヲ保ツノ方法トシテハ餘ホド財務ノ當局者ハ御苦心ナスッテ、或ハ減債基金法ヲ設ケテ公債ヲ買上ゲテ市價ヲ維持スルトカ、種々ナ方法ヲ設ケテ、此公債ノ市價ヲ維持シャウト云フ御考デアルノニ拘ラズ、鐵道公債ヲ約五億發行イタシマシテ、サウシテ公債ノ市價ニ付テ毫モ影響ナキカノ如クニ、大藏大臣ハ御考ヘニナッテ居ル、鐵道公債ヲ發行シテモ市價ガ下ガラナイト云フノハ、大藏大臣ノ是ハ斷言デアリマスルガ、是ハ大藏大臣ノ形式的ノ御答辯デアッテ、若シ大藏大臣ノ心中ニ立入ツタナラバ、ヨモヤ斯カル御答辯ハ出來マスマイト私ハ斷言イタシマス、公債ノ市價ニ關スル原則ヲ申シマスルト、種々ノ原因事情ノ爲ニ高低ヲ生ズルト云フコトガアリマスルガ、金利ノ高低ト云ヒ、政府ノ信用ノ厚薄ト云ヒ、種々ナ原因ガアッテ、公債ノ市價ガ高低イタシマスルガ、其一ツノ原因トシテ、公債ノ需要供給ノ關係ニ依ッテ市價ノ動クト云フコトハ、是ハ爭ハレナイ原理デアル、既ニ我國ハ二十億以上ノ公債ヲ持ッテ居ル、此上ニ尙進ンデ約五億ノ公債ヲ發行スルト云フコトニナリマスレバ、公債ノ供給ハ非常ニ増加スルモノデアル、此五億ノ増加ノ爲ニ公債ノ市價ニ毫末モ影響ナシトハ苟モ理財ノ常識アル者ハ斯カル断言ハ出來ナイト信ズルノデア行スルノデアルカラ、何モ公債ノ市價ニ影響ハアルマイト、斯ウ申サレマスルガ、鐵道ノ株券ヲ持テ居ル人ガ、新ニ株券ノ代リニ受取タ公債證書ト云フモノヲ、ソレヲ懷ロノ中ニ藏メテ居レバ、ソレハ鐵道公債發行ノ爲ニ公債

ノ市價ニハ影響ハアリマスマイガ、是マデ會社ノ株主デアツタ者ハ利益ノ計  
算上、ドウシテモ公債ヲ賣リ放ツニ相違ナイ、賣リ放テバ賣リ放ツダケ市場ニ  
於テ公債ノ供給モ增加シテ來マスカラ、唯株券ガ公債ニ代ルカラ公債ノ市價  
ニハ毫末モ影響ナシト云フコトハ、是ハ誤謬ノ見解ト斷言イタシマス、或ハ  
曰ク、鐵道公債ハ是ハ生産的ノ公債デアル、軍事費ノ公債ノ如キハ不生産的  
ノ公債デアル、ソレ故ニ不生産的ノ公債ノ增加ハ公債ノ市價ニ影響ハアルガ、  
生産的ノ公債ノ増加ハ決シテ市價ニ影響ハ無イト、斯ク論ジマスル人ガアリ  
マスガ、是ハ大間違デ、生産的ニ公債ヲ發行シマスルニ付キマシテハ、政府ノ  
信用ニ於テ毫モ厚薄ハ無イト、斯ウ云フコトハ言ヘマスルケレドモ、生産的ノ  
公債デアルカラ幾ラ發行シテモ毫モ公債ノ市價ニ影響ハ無イト云フコトハ、  
是ハ實ニ誤謬ノ見解デゴザイマス、今假ニ極端ノ場合ヲ想像イタシマシテ、  
政府ガ種々ナル官業ヲ擴張シテ、或ハ保險事業、或ハ航海事業等ヲ總テ官業ニ  
シテ、幾十億ノ公債ヲ發行シタ場合ヲ假定シマスルト云フト、是等ガ悉ク生  
産的ノ公債デアリマシテモ、公債ノ供給ガ增加シマス以上ハ、ドウシテモ公  
債ノ市價ニ影響ノアルコトハ爭ハレナイ事實デアル、政府案ノ辯護者ハ曰ク、  
公債ノ市場ハ、公債ノ需要者ハ強チ内國人ノミデナイ、外國ノ市場ニ於テ日  
本ノ公債ハドシヽ輸出サレルノデアルカラ、幾億ノ公債ヲ發行シテモ海外  
ニ公債ヲ需要スル者ガ非常ニ多イカラ、決シテ市價ニ影響ハ無イト斯ク申サ  
レマスルガ、是モ誠ニ誤謬ノ考ヘデアリマシテ、殆ド之ヲ非難スルノ必要モ  
無イト考ヘマスル位デアリマスル、外國人ト云フモノハ日本ノ陸海軍ノ軍人  
ノ忠勇無雙ナルコトニ驚歎スルト均シク……日本ノ財政當局者ニハ左ホト驚  
歎イタシマセヌ、ソレ故ニ近々、昨年マデ海外ニ於テ日本ノ公債ヲ募集シマ  
ス時ニハ擔保モ要ル、或ハ減債基金ヲ設クルコトヲ條件ニシテ公債ノ募集ヲ  
シタト云フヤウナ現代ノ政府デ、其發行シタ公債ニ向ツテ海外ノ市場ニ於テ  
無限ノ需要ガアルト云フコトハ、我ニ如何ニシテモ考ヘラレマセヌ、是ハ或  
ル程度マデハ海外ノ市場ニ向ツテ日本ノ公債ヲ賣捌ケマセウケレドモ、其程  
度以上ヲ超エテハ到底是ハ賣捌ケナイモノト認メマス、斯ク論ジマスルト云  
フト、鐵道公債ト市價トノ關係ニ於キマシテハ、如何ニシテモ市價ハ下ガル、  
斯ウ斷言セザルヲ得ナイ、大藏大臣ハ本員ヲ目シテ悲觀的ノ考ヘラ有ツテ居  
ルトスウ申サレマシタガ、私ハ大藏大臣ニ向ツテ大藏大臣ハ餘リニ樂觀的ノ  
考ヘラ有ツテ居ルトスウ申シマシタ、如何ニ樂觀的ノ考ヘラ有ツテ居ツテモ日

本ノ公債ノ市價ガ現狀ヲ維持シテ行クト云フコトハ、是ハ何人モ斷言シ得ナ  
イコトト考ヘマス、本案ノ内容ニ就キマシテ買上ノ方法ガ如何ニモ不當デア  
ルト云フコトヲ申シタイト考ヘマス、現今ノ鐵道會社ハ私設鐵道法、或ハ鐵道  
特許條約ニ依リマシテ、一定ノ特許年限間ハ營業ニ就テ十分ノ自由ヲ得テ居  
ルモノデアル、然ルニ此特許年限ノ如何ニ拘ラズ、政府ガ強制的ニ之ヲ買上  
ゲルト云フノニハ、餘ホド重大ナ理由ガ必要デアル、勿論此權利ト云フモノ  
ハ是ハ民法上ノ權利デハアリマセヌ、是ハ政府ノ特許ニ依ツテ出來タ所ノ權  
利デアリマスルカラ、法律ノ上ニハ權利ナシ、政府ガ制定シタル所ニ依ツテ  
得タ權利ハ、更ニ政府ガ制定シタル所ニ依ツテ之ヲ失フト云フコトハ、是ハ  
已ムヲ得ナイ次第デアリマスルガ、併シ本案ノ提出ノ理由ガ、如何ニモ薄弱  
デアル以上ハ、其薄弱ナル理由ヲ以テ此特許條約ノ年限若クハ私設鐵道法ノ  
年限間ニ、強制的ニ鐵道ヲ政府ニ買上ゲルト云フコトハ、是ハ如何ニモ不當  
デハゴザイマスマイカ、此場合ニ於テハ宜シク協定任意ノ方法ニ依ツテ之ヲ買  
上グレバ何人モ敢テ異議ヲ言フ者ハアリマスマイガ、之ニ向ツテ強制ノ方法ヲ  
加ヘテ買上ヲ強制的ニ實行スルト云フコトハ如何ニモ立憲政府ノ爲スベキ所  
業デ無イト考ヘマス、文明國ニ於テアルマジキコト考ヘマス、諸君、獨逸ニ  
於テ鐵道國有ノ實行サレマシタノハ、是ハ千八百八十二年カト考ヘマスガ、  
當時ビスマーカハ鐵道ヲ獨逸帝國ノモノニシャウト云フ考ヘテ設計ヲ立テマ  
シタケレドモ、其設計ハ聯邦參議院ガ之ヲ受ケマセヌノデ、僅ニブロイセン  
ダケデ此經畫ヲ實行シテ鐵道ヲ國有ニ致シマシタ、其時ニビスマーカハドウ  
云フ方法ヲ採タカト云フト、何レモ特許年限間デアリマスカラ、任意協定  
ノ方法ニ依ツテ買上ゲタノデアル、決シテ強制買上ヲシタノデハナイ、然ル  
ニ現政府ハビスマーカ以上ノ手腕ヲ振ヒ、ビスマーカ以上ノ技倆ヲ以テ現私  
設會社ニ向ツテ強制買上ヲ爲スト云フノハ如何ニモ見上ゲタ政府デアルト考  
ヘマス、次ニ此本案ノ内容ニ就テ我ミノ最モ非難スベキ點ハ、買上ゲベキ鐵  
道ノ種類ガ如何ニモ多イ、鐵道ノ數ガ非常ニ多イト云フコトデアル、本案ノ  
第二條ヲ見マスルト云フト苟モ我國ニ於テ鐵道ト稱スベキモノハ總テ之ヲ政  
府ニ買上ゲルト云フ、斯ウ云フ規定デアル、諸君、鐵道國有ノ例ハ歐羅巴ニ  
澤山アリマスルガ、何レモ此幹線若クハ支線ノ最モ大ナルモノヲ買上ゲマス  
ノデ、一國ノ鐵道ヲ總テ買上ゲルト云フコトハ是ハ日本ガ初メテ例ヲ開イタ  
ノデアル、今回ノ法案ガ其先例ヲ爲シタノデアル、實ニ驚クベキ法案ト考ヘマ

ス、元來現政府ハ頻ニ官業ヲ擴張イタシマシテ、曩ニハ財政上ノ理由ニ依ツテ  
煙草ヲ專賣ニシ、鹽ヲ專賣ニシタ、今ハ經濟上、國防上ノ理由ニ依ツテ鐵道ヲ官  
業ニシャウト云フノデアル、或ハ近キ將來ニ於テ砂糖ノ專賣モ行ハレ、或ハ  
酒ノ專賣モ出來ルデアラウ實ニ專賣ノ盛ナルコト現代ノ如キコトハゴザイマ  
セヌ、此頃世間ニ行ハレテ居ル社會主義ト云フモノガアリマス、此思想ハ  
諸君モ御承知ノ通り、總テノ生產事業ニ致シマシテ、總テ生產事業ハ  
一モ民業ニ委セヌト云フノガ、此社會主義ノ理想デアル、根本ノ觀念デゴザ  
イマス、專賣好キノ政府ガ著々專賣ヲ實行シテ、民業ヲ奪テ官業ニ移スト  
云フ此現政府ハ、社會主義ニ向ツテハ非常ニ强硬ナル禁壓ヲ加ヘテ居ラレル  
ニ拘ラズ、此政府ノ政策トシテハ殆ド社會主義ト相距ル遠カラザルコトヲ致  
シテ居ルト私ハ斷言イタシマス、以上ノ理由ニ依ツテ本員ハ本案ハ宜シク廢  
案ニスベシト云フコトヲ主張イタシマス

○男爵尾崎三良君 チヨット質問イタシタウゴザイマス、先刻起立イタシマ  
シタケレドモ御許シガ無カッタデ、據ナク唯今致シマスガ、此修正委員長：  
此特別委員長又ハ政府委員、ドチラニモ質問ヲ致シタイノデアリマスガ、  
其要領ヲ承ラヌト甚ダ本員等モ其箇條ヲ解スルニ苦ムノデアリマス、ソコデ  
委員長ナリ政府委員ナリ御都合ニ依ツテ御答辯ヲ願ヒタイ、此「鐵道買收ノ  
期日ハ政府ニ於テ之ヲ指定ス」トアリマスガ、是ハドウ云フ工合ニ指定ナサ  
ル御積リデアリマスカ、例ヘバ此案ガ法律トナリマシタラバ、直グニ日本鐵  
道ハ明治三十九年何月ニ買收スル、山陽鐵道ハ四十年何月ニ買收スルト云フ  
ヤウニ、直グニ御指定ニナルノデアルカ、或ハ又其時々ニ御指定ニナルノデ  
アルカ、ソレヲ一つ伺ヒタイ、是ハ實ニ緊要ナコトデアッテ、何時買收セラ  
ル、ヤラ知レヌト云フ場合デアッテ見ルト、其會社ノ持ツテ居ル間ハ何時、人  
ノモノニナルヤラ知レヌト云フコトデ、骨ヲ折ツテ之ヲ良クスルト云フ觀念  
ガ無クナツテ仕舞フデアラウ、非常ニ鐵道其モノニ影響ヲ及ボスデアラウト  
思ヒマス、ソレカラ此度特別委員デ御修正ニナリマシタ所ヲ見マスト、五年  
ノ間ニ、明治四十四年マデノ間ニト云フコトニナツテ居タノヲ、今度ハ四十八  
年マデノ間ニト云フ、五年延ビタノデアリマスガ、是ハ非常ニ緩漫ナコトデ  
アリマスケレドモ、是ガ延ビタニ付テハ非常ニ又混雜ガ生ジハセヌカト思フ  
マシテ、決シテ一所ニ止マツテ居ルモノデナイト云フコトハ、申スマデモナ

イコトデアリマスガ、ソレヲバ明治三十八年前半期マデノ三箇年ノ平均ヲ以テ買フ、然ルニ此鐵道ト云フモノハ年々發達シテ行クカラ、十年モ後ニナッタラドノ位ニ發達シテ行クヤラ知レスモノヲ、十年前ノ收益ヲ標準トシテ買上ゲルト云フコトハ、是ハマア非常ナ混雜ヲ生ジハセヌカト思ヒマスガ、ソコハドウナサル積リデアリマスカ、ソレカラ第六條ノ「借入金ハ建設費ニ使用シタルモノニ限り時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シ」云々トアリマス、此借入金ト云フコトハ社債モ含ムノデアリマスカ、之ヲ一應伺ヒタイ、ソレカラ審査委員ト云フコトガアリマスガ、此審査委員ハ勅令ヲ以テ定ムトアリマス、是ハドウ云フ工合ナ組織ニナサル御積リデアルカ、本員等ハ此廉ニ付テ甚ダ心痛ヲ致ス、何レ審査委員ノ審査ヲ受ケネバナラスト云フ場合ハ買收者ト買收サル、者トノ紛議ヲ生ジタ場合ニ違ヒナイ、言ハゞ原被兩方ノ争ニナッタ場合ニ違ヒナイ、ソレヲバ審査委員デ決定スル、其審査委員ハ誰カト云ヘバ即チ政府ノ命ズル審査委員デ、言ハバ原被兩造ノ争ニ原告者ガ命ジタ、指命シタ裁判官ニ裁判サレルヤウナコトニナリハシナイカ、是ハドウ云フ工合ニナサルノデアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ、ソレカラ第十二條ニ「買收代價ハ買收ノ日ヨリ二箇年以内ニ於テ券面金額ニ依リ五分利付公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス」トアリマス、今度ハ此「二年」ト云フノガ「五年」ニナリマシタ、デ益感ヲ生ジマスガ、此公債ヲ渡サヌ先キ既ニ或ル會社ヲ買ツタ、ソコデ其株主ハ最早ヤ株ト云フモノハ何ニモアラヌモノニナッテ、政府ノ公債ガ自分ノ所有物ニナルノデアリマスガ、其自分ノ所有物ニナル公債ハ二年經タネバ渡サナイ、サウスルト其間、賣ルコトモ出來ナイ、金ガ入用ノコトガアツテモ、ソレヲ擔保ニ供シテ金ヲ借リルコトモ出來ナイ、是ハ非常ナ不便デヤナイカ、其邊ハ如何ナサル積リデアルカ、ソレカラ此公債ハ所得稅ヲ課サレナイノデアルカ、何モ取除ケノ無イ以上ハ所得稅ヲ課セラル、ト考ヘルガ、政府ノ配付シタ所ノ參考書ニ依ルト、此公債ノ利子ト云フモノハ今日、株券所有者ノ配當金ト同様ニナッテ、殆ド損得ガ無イヤウニナッテ居リマスケレドモ、今日株主ノ得ル配當金ハ會社ニ於テ既ニ所得稅ヲ拂ツテ廿舞ツタ其全クノ純益ヲ配當スルノデアリマス、此參考書ニ依リマスト公債ノ利子ガ其配當金ト同ジャウナモノニナルノデアリマスカラ、其實餘ホド株主ノ損ニナル、即チ所得稅ダケ取ラル、ト云フコトニナリマス、是ハ矢張リ其御積リデアリマスカ、ソレカラ此一體今度ノ施行ハ強制的ニ買取ッテ仕舞フ、即チ取上ゲルト云フ

ノデアリマスガ、斯ウ云フコトヲ致シタ例ハ何所カ餘所ノ國ニアリマスカ、私ハ甚ダ淺學ニシテ各國ノ例ヲ十分研究イタシマセヌガ、何所カニサウ云フ例ガアリマスレバ一ツ御示シラ願ヒタイ、ソレダケノコトヲ伺ッタ上デ、又質問イタスコトガアルカモ知レマセヌ、ドウゾソレダケ……

### 〔國務大臣山縣伊三郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(山縣伊三郎君) 唯今ノ御尋ネニ御答イタシマス、第三條ニ掲ゲテアリマス所ノ「買收ノ期日ハ政府ニ於テ之ヲ指定ス」ト云フノハ、原案ニ依リマスレバ五箇年以内ニ經濟ノ情況ヲ見テ之ヲ買收スルコトニナッテ居リマスカラ、今日はミノモノヲ買收スルト云フコトハ決マッテ居リマセヌ、ソレカラ此審査委員會ノコトニ就テノ御尋デアリマスルガ、是ハ何レ官民兩方ヨリ學術經驗ニ富ンダ者ヲ以テ之ニ充ツル積リデアリマス、ソレカラ此修正ニナッタ箇條ニ就テハ、私ヨリ御答スルコトハ出來マセヌデゴザイマスルカラ、是ハ又修正委員ノ方カラ御答ガアラウト思ヒマス、ソレカラ此強制デ買上ゲルコトハ他國ニ例ガ有ルカ無イカ、此事ヲ御問ヒデアリマシタガ、是ハ他國ノ例ハ存ジマセヌデゴザイマス、公用徵收ノ方法ニハ、申スマデモナイ、二通アリラウト思フ、詰リ協定ニ依ルカ強制ニ依ルカ、ソニデ此法案ハ強制ニ依ルノデアリマスカラ、他國ニドンナ例ガアリマスルカ、其邊ハ一向存ジマセヌ

### ○議長(公爵德川家達君) 古市公威君

〔男爵伊達宗敦君發言ノ許可ヲ求ム〕

○古市公威君 演壇ニ登ル

○古市公威君 諸君、私ハ長イ演説ハ全體不得手デアリマスカラ、決シテ長ク諸君ヲ煩ハス考ハアリマセス、其點ハ御安心クダサイ、此營利的事業ト公益トハ動モスレバ背馳スルモノデアルト云フコトハ、諸君モ御承知ノ通リデアル、ソレデ鐵道ハ獨占的事業デアツテ、且ツ大ナル公益事業デアリマス、ソレデ斯ノ如キモノハ國家ノ公平ナル、又親切ナル經營ニ委ネルガ最モ適當デアルト云フコトハ、昔カラ說ノアルコトデアリマスガ、近來愈々其說ガ盛ニナッタヤウニ思ハレマス、是ハ近來ノ經濟狀態ガ此說ヲ促シタノデアラウト本員ハ推察スルノデアリマス、日本デモ此鐵道國有ト云フコトハ屢々議ニ上ボツタコトデ、議會ニモ兩三度モ出マシタガ、終ニ今日マデ行ハレマセナン

ダ、而シテ本員ノ考ヘマスル所デハ、今日ハモウ之ヲ決行スルノ時機デアルト思フノデアリマス、御承知ノ如ク此昨年一昨年ノ戰役ノ結果カラデアリマセウ、日本ノ經濟界ト云フモノハ世界的ニナッテ來タト思ハレル、ソレデサウ致シマスルト隨分此日本ノ中ニ大資本ノ活動ヲ見ルコトハ遠イ將來デハアルマイト思ハレル、是ハ誠ニ一方ニ於テ慶賀スペキコトデアリマス、併シ又今日ノ如ク鐵道ヲ國有ニシタイト云フ考ヘノ者ニ向ツテ此大資本ノ活動ガ鐵道界ニ或ル方法デ進ミ來タナラバ、本員ノ渴望スル鐵道國有ト云フモノハ行ハレナクナルダラウト思フ、ソレ故ニ今日マデモ、モウ案ノ出ル毎ニ本員ハ贊成ノ考ヘデアリマシタガ、不幸ニシテ行ハレマセナシダガ、今日ハ實ニ此案ノ成立ヲ希望スルノデアリマスガ、ソレデ蓋シ此案ヲ提出シタ政府ノ考ヘモソコニアルデアラウト思フノデアリマスガ、之ヲ細カク言フト、軍事上必要デゴザルトカ、經濟上必要デゴザルトカ、色々理由ガアリマセウ、併シ餘り效能ヲ並ベ立テルト、中ニ效能同士撞著スル所ガアリマスルカラ、私ノ希望スル點ヲ明ニ申上ゲテ置キマスガ、私ハ生産・・・產業ノ進行上、鐵道ヲ國有トスルコトガ必要デアル、此趣旨デアル、ソレデ今日之ヲ決行スルヲ必要ト認メルト云フノデ、是カラ先キニナルト段々ムヅカシクナル、私設鐵道ノ大合同スルコトガ何トカ云ヒマスガ、ナカ／＼之ヲ實行スルコガ出來テモ、口デコソ買收トカ何トカ云ヒマスガ、ナカ／＼之ヲ實行スルコトハムヅカシクナル、今日之ヲ決行スルノガ公益上必要デアル、國家ノ爲ニ必要デアル、是ガ私ノ此法案ニ賛成スル理由デアリマス、斯ウ決心シテ見マスルト、アトハモウ之ニ關スル障碍物ガアツタナラバ、ソレヲ號飛バシテ進ム積リナンデス、其障碍物ト云フノハ、第一ハ私設鐵道法ノ年限デアル、法律ニ假初二ニモ年限ガ設ケテアルモノヲ、ソレヲ破ルノハ甚ダ不穩當デハナイカ、如何ニモ不穩當デアル、是ハ避ケ得ラレルナラバ避ケタイト云フコトハ、本員モ御同感デアル、併ナガラ之ヲソレナラバ避ケテ年限ヲ待タウカト云フト、是ハ黄河ノ清ヲ待ツヤウナコトデアラウト思フ、少々言過ギルカモ知レスガ、先ヅ日本鐵道ノ五十年ト云フト、明治六十四年デナケレバ手ハ著ケラレナイ、是ハチト長過ギル、ソレカラ其他小サイ會社ナドニモウ少シ近イモノガアリマスルガ、併ナガラ假令小サクテモ一會社ヲ經メテ買ハウトスルト、明治五十年以前ニハ出來マセヌ、大キナ會社デ餘ホド面白イモノガアリマスル、九州鐵道ノ幹線ハ長崎ニ達スル分モ八代ニ達スル分モ確カ四十六年、是等ハ明治四十六年デスカラ是等ハ近イ分デス、然ルニ長崎ニ行ツタ先キニ、チヨット是バカリノ

モノガ附イテ居ル、出島マデ行ク線、是ガ長崎線ノ極ク最モ咽喉首ト云フ所モアル、是ハツイ近頃出來タノデアリマスカラ、其年限ハ六十二年、明治六年ニナケレバ年限ニ達シナイ、サウ致シマスト四十六年、先達テ中カラ四十六年ニナレバ、期限ガ來ルモノガアルデハナイカト云フ話ガアリマシタ、ケレドモ四十六年ニナッタ、ヤレ嬉シャト思ツテ九州鐵道ヲ買ハウト云フト、キユット押ヘラレテ仕舞フ、ソレハ或ル論者ガ言フニハ、ソレバカリノモノコソ協定シタラ出來サウナモノデアル、然ルニ此協定ナルモノガ或ル場合ニ於テハ逆モ出來ナクナル、私ハ現ニ明治二十二年ニ向フヘ行ツタ時ニ、或ル國デ其頃大分國有鐵道ガ出來タ所デ聞イタコトガアル、僅バカリノ鐵道ガアル、之ヲドウシテモ買フコトニナッテ居ル、デ日本ノ國民ハ國家ヲ思フコトガ厚イカラ、何モサウ云フコトハ決シテアリマスマイガ、是ハ必シモ無イト云フコトハ斷言ハ出來ナイ、殊ニ是カラ先キハ出來ヌ、殊ニ明治五十年以後マデ至ッタ出來ナイト思フ、ソレダカラ此國有ト云フモノヲ私ノ如ク・・・之ニ反對ノ御方ハ論外、イヤ現ニ・・・前ニ此演壇ニ登ラレタ桑田君ナドハ國有ニハ異議ハ無イ、唯手段ト方法ト時機ガ宜シクナイト云フ話デアル、其類ノ諸君ニ私ハ申スノデ、モウソレニ反對ノ御方ハ謂ハユル縁ナキ衆生度シ難シト思フノデス

〔笑聲起ル〕

ソレデアルカラ口デコソ協定ト云ヒマスガ、協定ト云フモノハ、ナカ／＼容易ニ行ハレルモノデナイ、結局ハ強制スルヨリ外ニ致シ方ガ無イ、唯同ジ強制シテモ期限ガ來テカラノ上ノ強制、瑞西ナドハ確カサウ云フ狀態デアツタト思ヒマスガ、期限前ノ強制ト此ニツデ、餘ホド穩カナル手段ヲ採ルカ、稍嚴重ナル手段ヲ採ルカト云フ違ヒガアルノデアルト本員ハ考ヘル、ソコデ原案ヲ見マスト期限前ニハ買フ、併シ協定シテモ此代價ナラバ先ヅ常識ヲ以テ考ヘバ承諾シテモ宜イト云フ計算ニナッテ居ルト本員ハ認ムルノデス、是ハ認メヤウ次第デアリマスガ、或ル建設費即チ資本ニ對シテ此鐵道ハ何程ノ利益ヲ今日マデ得テ來タカ、然ラバ其買フ當時ニ其建設費ガ幾ラニナッタナラバ、此建設費ハ何程ノ利益ヲ得ルベキガ當然デアル、斯ウ云フ勘定ノ仕方デ、サウシテソレダケノ利益ヲ得ルヤウナ公債ヲ渡スト、斯ウ云フ考デアリマス

カラ、極々公平ナ勘定ノ仕方、是ハ他ノ私設鐵道法ニ規定シテ居ル買收ノ方法ノ如キニ比スレバ、雲泥ノ差違ト申シテ宜カラウト思フ、私設鐵道ノ前五年間ノ配當金ノ平均額ノ二十倍若クハ前五年間ノ株券ノ價格ノ平均額、ソレヲ比べテ廉イ方デ買フ、誠ニ買方ハ單純デアリマスガ、是ハドウモ公平ト云フ所カラ言フト如何デアラウカト思ハレル、尤モ是等ノコトハ相當ノ年限ヲ與ヘテ買フト云フノハ決メ方デ、豫メ決マッテ居レバ如何ナル決メ方デモ宜シイノデアリマセウ、本員ノ記憶シテ居ル所デハ佛蘭西ノ特許命令ナドガ確力九十九年、其代リ九十九年經テバ無代價デ國ニ歸スル、健全ナル狀態デ國ニ歸スルト云フコトニナツテ居リマス、是ハ豫メ決メレバ宜シウゴザイマスガ、其他法令ニ決メアル分ト今日ノ買方トハ雲泥ノ差ガアル、今日ナラバ飽クコトヲ知ラヌ者ノ外ハ是ナラバ買上グラレテ宜イ、承諾スベキモノデアルト云フ程度デ此計算ガ出來テ居ルト信ズルノデアリマス、斯ク申シマスルト、ソレナラバ協定スレバ宜イヂヤナイカト云フ、其所ガ理窟ト實行ト大ニ差ノアル所デ、協定シテ見ヤウト云フト、ドッコイイカナイト言ッタラ、ソレキリモウ動クコトガ出來ナクナル、是ハ此手段ヲ取ッタノハ實ニ已ムコトヲ得ヌコトト本員ハ考ヘル、ソレカラ反對論ノ重モナル點ハ時機ノ問題デアリマス、今十八億ノ公債ヲ脊負ヒ込ンデマダ其處分モ付イテ居ラヌ場合ニ斯ノ如キコトヲスルト云フノハ甚ダ危險デアルト云フ論デス、第一ニ公債ノ市價ガ下ガッテ仕方ガアルマイ、公債ノ相場ハドウモ甚ダ私ハ分ラヌ、併ナガラ是ハ黒人ノ方デモ餘ホド悲觀論者ト、ソレカラ稍樂觀論者トアルヤウデアリマスガ、私ハ何方カト云ヘバ樂觀ノ方デアル、併ナガラ前刻モ演壇デ述ベラレタヤウニ、決シテ影響セヌ、ソレハアルモノデナイト思フデス、多少ノ波瀾ハ免レヌ、是ハ獨リ二十三億ノ上ニ五億ノ公債ガ加ハッタバカリデナイ、些細ノコトデモ公債ノ相場ナドト云フモノハ上下スルモノト思ウテ居ル、其多少ノ波瀾ハ是カラ先キ免レス、唯波ノ打チ方ガ大キイカ小サイカト云フ違ヒデアル、私ハ小サイト思フ方ノ論者デアル、大波ノ所ニ少々風ガ加ハッタ所ガ其アリマセウカ、此十八億ノ公債ガ償却セラレテ仕舞ッタ時デナケレバ公債ハ波ヲ更ニ大ニスルト云フヤウナコトハ無イト云フ考デアリマス、ソレデ十八億ノ公債ガアル所ヘ又此公債ヲ加ヘル、頗ル危險デアル、是カラ先キ如何デアリマセウカ、此十八億ノ公債ガ償却セラレテ仕舞ッタ時デナケレバ公債ハ出スコトハ出來ナイト云フ譯デハ、マサカアルマイト思フ、ノミナラズ十八億ノ公債ト云フモノハ、チャント整理ノ方法ガ立ツテ居ル、デ斯ノ如ク整理

ノ方法ガ立ツテ行ク公債ハ……而シテモウ一ツノ條件ハ、其公債ハ生産的ナラバ是非加ヘナケレバナラヌ、是カラ先キ強チ出タカラト云ツテ恐ル、ニ及バヌト思フ、之ヲ恐レタナラバ、之ヲ恐レタナラバ、モウ總テ消極ニナルヨリ致シ方ガ無イ、ソレデ私ノ口カラ此經濟論ヲ出スノハ少シ不似合ノヤウデアリマスガ、實ニ未會有ノ大事件ヲ仕遂ゲ來ツタ我ガ國民、王政復古、封土奉還、憲法發布、兩度ノ大戰役、是ハ實ニ世界ノ耳目ヲ驚カシタ、此大事件ヲ遂ゲ來ツタ、此大事件ニ成功シテ來タ我ガ國民ハ、是カラ先キ益、謂ハユル積極ノ方針ヲ執ツテ進ムヨリ致シ方ガ無イト私ハ考ヘル、此國民ニ向ヒテ濫リニ悲觀的ノ考ヘヲ起スノハ最モ忌ムベキコトデアルト思フ、若シ何事モセズニ、ジットシテ居レバ、ソレデ經濟上モ直リ國モ盛ニナツテ行クト云フ方法ガアレバ、是ハ格別デゴザイマスガ、ソレデハ逆モ是カラ先キ行ケルモノデナイ、決シテ悲觀スベキ場合デ無イ、必ズ益、積極的方針ヲ以テ進マナケレバナラスト云フ、斯ウ云フ考ヘダ、サウスルト公債ガ是カラ先キ無クナルト云フコトハ思ヘナイ、ソレマデニハ百年河清ヲ待ソト同ジコトデ、到底此鐵道國有ノ目的ヲ達スルコトハ出來マセヌ、ソレニエ私ハ今日是非トモ此案ノ成立スルコトヲ希望スルノデアリマス

〔副議長侯爵黒田長成君議長席ニ著ク〕

○男爵伊達宗敦君 私ハ質問ヲ致シタイト存ジテ居ルノデゴザイマス、唯今質問ハ何デアルカト云フト、實ハ委員長ニ對シテ少々質問イタシ、又伺ヒタ  
イトイ思フノデアリマスガ、折惡ク閣下ハ議長ノ資格ヲ以テ、此御席ニ居ラレ  
スカラ御質問ヲ茲デ致スト云フコトモラカシイト思ヒマス、又質問ヲシタ所  
ガ御答辯モ出來ヌト思ヒマスカラ、唯私ノ信ズル所ヲ辯ジテ置キタイト思ヒ  
マス、此案ハ重大ナル問題デアッテ、進行ヲ妨ゲルノハ甚ダ相濟ミマセヌガ、  
過刻委員長カラ御報告ノ場合ニ村田君カラ政府ノ意思ガ堅カラヌ、殆ドグラ  
シテ居ルト云フコトヲ言ハレタ、其質問ノトキニ委員長ノ申サレタノニ  
ハ、最初ハ政府ノ意思ガ固マラヌデ居ツタヤウデアッタガ、追ニ固マッテ來  
タノデアルカラ云々、依ツテ修正案ガ提出ニナッテ、ソレガ決シタト云フヤウ  
ニ御述べニナッタト、私ハ伺ツテ居リマシタ、或ハ私ガ聞誤ツテ居ルカ知ラヌ  
ケレドモ、私ハサウ伺ツタノデアバ、ソレデ私モ不肖ナガラ 委員ノ一人デ末  
席ニ列ヅタ者デアリマスガ、サウ云フ最初ハ政府ノ意思ガ不定デアッタ、動イ  
テ居テ定ラナカツタガ、追ニソレガ固マッテ來タ爲ニ 委員會ガ之ヲ修正シテ通ツ

タト云フヤウナコトハ、他ノ委員諸君ハドウダカ知リマセヌガ、私ハサウ云  
フ意思ヲ以テ委員會ガ通ツタモノトハ思ヒマセヌ、デ私ハ其修正ニモ反対デ  
アリマスカラ、格別デアリマスガ、サウ云フ意思デ始メハ政府ノ意思ガ定マ  
ラヌヤウデアッタガ、其意思ガ定マッテ來タカラ云々ト云フコトハ、少シモ私  
ハ考ヘテ居リマセヌカラ、チヨットソレヲ辯ジテ置キマス、唯今ハ議長閣下  
ニ向ツテ御質問ヲスル譯ニハ參リマセヌカラ一應此事ヲ辯ジテ置クノデアリ  
マス、序デニ政府ノ意思ガ村田君ノ言ハレタ如クフランシテ居ツテドウモ  
鞏固デネイト云フコトハ、是ハ別ニ御尋ニナラヌデモ分ルコト思ヒマスカ  
ラ、一言イタシテ置キマス。

○男爵尾崎三良君 本員ハ通告ヲシテ置キマシタガ此際チヨット質問ヲ致シ  
タウゴザイマス、先刻本員ノ質問ヲ致シマシタ中ノ買收ノ日ヨリ公債ヲ渡ス  
マデ、二箇年トアリマシタノヲ修正ニ五箇年ト云フコトニナリマシタガ、其  
長短ハアリマスケレドモ、本員ノ疑惑ヲ抱ク點ハ同シデアリマスルカラ、遞  
信大臣ナリ政府委員カラ御答ヲ願ヒタイ、既ニ買收サレタ鐵道デアル以上ハ  
其株主タル者ガ株ヲ持チナガラ最早ヤ會社ノ無イモノデアルカラ、ソイツヲ  
持ツテ融通ニモナリマスマイ、然ルニソレニ代ハルベキ公債ハ二年間渡ラナ  
イ、サウスルト何カ金ノ要ルコトガアッテ株ヲ賣ラウト思ッテモ賣ルコトガ出  
來ナイ、擔保ニシテ金ヲ借リルト云フコトモ出來ヌト云フ不便ガ生ジマスガ、  
是ハドウ云フ風ニナサレテ其不便ノ無イヤウニナサルノデアリマスカ、勝手  
ニ任セテ置クト云フ趣向デアリマスカ、ソレヲチヨット伺ヒタイノデアリマ  
ス

〔政府委員仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○政府委員(仲小路廉君) 尾崎男爵ノ御問ニ御返答イタシマス、第一ノ御尋  
ネハ原案ノ五箇年トシテモ或ハ修正案ノ十箇年トナツテモ買收ノ率ヲ盛ルノ  
ハ此三十八年以前ノ三箇年ノ標準デアッタノハドウデアルカト云フ、斯ウ云フ  
御尋ネデゴザイマスガ、是ハ全ク此實際ノ弊害ニ顧ミマシテ詰リ此法律ノ發  
布以前ニ於ケル純益ヲ基礎ト致シテソレヲ買收價格ノ標準ト致シマシタ譯デ  
アリマス、全ク是ハ實際ノ弊ニ鑑ミマシテ斯様ナ規定ヲ設ケマシタ、ソレカラ  
尙ホ買收後公債ヲ發行スル間ニハ其株券ガドウナルカト云フ御尋ネデゴザ  
イマスガ、是ハ其間ニ於テモ矢張リ株ノ賣買ハ出來マス譯デアリマス、從ツテ  
質入其他ノ方法ニ付キマシテモ一向通常ノ場合ト何等ノ差ハゴザイマセヌ

タト云フヤウナコトハ、他ノ委員諸君ハドウダカ知リマセヌガ、私ハサウ云  
フ意思ヲ以テ委員會ガ通ツタモノトハ思ヒマセヌ、デ私ハ其修正ニモ反対デ  
アリマスカラ、格別デアリマスガ、サウ云フ意思デ始メハ政府ノ意思ガ定マ  
ラヌヤウデアッタガ、其意思ガ定マッテ來タカラ云々ト云フコトハ、少シモ私  
ハ考ヘテ居リマセヌカラ、チヨットソレヲ辯ジテ置キマス、唯今ハ議長閣下  
ニ向ツテ御質問ヲスル譯ニハ參リマセヌカラ一應此事ヲ辯ジテ置クノデアリ  
マス、序デニ政府ノ意思ガ村田君ノ言ハレタ如クフランシテ居ツテドウモ  
鞏固デネイト云フコトハ、是ハ別ニ御尋ニナラヌデモ分ルコト思ヒマスカ  
ラ、一言イタシテ置キマス。

○男爵尾崎三良君 此際、通告ノ通り少シ演説イタシテ宣シウゴザイマス  
カ

〔男爵尾崎三良君演壇ニ登ル〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 演壇ニ御出ヲ請ヒマス

○男爵尾崎三良君 本員ハ此法案ニハ反対ノ者デアリマス、サリナガラ鐵道  
國有ハ從來ノ持論デアリマス、デ詰リ唯今古市君ノ申サレタ我ミハ有縁ノ衆  
生ノ方ニ入ルカモ知レマセヌ、鐵道國有ト云フコトニハ反対ハ無イノデアリ  
マス、サリナガラ此仕方ハ甚ダ以テ不同意デアル、チヨット本論ニ入ル前ニ諸  
君へ願ツテ置キマスガ、此問題ハ餘ホド重大ノ事件デアリマスカラ、ドウゾ  
十分ニ雙方ノ意見ヲ盡サセテ其上デ可否ヲ御決シニナルヤウニ致シタイ、無  
論今日ノ話ハ原案カ修正案カドチラカ成立ツデアリマセウ、サリナガラ、ド  
ウカ多數ヲ頼ミニ人ノ言フコトヲ打消シテ早ク討論終結ナドト云フコトノ無  
イヤウニ致シタイ、マダ私ノ後ニ段々通告者ガアリマシテ、私ドモハホンノ  
前座デ、アトニハ追々真打先生タチガ控ヘテ居リマスカラ、ドウカ御退屈デ  
ハアリマセウケレドモ、今日ハ九十日ノ一番終ヒノ日デ、是マデハ殆ンド遊ン  
デゴザツタヤウナモノデアリマスカラ、一日クラ井ハ日ヲ暮シテ御辛抱ナサレ  
テモ當然ト思ヒマスカラ、ドウカ討論終結ナドハ出サレヌヤウニ願ヒマス、私  
ハ此國有鐵道ニハ同論ナノデアリマス、或ハ此法案ニ對スル反対者ノ中ノ或  
ル諸君トハ反対スル意味ガ違フカモ知レス、サリナガラ此法案ニ反対スル上  
ニ於テハ同ジコトデアリマスカラ、暫ク御同論者ト見テドウカ願ヒタイモノ  
デス、ナゼ鐵道國有ニハ同論デアリナガラ此案ニ反対スルカ、ソレハ丁度桑田  
君モ述ベラレタヤウニ、此法案ハ不法ナ法案デアル、是ハモウドコヘ持ツテ行  
テモ不法ト云フコトハ免レヌ、抑々今日立憲國ト稱シ、文明ノ伍伴ニ入ッタトシ  
テスノ如キ強制的二人ノ財產ヲ協定モシナイデ取上ゲルト云フコトハ有ルマ  
ジキコトデアル、此鐵道國有ノコトニ付テハ抑々數十年來ノ宿論デアリマシ  
テ、既ニ去ル明治二十四年、松方伯内閣ノ時分ニ當ツテ鐵道國有ニ關スル取  
調委員ヲ設ケラレタコトガアリマス、其節ニ委員トシテ其事ニ從事イタシタ  
者ハ、其時ノ參謀次長川上操六氏、ソレカラ其時ノ鐵道局長官井上勝氏、ソレ  
カラ鐵道局技師長松本莊一郎君デアリマシタ、私ガ其中ニ一人加ハッテ之ヲ取  
云フ名義デ、其冬ノ衆議院ニ提出ニナリマシタ、此法案デアリマスルト其鐵

道ヲバ其會社ト協定シテ之ヲ買上ゲルト云フ法案デアリマシテ、チヨット其法案ヲ、全部讀ンデハ長クナリマスカラ、初メノ一條ヲ讀ミマス、諸君ノ中ニハ御忘レニナツタ御方モアラウト思ヒマスカラ……

## 私設鐵道買收法

第一條 總テ公共ノ用ニ供スル鐵道ハ國ノ所有トスルノ必要ヲ認ムルニ依リ既成私設鐵道ハ第二條以下ノ方法ニ依リ其會社ト協定シテ漸次ニ政府ニ買上タルモノトス

トスウ云フ法案ニナツテ居リマス、斯ノ如ク其時分ハ固ヨリ壓制的ニ無理ヤリニ買上ゲル考ヘハ毛頭無カッタノデ、然ルニ其節ノ衆議院ハドウ云フ論デアリマシタカ、遂ニ之ヲ否決シタノデアリマス、其否決ノ論ノ理由ハ色ニアリマシタケレドモ、其一箇條トシテ此鐵道ヲ買收スルニ付テハ五千萬圓ノ公債ヲ發行スルト云フコトニナツテ居リマス、ソレハ後ノ箇條ニアリマスガ、五千萬圓ノ公債ヲ發行シタナラバ非常ナ國ノ經濟ノ上ニ騒亂ヲ起ストカ、非常ナ悲觀的ノ論ガ一ノ重モナ論デアリマス、遂ニ是レハ否決ニナリマシタノデ甚ダ遺憾ナコトデアリマス、若シ此時ニ此法案ガ成立ツテ居リマスレバ、關西、山陽、九州ノ如キハ皆拂込デモツテ應ズルト云フ殆ド内相談モ出來テ居タ位デアリマス、所ガ其中、一番ムヅカシイノハ何デアルカ、即チ日本鐵道ト甲武鐵道デアリマシタ、日本鐵道ト云フモノハ是ハ今暫ク此儘ニシテ置イテモ差支ヘヌガ、甲武鐵道ハドウシテモ之ヲ買收シテ仕舞ハナケレバ非常ニ差支ヘル、ト申スノハ即チ政府ノ中央線ト云フノハ既ニ設計ニナッテ居リマシテ、未ダ著手ニナツテ居ラナカッタト思ヒマスガ、此中央線ヲ敷設シタ時分ニハ、是非此甲武鐵道ヲ取ラナケレバ咽喉ヲ締メラレテ居ルヤウナモノデアルカラ、總テ政府ノ中央線ノ利益ヲ之ニ占メラレル、ソレノミナラズ政府デ鐵道ヲ公共ノ事業トシテ政府デ經營スル上ニ於テ、是ダケノモノガコヽニ加ハゞテ居タハ非常ニ妨ゲニナルカラ、ドウシテモ速ニ買收シナケレバナラヌガ、ドウデアルカ、ト云フ問題ヲ出シタコトモアリマシタ、此時分甲武鐵道ト云フモノハ非常ナ配當ラシテ居リマシタ、一割四分トカ五分トカノ配當ヲシテ、株券ハ五十圓ノモノガ百四十圓トカ百五十圓トカ云フ値段ガシテ居リマシタ、ソコデ政府ノ足元ヲ見テ非常ナ高イコトヲ言フ、サウ又向フノ言フ通リヤル譯ニモ行カズ、ハテ困ッタモノダト云フ論モアリマシタガ、途ニ若シサウ云フコトヲ言ウテ相當ノ事ニ折合ハナケレバ、政府ハ八王

子カラ品川邊へ持ツテ行ッテ併行線ヲ敷ク、サウスレバ官線鐵道ヲ一貫シテ政府ノ方針モ貫クシ、若シ政府デソレダケ決心ガアレバ甲武モ我ヲ折ツテ相當ノ所デ折合フノデアラウ、若シソレダケノ決心ガアレバ是ハ行ハレル、ソレ位ナ有様デアリマスカラ、若シ其時ニ是ガ成立シテ居タナラバ、今日ハ立派ナ國有鐵道ガ行ハレテ、居ルノデアリマス、殘念ナコトニハ成立タナカッタ、論デアリマシタガ決シテ強買シテヤラウト云フコトハ無カッタノデ、ソレ位ナ國有鐵道ガ行ハレテ、居ルノデアリマス、残念ナコトニハ成立タナカッタガ兎ニ角ソレ位ナ熱心デアリマシタニモ拘ラズ、今日ノ法案ノ如ク人民ノ財産權ヲ蹂躪シテヤルト云フ程ナ、ヒドイ不法ノコトハ無カッタ、サウ云フコトハ頭ニモ上ボラナカッタノデアリマス、御承知ノ通り當時ノ松方内閣ハ世上ニ蠻勇内閣ト云フ批評モ受ケラレタ位ナコトデアリマスケレドモ、今日ノ此法案ノ如キ非立憲的ノ法律ヲ出スト云フ程ナ、マア蠻勇ハ無カッタト見エマス、尤モ法律論トシテハ既ニ法律デ決メタモノデアルカラ、之ヲ法律デ改正スルハ何モ差支ナイ、成ルホド法律論トシテハ、ソレデ單純ナ法律トシテハ差支ナインデアリマセウ、然レドモ苟モ今日法治國ト自ラ稱シ、文明國ノ伍伴ニ這入ッタト云ウテ世上ニモサウ信ジテ居ル最中ニ、斯ノ如キ法律ヲ出スト云フコトハ、甚ダ今日我國ノ信用ヲ害スル爲ニ非常ニ惜ムノデアリマス、若シ此論ヲ擴充シマスレバ此整理公債條例ト云フヤウナモノモ法律デ決マッテアリマスガ、其利息ノ五分ト云フコトモ法律デ決マッテアリマスガ、是ハ法律デ決マッテ居ルノダカラ、此法律ヲ改正シテ四分ニシテモ宜イト云フ論ガ成立ツノデアリマスガ、若シサウ云フヤウナ人ノ權利ヲ蹂躪シテ行ッタナラバ如何デアリマセウカ、即チ法律ガ效力ガ有ルカラ法律ノ手續サヘ履メバ宜イデヤナイカ、ト云ウタラモウ我國ノ信用ト云フモノハ全ク地ニ墮チテ仕舞フニ違ヒナイ、サリナガラ今日ノ内閣ト雖モマサカ此公債證書條例ヲ改正シテ五分ヲ四分ニスルト云フヤウナコトハ爲サヌデアラウ、併シ是ハ法律上出來ヌト云フノデヤナイ、シナイト云フノデアル、其シナイト云フコトハチ人ノ財產權ヲ蹂躪スルカラト云フコトデアル、シテ見マスレバ此人民ノ所有ニナツテ既ニ何年ノ年月ヲ許シテ營業シテ居ル者ヲ、無理ニ或ル一定ノ價格ヲ決メテ取上ゲルト云フコトハ、即チ人ノ財產ヲ蹂躪スル上ニ於テハ五十步百歩デアル、折角今日マデ我國ノ得テ來タ信用ガ是デ全ク潰サレルデアラ

ウト思フ、甚ダ是ハ國ノ爲ニ憂慮スペキコトデアル、即チ論ヨリ證據、今般發行ニナリマシタル所ノ新公債ナドモ初メ外國人ガ餘ホド申込ムデアラウト豫定シテ居リマシタ所ガ此鐵道國有案ガ出タ爲ニ俄ニ外國人ハ此申込ヲ差控ヘタト云フコトデアリマス、現ニ第四回、第五回ノ六分ノ公債ノ外債ハ殆ド一億三千萬以上ニモ上ボッテ居ルサウデアリマス、此新公債ノ條例ガ發行ニナッタラバ外國人ハ大概金ヲ持ツテ行カズニ新タナ公債ト引換ヘルデアラウカラ、内國デ實際之ニ應ジタ所ガ僅ナモノデアルト云フ位ニ當局者モ思ヒ、我ニモサウ思ツテ居ッタガ、豈圖ラムヤ此國有鐵道ガ出タ爲ニ全クヤメテ一億七千万圓ト云フ金ハ大抵外國人ガ金デ持ツテ行キサウデアリマス、今マデ申込ンデ來ヌ所ヲ以テ見ルト金デ持ツテ行クダラウト思ヒマス、尤モ是ハ國有鐵道ト云フ其法案ノ仕方バカリヲ無シニ或ハ此後公債ガ非常ニ膨張シテ下落スルデアラウト云フ懸念モアリマセウ、然レドモ斯ノ如ク私有權ヲ蹂躪スルト云フ一體ノ國ノ性質デアルト云フ所カラ餘ホド疑惧心ヲ懷イテ來タニ違ヒナイ、此外國人ト云フモノハ誰シモ同ジコトデアリマスルガ、尤モ此財產ノ安固ト云フコトニ非常ナ重キヲ置イテ居ル、財產ノ安固ガ何時動クヤモ知レヌト云フ疑念ガ一點アッタナラバ忽チ信用ヲ失ツテ仕舞フ、ソレ故ニ公債ノ申込ヲ中止シタノミナラズ工業會社ノ外資輸入、即チ工業會社ガ是マデ内地ニ高イ利息デ借リテ居ル金ヲ外國人カラ廉イ金ヲ借リテ、是デ事業ヲ起サウトシテ居ル者モ大概皆見合セト云フヤウナコトニ成リヨッタ鹽梅デアリマス、實ニ是ハ憂慮スペキ現象デハアリマセヌカ、ドウモ本員ハ甚ダ了解ニ苦シム、今日斯ノ如ク外國ノ間ニ、我國ノ信用ヲ高メテ來タ場合ニ當ツテ、斯ノ如ク無法ナル法律案ヲ提出サレタト云フコトハ、如何ニモ不思議デアル、今ノ現内閣諸公ハ我從來知人ガ多ウゴザイマスルガ、皆文明的ノ知識ヲ具ヘタ歷々ノ人タチデゴザイマス、依ツテハ必ず立憲的ノ政治ヲ是カラ追ニ施サレルコト信用イタシテ居タ所ガ、豈圖ラムヤスノ如ク非立憲的ノモノヲ熱心ニ固持セラル、ト云フコトハ殆ド不思議ニ堪ヘナイ、斯ノ如ク人民ノ財產ノ權利ヲ顧ミナイト云フコトハ專制時代ト雖モ固ヨリシナイコトデアル、又露西亞ノ如キ壓制ノ國ト雖モ恐ラクハ斯様ナコトハシマイ、支那政府、朝鮮政府ト雖モ斯様ナコトハドウモシナイト思フ、或ハ國家ノ必要ニ應ジテ一時、人ノ財產ヲ徵集スルコトガアル、成ルホド土地收用法ノ如キ或ル場所ガ是非國家ノ爲ニ必要デアルト云フ以上ハ、其持主ノ承諾不承諾ニ關ラズ、相當ノ代價ヲ拂ツテ之ヲ徵

收スルト云フコトガアリマス、併ナガラ或ル一定ノ場所、是ガ必要ダト云フト、決シテソレニシテモ初メカラ是ダケデ買フゾト云ウテ決メルノデハ無イ、先ヅ本人ニ幾ラナラ宜イカ言ハシメテ、又コチラモソレチャア高イカラストスルトカ、ア、スルトカ雙方カラ十分ナ相談ヲシタ上デ、ドウシテモ折合ハヌト云フトキニハ評價人ヲ立テ強制スルト云フコトニナツテ居ル、國ノ萬仕舞フト云フコトハ實ニヒトイ、壓制ノ極デハアリマセヌカ、衆議院デハ斯ノ如キ不法ナ法律ヲ手モナク通過サレタ、衆議院ハ最モ人民ノ輿論ヲ代表スル院デアリナガラ、此儘之ヲ通過サレタト云フコトハ、我ニ甚ダ不思議ニ思フガ、是ハ畢竟黨派ノ然ラシムル所デアッテ、今ノ總理大臣ハ或ル大政黨ノ首領デアルカラ、何デモ彼デモ是デモ非デモ其政府カラ出タモノナラバ通サヌト、黨派ノ面目ニ關ハルト云フ懸念デモアルカ知レマセヌガ、是ハ我ニハ甚ダ失望スル譯デアリマス、ソレカラ唯会贊成者ノ一人トシテ古市君ヨリ御演説ニナツタ御説ヲ聞クト、鐵道ト云フモノハ獨占事業デアルカラ是ハ政府デセニヤナラヌ、近來益々此獨占事業ト云フコトヲ世間デ言フヤウニナツタト、成ルホド本員等モ其説ハ豫ネテ聞イテ居ル、聞イテ居ルノミナラズ、是ハ政府デベキモノト豫ネテ思ウテ居ル、思ウテ居ルガ、是マデ年限ヲ決メテ是ダケノ期限ノ間ハ營業ヲ許スト云ウテ立派ニ法律ナリ特許條約デ決メテ置イテ、ソレヲ俄ニ思ヒ立ツテ是ハ獨占事業デアルカラ政府デセニヤナラヌ、今日ヨリ取ツテ仕舞フゾ、是ハ實ニ暴ナ話デ、殆ド三ツ兒ト雖モ斯様ナ無理ナコトハ言フマイト思フ、成ルホド歐羅巴ニ於テモ獨逸ナリ瑞西ナリ奥地利、匈牙利、伊太利アタリハ追ニ國有鐵道ニシマシタ、國有鐵道ニシマシタケレドモ、ドコノ國モ斯ノ如ク酷クヤッタ國ハ無イ、獨逸ノ如キハ諸君モ御承知デアリマセウガ、例ノ鐵血宰相トモ言ハレタ非常ニ意思ノ強イ隨分壓制モヤリ兼ネマイト思ハル、ビスマルク、アノ人ガ鐵道國有ヲヤッタノデアリマスレドモ、ル會社ノ鐵道株ヲ竊ニ自分ノ腹心ヲ以テ買占メテ、サウシテ多クノ株ヲ持

チ、段々此鐵道ノ配當ヲ少クシテ、鐵道株ヲ廉クシテ、サウシテ巧ニ之ヲ買收シタト云フコトデアリマス、即チ是モ其會社ト協定シタノデアリマス、又近來最モ著シイノハ瑞西デアリマスガ、瑞西デハドウシタカト云ヒマスト、是モ何カ強制デヤッタヤウニアリマシタガ、段々調べテ見マスト是ハ強制デナイ、御承知ノ通り瑞西デハ二十二「カントン」トカニ分レテ、其各州ニ於テ許シテ居ツタ鐵道ヲ今度瑞西ノ共和政府即チ「コンフェデレーション」ト云フ上ノ中央ニ買上ゲタト云フコトデアル、買上ゲタニシテモ營業年限中ニハ買上ゲナイ、期限ノ來タ時ニ買上ゲタノデ、是ハ強制的デアリマスガ、期限ノ來タ時ニ買上ゲルトシテ見レバ、強制的デモ初メノ約束通リダカラ仕方ガ無イ、ソレカラ匈牙利アタリハ初メカラ鐵道國有ニシテアルサウデスガ、大變能ク行ツテルサウデス、匈牙利アタリハ中央カラ蜘蛛ノ巣ノヤウニ出テ居ツテ、何哩マデハ何錢、何哩マデハ何錢ト云フヤウニ、マア三錢均一ト云フ譯ニハ行キマセヌケレドモ、極ク廉ク人民ヲ乗セテ居ルト云フコトデアリマス、サウナレバ誠ニ結構デアリマスケレドモ、人ノ權利ヲ無理ニ取ツテヤツタト云フコトハ一向聞カナイノデアリマス、ソレカラ此法案ノ條項ニ付テモ甚ダドウモ不都合ナコトガ多カラウト思ヒマスガ、今日此原案ハ五年ノ間ニト云フコトニナツテ居リマスガ、此五年ノ間ト云フコトモ、先刻村田君ヨリ質問モアッタ通り、一向誠ニ漠然トシタコトデアッテ、五年以内ナラ何時デモ宜イ、今日直グヤツテモ宜イト云フコトニナリマスノデアリマスガ、マサカサウ云フコトモセヌデセウガ、併シ一向分ラナイ話デアル

## 〔議長公爵德川家達君議長席ニ復ス〕

之ヲ又今度ノ修正デ十年トサレタ、益是ハ困ルデアラウト思ヒマスガ、鐵道ト云フモノハ御承知ノ通り年々月々ニ進歩シテ行クモノデアリマス、ダカラ今年八分ノ收益ノモノハ來年ハ八分五厘ニナリ、其次ニハ九分ニナルカモ知レナイ、又總テノ設備ト云フモノモ年々ニ改良シテ完全ニシテ行クト云フ方針デナクチャアナラナイ、所ガ何時買上ゲラレルヤ知レスチウ話ニナツテ見ルト一向之ヲ我物トシテ良クスルト云フ精神ハ無クナツテ仕舞ウテ、益是ハ鐵道ト云フモノハ不都合ノモノニナリハセヌカ、從ツテ公衆ノ不便ヲ來タシ危害ヲ及ボスト云フコトニナリハセヌカ、成ルホド利益金ノ二十倍ト云ヘバ今日ニ於テハ餘ホド寛大且ツ公平デアルヤウデアリマスケレドモ、是ハ段々不公平ニナツテ來ヤウト思フ、ト申スモノハ今日デモ既ニ鐵道會社ハ各會

社銘々勘定ノ仕方ガ皆違ツテ居ル、色ニナ勘定ヲシテ居ル、ソレハ利益ノ少い短距離ノ會社ナドニ至リマスルト、何トカシテ利益ヲ出シテ株主ニ配當ヲシナケレバ株主ガ喧マシクテ堪ラス、即チ重役ノ位置ガ保タレスカラ、利益ニナルベキモノデ無イモノデモ利益ニシニ諸君モ鐵道ニ幾ラカ御關係ノ方ハ皆御承知デアリマセウガニシテモ、費用ニシテモ、營業費ニ屬スペキモノノ工業費ニシテニシテニシテ即チ此今日日ニ出サヌナラヌ入費ヲ收益ノ中カラ出スチウト利益ガ少クナリマスカラ、工業費ノ元金ノ方へ回シテ元金ヲ多クシテ、サウシテ無理ナ配當ヲシテ居ルノモアル、是等ハ利益ノ二十倍ト云ヘバ、喜ンデ飛付イテ買收ヲ望ムデアリマセウ、所ガ或ル收益ノ多イ會社デアルト、ナカノヲ運搬スルノニ高イ運賃ヲ取ツテ利益ノ方ヲ餘計出シテ種々様ニノ事ヲシテ無理ナ配當ヲシテ居ルノモアル、此配當金ハサウ十分ニセズニ成ルベク此利益金ノ方カラ設備、線路ノ修理、車輛ノ修繕等ニ使ツテ鐵道ヲ完全ナモソンナコトハシテハ居ラヌ、成ルベク根本ヲ培養ヲシテ鐵道ヲ良クシテ完全ニセニヤナラヌト云フ觀念ガ深イカラ此配當金ハサウ十分ニセズニ成ルベクニナル、一體云フト此鐵道ノ營業ト云フモノハ政府ガ即チ監督シテ居ル譯デアリマスカラ、成ルベク此是ハ唯ノ人民ノ營業トハ言ヒ條、公共ノ利害ニ關スルモノデアリマスカラ、成ルベク設備ヲ十分ニシテ公衆ニ危害ヲ及ボサヌヤウニ、他年ノ後ニ非常ニ困ルコトノ無イヤウニ、監督シテ良クサセネバナラヌ、サウシテ居ルデセウ、所ガ此法案ニ依ルト、政府ノ趣意ニ隨ツテ配當モ十分ニセズニ設備ヲ十分ニシテ完全ナモノニシテ居ルヤツハ却ツテ廉ク買上ゲテ、廉ク取ツテ、サウシテ政府ノ目ヲ偷ンデ何トカカントカゴマカシテ非常ニ無理ヤリニ配當ヲシテ居ルヤツノハ非常ニ高ク買ツテ之ニ褒美ヲ遣ル、殆ド賞罰反對ニナツテ居ルト云フ有様デアル、斯様ナ其鐵道會社ト云フモノハ三十二ハ此元原案ニハアリマシタガ、三十一トモ皆内輪ガ違ツテ居リマス、セテ居ル所ト、利益ハ兎モ角モ成ルベク此修理ノ方ニ廻シ、線路保存ノ方ニ廻シ、何カニ廻シテ居ルト云フノノ之ヲバ一蓮托生同ジニヤルト云フノハ實ニヒドイ話デアルト私ハ思フ、シテ見ルト是カラ先キ政府ノ監督官廳ノ言フ通リスレバ損ガ行ク、何デモヨリ偷ンデ何ト言ハレテモ構ハヌ、コツチノ思フヤウニヤラニヤイカヌト云フコトニナルト思フ、斯ウ云フコトハ政府トシ

テ爲スマジキコトデアルト思フ、ソレガ此箇條ニ付テ申セバ色ニアリマスケレドモ、先ツ此買收代價ヲ五分ノ率ニシテ額面ノ價格デ渡スト云フコトハ甚ダ是ハ壓制デアルト思フ、成ルホド今日ハ五分ノ利子ガ九十二三圓カラ五六圓ニモナツテ居リマセウカラ、エライ損モ無イヤウデアリマスケレドモ、其中此公債ガ段々下落シタナラバ如何デゴザイマセウ、是ハ此持主タル者ガ非常ナ損耗ニナリハシマスマイカ、今日當局者カラ回サレテアル所ノ参考書ニ依リマスルト、日鐵會社ノ株主ハ一株ニ付テ百二十圓カ公債デ拂フト云フコトニナツテ居リマスガ、是ハ今ノ公債ノ價格ニ換算シテ見マスレバ、殆ド百十圓餘ニナリマスカラ、此株ヲ持ッテ居ル人ハ非常ニ得ヲスルヤウニ思フ人モアリマセウ、又諸君ノ中ニモサウ云フ御考ヘノ御方モアルト思ヒマスガ、是ハ能ク御考ヘニナラヌト隨分ヒトイ目ニ遭フデアラウト思ヒマス、公債ノ價格ト云フモノハドウ變ズルカモ分ラヌ、段々先刻カラ御論ガアリマシタガ、公債ガ多クナレバ下落スルト云フコトハ當リ前ノ趨勢デアラウト思フ、若シヤ是ガ今日ノ公債ガ八十圓ニモ落チタラ如何デアリマセウ、ソレデーツ算用シテ見タラ忽チ利害ハ分ルデアラウト思フ、成ルホド此節ハ九十二三圓カラ五六圓ヲヤット維持シテ居リマスケレドモ、此價格タルヤドウモ眞ノ價格デナイト思フ、是ハ竊ニ此價格ヲ維持スル爲ニ買上ゲテ居ルデアラウト思フ、デ此大券ト云フ五百圓トカ千圓トカ云フ公債ニナルト值ガ高クッテ百圓以下ノ公債ハ非常ニ廉クナケレバ誰モ買手ガ無イト云フヤウナ譯ニナツテ、是ナドモ同ジ政府ノ公債デアルノニ大券ト小券デ值ガ違フガ、或ル手筋ヲ以テ大券ダケヲ買上ゲルカラ斯ウ云フコトニナルダラウト思フ、其上ニ此公債ニハ所得稅ヲ課セラレル、諸君ノ御所有株ノ配當金ハ既ニ所得稅ヲ引イタ上ノ配當金デアルカラ、此配當金ト公債ノ利子ト大概同ジデアッテモ、所得稅ダケハ、ハヤ損ヲスルト云フ譯デスガ、是ハ個人ノ利害デアルカラ國家ノ爲ニ犠牲ニ供スルト云フ公共心ニ富ンデ居ル御方モ無論アルデアリマセウ、然レドモ斯ウ云フ財產ガ始終安心ナラヌト云フコトニナルト、此國ノ信用ト云フモノハ非常ニ損スル、此國ノ信用ヲ損スルト、是カラ後、又政府モ外國ニ於テ外債ヲ募ラヌナラヌデアリマセウガ、此上ニ於テ非常ナ損ガアル、是ハ外國人ガ朝ドウモ日本ノ政府ト云フモノハ當テニナラナイ、何時、人ノ財產權利ヲ蹂躪シテモ自分ノ得手勝手ノ時ハ構ハナイト云フ觀念ヲ頭ニ起セタナラバ、餘ホド是ハ說得シテモ又コチラノ好イ條件デ外債ヲ募ルト云フコトハ、ムツ

カシカラウト思フ、ソレハ向フハ金儲主義デアリマスカラ、高イ利息ヲ出シテ有益ナル條件ナラバ幾ラデモ應ジマセウ、戰時ノ際ノ如ク六朱付利息ノ九十圓ト云フコトナラバ、ソレハ出來モシマセウガ、サウ云フ事ニシタラ、經濟ノ立ツ話デナイカラ、何レ此外債ヲ募ル時ハ、此以前ノ五億ヨリモダ、モチツト條件ノ好イモノデ募ラナケレバナルマイト思フ、ガ若シ斯ウ云フモノガ成立ツテ行ハレルト云フコトニナツタナラバ、信用ガ餘ホド減ジテ、此結果タルヤ非常ノ影響ヲ及ボスダラウト思フ、是ガ甚ダ私ハ憂惧ニ堪ヘナイ。ソレカラ此買收ノ際ニ紛議ガ生ジタ時ハ審査委員ノ決定ヲ原案ハ終局トスルコトニナツテ居リマスガ、此修正案ニ於テハ之ニ不服ノトキハ訴願ヲスルコトヲ得ルト云フコトニナリマシテ、稍前ノヨリモ少シハ増シカト思ヒマスガ、此訴願ト云フモノモ格別アテニナラヌ、テ此審査委員ト云フモノハドウ云フ組織カト云ツテ聞イテ見マスレバ、ソレハ在朝在野ヲ問ハズ知識經驗ノアル人ヲ以テ之ヲ選ムト云フ、唯今遞信大臣ノ御說デアリマシタガ、ヨモヤ嘘此紛議ガ起ルトキニハ即ち此兩方ノ價額ハ是デ決マッテ居ルケレドモ、其餘ノデハアリマスマイケレドモ、サリナガラ根本ガ執令デ決メルト云フノデアリマスカラ、ドウ云フ者ヲ任命サレテモ何トモ言ヒヤウガ無イ、シテ見ルト詰リヘバ即チ一方ノ政府ガ命ズルノデアル、シテ見ルト是ハ原被兩造ノ争ニ、原利害ノ衝突ガ起ツタ時ハ此審査委員デヤル、其審査委員ハ誰ガ命ズルカラ云告ガ裁判官ヲ命ジテ、ソレニヤラセルト云フヤウナ話デアッテ、一向是ハ當テニナラナイ、ソレカラマア最モ茲ニ憂慮スルコトハ、明治三十五年後半期ヨリ三十八年前半期マデノ營業利益金ヲ買收ノ標準價額トスルト云フコトニナツテアリマスガ、是ガ今日直グニ買收スレバ二十倍ダカラ非常ニ宜イデヤナイカト云フ譯デアリマスケレドモ、是ガ五年十年經ツタ曉ハドウナリマセウ、二十倍ガ十倍ニ當ラヌコトニナルカモ知レマセヌガ、ソレデモ一旦モウナツタモノダカラ是デヤルト云フコトハ是ハ非常ナ不都合ナ法律デヤナイカ、全體法律ノ根本其モノガ強制的デアッテ、甚ダ不法ナ仕方デアルノミナラズ、此箇條ガ餘ホド不都合ナ結果ヲ生ジテ、遂ニハ事情ドウモ今日ノ如ク發達シタモノヲ十年前ノ價額デ買フト云フコトハ如何ニモ無理ダ、人民ハ常識ヲ具ヘテ居ルモノデアリマスカラ、其多數ハサウ思フ、五千万ノ人民ガ五千万共ニサウ思フ、如何ニ内閣ガ無理ニヤラウトシテモ出來ナイ、事情許サ

ナイト云フコトニナリハセヌカ、又尤モ内閣ト雖モ時々變ハルモノデアッテ、能ク是等ノ事情ヲ解シタ常識ニ富ンダ内閣ガ出タラ之ヲ改正スルニ違ヒナイ、其長イ年月ノ間ニハシシテ見ルト是ハ決メテ置イテモ何モナラヌト云フ話ニナリハセヌカ、サリナガラ是ハ決メテモ後ニ是ガサウ云フ事情カラ改正スルト云フコトニナレバ、非常ニ我ニハ望ム所デアリマスカラ、強ヒテ理窟ハ言ヒマセヌケレドモ、一體此法案トシテハ甚ダ不完全ナモノデアルト言ハネバナラヌ

「簡単簡単」と呼ぶ者アリ】

簡單ニハ言ヘナイ、是ハナカヽ重大ナ事件デ、日本鐵道バカリテモ一億三千萬カラノモノデアル、皆之ヲ言ヘバ五億カラニナルダラウト思フ、ナカヽアナタ方ハ御金持ダカラ五億グラヰノ金ハ何デモ無イカモ知ラヌケレドモ、我ミニ取ツテハ非常ナ大事件ト思ツテ居ルカラ、逆モ簡単ニハ言ヘナイノデス、  
今吉市君カラ申サレタノハ條例ノ年限ニ依ツテ之ヲ買收スルコトニナルト非常ナ損ニナル、言ハヽ會社ガ損ニナル、二十倍若クハ株券ノ時價ニ依ルト云フコトデアルカラ、今日ノ二十倍ハ餘ホド寛大ナコトデアルカラ却ツテ條例ニ準據セラレタヨリハ結構デアル、ソレハ丁度其期限ニ至ツテ二十倍トカ何トカ云フコトニナレバ、或ハ宜イカモ知レマセヌケレドモ、今日未ダ其場合同ニ至ラヌノニ、今日ノ二十一日デヤナイ、一年ホド前ノ相場デ以テ五年モ六年モ先キノコトヲ極メルト云フコトハ甚ダドウモ不法ナ仕方デアル、ソレカラ此附則ノ三十九年二月一日ヨリ後ハ貯藏物品ノ購入、建設費ノ増加ヲ生ズル施設ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルト云フコトニナッテ居リマスガ、是ナドモ餘ホド無理ナ話ト思ヒマス、今度ハ此法律發布ノ日トカ云フコトニ改正ニナリマシタカラ、幾ラカマアユトリハ付キマシタガ、ソレニシテモ是ガ一ト月ヤ二タ月ナラバ、ソレハ宜シウゴザイマスケレドモ、此修正案ノ通りニナルト十年先キマデ行カヌナラヌカモ知レナイ、其間一々貯藏物品ヲ買クトカ此所ニ線路ヲ一つ延バストカ何トカ云フ場合ニハ一々主務大臣ノ認可ヲ受ケヌナラヌ、此鐵道ト云フモノハ年々歳々月々進歩シテ行クモノデアリマス、之ヲ主務大臣ガドウナサル積リカ知ラヌ、ソナイニ入費ヲ増シタラ高クナルカラヤメロト云フコトニナサル積リカ知ラヌガ、是ハ非常ニ鐵道其モノノ發達ヲ妨ゲテ國ノ進歩ヲ妨ゲル、即チ此日本ハ既ニ二十億近クノ借金ヲ背負ヒ又此上ニ借金ヲ背負フト云フ譯デアリマスカラ、之ヲ元利返シヲ行カネ

思フ  
國ノ信用ヲ重ンズル上ニ於テ四千萬圓クラヰノ金クラヰニハ換ヘラレヌト  
ト思フ、尤モ金ハ餘計出サヌケレバナラヌコトモアリマセウ、ソレハドウモ  
ハ贊成ハ出來ナイ、殘念ナガラ贊成ハ出來ナイ、我ミノ思フ如クニ之ヲスル  
ト云フコトニナレバ、固ヨリ年數モ掛リマセウ、サリナガラ十年ノ間ニハ  
大概出來ヤウト思フノデス、今度ノ修正案ノ如ク十年ニナレバ大抵出來ヤウ  
ト思フ、本員ハ思フノデス、本員ハドウモ此國有ノ鐵道ト云フモノ  
置カニヤナラヌト本員ハ思フノデス、本員ハドウモ此國有ノ鐵道ト云フモノ  
ハ熱心ニ一體ハ贊成ナノデアリマスケレドモ、今度ノ如キ此非立憲的ノ仕方  
ハ贊成ハ出來ナイ、殘念ナガラ贊成ハ出來ナイ、我ミノ思フ如クニ之ヲスル  
ト云フコトニナレバ、固ヨリ年數モ掛リマセウ、サリナガラ十年ノ間ニハ  
進メテ行クコトヨリホカ仕方ガ無イ、其國ノ發達ヲ進メヤウト云フニハ此鐵  
道ノ如キ交通機關ヲ益々進メテ行カヌバナラヌ、此世ノ中ニ一々主務大臣ノ  
認可ヲ受ケネバ之ヲ發達ナセルコトガ出來ナイト云フヤウナ不都合ナコトハ  
甚ダ以テ宜シクナ、即チ我手ヲ括ッテ働ケナイヤウニスル趣向ニナリハシ  
マセヌカ、ソレカラ此國有鐵道トスルニハ色ニ之ニ添ウタ法律ガ必要デアラ  
ウト思フ、即チ瑞西アタリデモ獨逸アタリデモ皆法律ヲ規定シテアル様デア  
ル、賃金ヲ無暗ニ上ゲルコトハナラヌトカ、此營業ノ上ニ於テ成ルホド先達  
テ國務大臣ヨリ、國有トシタト云ウテ決シテ賃金ヲ上ゲヌ、許ス限り下ゲル  
ト云フ御話デアリマシタガ、是ハドウモ當テニナラヌ、固ヨリ唯今ノ國務大  
臣ハ嘘ヲ御吐キナサルコトハ無イカラ、サウスル積リデアリマセウガ、積リ  
ト云ソコトハ外レルモノデアツテ何カノ事情ニ依ッテ金ガ要ルト云フト、一番  
手近キ賃金ヲ上ゲレバ宜イト云フ様ナコトガ起ツテ來ル、ダカラ是等モ法律  
デ何トカ決メテ置カナケレバナラヌト思フ、現ニ先年關西鐵道ト政府ノ東海  
道線トノ競争ガアツタ末、關西鐵道ハ旅客貨物ヲ自分ノ手ニ引カウト思ウテ  
運賃ヲ廉クシテ非常ナ旅客荷主ニ便利ヲ與ヘタ、所ガソレガ爲ニ此官線ノ方  
ハ旅客貨物ガ大變減ツテ非常ニ困ツタ、ソレカラ政府ノ方カラ貴様ノ方ノ様ニ  
サウ運賃ヲ引下ゲテハ困ル、是非官線ト同ジ様ニシロ、マア相談カ達カ何カ  
知ラヌガアツテ、非常ニ困ツタト云フコトヲ私ハ聞イテ居ル、斯ノ如ク人民ノ鐵  
道ヨリモ政府ハ運賃ヲ高クシテ居ツテ、人民ガ下ゲルト、之ヲバ強制シテカラ  
ニ上グロト云フ位ノ勢デアリマスカラ、ドウモ是等ノコトモ法律デ規定シテ

「簡単」ト呼ブ者アリ

御退室ナラバドウゾ御歸リ下サッテモ宜シウゴザイマス、マダ色ニアリマスケレドモ、マダアトニ大先生ガ控ヘテ居リマスカラ、先づ私ハ此位ノコトニ致シテ置キマセウ、ドウゾ是ハ第二讀會ヲ開カナイコトニ決議ヲ致シタ、サリナガラ萬一ソレガ通ラヌ時ニハ修正案ガ出マスレバ幾ラカ原案ヨリ増シナラバソレニ賛成スル積リデアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 武井君

○武井守正君 私ハ極メテ簡単デゴザイマスカラ此席ニ於テ申シタイト思ヒマスガ……

○議長(公爵徳川家達君) 御登壇ヲ願ヒマス

〔武井守正君演壇ニ登ル〕

○武井守正君 私ハ此案ニハ賛成ノ出來ナ一人ゴザイマス、併ナガラ委員會ニ於キマシテ、イタク修正セラレマシテ、此修正ニ依リマスレバ經濟界ヲ攬亂イタシマスコトガ薄ライダト存ジマスカラ、修正案ニ對シテ修正……賛成ヲ致シマスノデアリマス、デ其意見ヲ茲デ陳述イタシマスト時間ヲ要シマスカラ、モウ今日ノ場合ニナリマシテ、私等ノ意見ヲ喋々シテ時間ヲ費シマスコトハ惜ミマスカラ、唯一一言イタシテ直グニ壇ヲ下リヤウト存ジマス、幸ニ委員會ノ修正案ガ成立イタシマシテ通過ヲ致シマシテモ此案ハ再ビ衆議院へ回リマスモノデアリマスカラ、或ハ後刻再ビ此議場ニ現ハレテ又議サヌナラヌ場合ガアルカモ知レヌト存ジマス、其節ニ會社ノ數ガ此委員會ノ修正デハ稍半バホド削ラレテ居リマス、又年限ハ倍若クハ倍以上ニ延ビマシタノデス、是ガ私ノ賛成ヲ致シマスル譯ナノデゴザイマスカラ、若シ不幸ニシテ再ビ現ハレマス時ノ成案ガ會社ノ數ヲ一會社タリトモ増スヤウナコトガアリマストカ、若クハ年限ヲイタク短縮サレマスル等ノコトガゴザイマスレバ、本員ハ立戻ッテ之ニ不同意ヲ表シマス

〔ヒヤー」「ト呼ブ者アリ〕

是ヲ以テ豫メ豫言ヲシテ修正案ヲ賛成イタシマス

〔採決ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 村田保君

〔村田保君演壇ニ登ル〕

○村田保君 本員ハ固ヨリ此原案ニモ不同意デゴザイマス、又委員ノ修正ニ

モ反対ヲ致シマスル一人デアリマス、ソレデ本員ノ第一反対ヲ致シマスル理由ト申シマスルモノハ、此國有法案ノ此法律ノ精神カラ論ジテ見マスノニ、

此中ニハ買収ト云フコトガゴザイマスガ、是ハ買収デハナイ、本員ハ是ハ決シテ買収トハ思ハヌ、買フト云フコトガアレバ、必ズ一方ニハ賣ルト云フコトガナケレバナラヌ、決シテ買フト云フコトガ片務ナモノデハナイ、片方デ

買フト云ヘバ片方デ賣ルト言ハナケレバ賣買ト云フコトハ出來ナイ、所ガ此法デ見マスレバ買フンヂヤナイ、是ダケノ金ヲ以テソレヲ寄越セト云フノデ

スカラ、ソノ者ガイヤト言ハウガ取上ゲテ仕舞フ、謂ハユル是ハ買收法デナクテ強奪法デアルト言ッテ宜イ、是ハ決シテ諸君モ之ヲ買收トハ

御認メニナラスト思フ、ナゼト申スナラバ例ヘバ一方デ是ダケデナクチヤ賣

レヌト云フモノヲ此方ハ是デ宜イカラト云ッテ持ッテ來タラ如何ナモノデス、一個人ガ瓦ノ賣買ノ場合ニ、是ダケノ金デ宜イカラト言ッテ持ッテ來タラ強奪ニ違ヒナイ、刑法上ノ責ハ免レナイ、ソレハ即チ政府ガ會社カラシテ強奪スル、決シテ買収トハ言ヘヌ、若シ又之ヲ買収ト云フコトナラバ、會社ガ宜シウゴザイマス、ドウゾ御買ヒ下ステ宜シトイト云フコトナラバ、ソレハ買收デアリマセウ、一方デ賣ルト云フコトニナルノデアリマスガ、是ハ會社デ賣ルノデナイ、會社カラ云ヘバ奪ハレルノデ、何レノ會社デモ是ハ必ズ買ハレタトハ思ハヌ、奪ハレタトシカ、ドウモ言ハヌダラウト思ヒマス、ソレデドウモノノ謂ハユル所有權ヲバ侵害シタニ相違ナイ、憲法ニ於テ憲法上、人ノ所有權ト云ラモノハ公益ノタメ法律ヲ以テ奪ハレルノ外ハ決シテ人ノ所有權ハ奪フコトハナラヌト云フノ憲法ガアル、先刻モ段々出マシタ土地收用法ハ強制ノデス、是ガ私ノ賛成ヲ致シマスル譯ナノデゴザイマスカラ、決シテサウデナイ、アレト雖モ其通り決シテ奪フノデヤナイ、土地收用法デモ公益ノ爲、公益ノリマストカ、若クハ年限ヲイタク短縮サレマスル等ノコトガゴザイマスレバ、本員ハ立戻ッテ之ニ不同意ヲ表シマス

〔ヒヤー」「ト呼ブ者アリ〕

來マイト思ヒマス、ソレナラバ、此國有法ガ公益デアルカト云フト決シテサ  
ウデナイ、成ルホド今度ドコカラドコマデ鐵道ヲ敷クト云フコトナラバ公益  
デスケレドモ、政府ノ都合デ買上ゲル、政府ガ鐵道ノ統一ヲシタイトカ、或  
ハ此後ノ政府ノ收入ヲ増シタイトカ云フ、政府ノ都合デ買上ゲルノデスカラ、  
公益デヤナイ、是ハ政府ハ憲法ニ矛盾シタ法律ヲ出シタンダト本員ハ思フン  
デス、ソレデ斯ノ如キ法律ヲバ、衆議院ハ成ルホド通リマシタデセウ、ソレ  
ハ先キホド尾崎君ノ言ハレルヤウナ關係モアリマスカラ通リマシタデセウ、  
貴族院トシテハ決シテ通シテハナラヌ、我ミハドコマデモ貴族院タルモノハ  
責任ガアル、斯ウ云フ憲法上ニ關スル……政府ガ會社ノモノヲ強奪スルヤウ  
ナ法律ヲ貴族院ガ通シタラ實ニ我ミハ餘ホド責任ガアルト存ジマスカラ、本  
員ハ斯ノ如キ法案ハ決シテ我ミハドウシテモ通過サセテハナラヌト思フノ  
デアリマス、成ルホド專制政府壓制政府ナラバ、ソレハ或ハ斯ウ云フコトヲ  
ヤルカモ知レス、併ナガラ今日、立憲政體國ニ於テ斯ノ如キ法律ヲ出シテ、  
ソレヲ通過サセタラ、實ニ外國ニ對シテモ面白ナイ、ソレ故ニ本員ハドウゾ  
スノ如キ法律ハ通過セヌヤウニシタイト思フンデス、又一方ノ財政カラ論ジ  
テ見マシテモ、今日ノ日本ハ如何デゴザイマス、實ニ財政困難ノ極ニ達シテ  
居ルト本員ハ思フ、ナゼト云フニ實ニ開闢以來無イ所ノ大ナル二十億ト云フ  
バ、ドウシテモ日本國民トシテハ、ドウシテモ考ヘナクチヤナラナイ、政府  
ハ勿論ノコト、大負債ノ大疵ヲ負ウテ居ル、負債ヲバ償却シナイデ、鐵道ノ  
如キ何モ之ヲバ國有ニシナケレバ鐵道ガ動カヌトカ、或ハ交通ノ不便トカ云  
フコトデモ何デモナイ、サウ云フコトニ容易ナラヌ四億以上ノ公債ヲ發シテ  
サウシテ政府ガ之ヲ買上ゲルコトハ、實ニ今ノ政府ハ本員ナドハ實ニ大膽ナ  
ル政府ト思フ、鐵道國有論ハ屢々起リマシタ、ソレハ今マデモアルデスケレ  
ドモ、今マデノ政府ハ能ウ出スコトハ出來ナイ、然ル所此内閣ト云フモノハ  
コデ是ガ國家ノ維持ガ出來ヌトカ云フコトニナリマスリヤ是ハ仕方ガナイ、  
本員ナドハ非常特別稅ナドハ實ニ惡稅ダト思フ、前ノ大藏大臣ナドモ之ヲ出  
サレルトキニ、大藏大臣自ラ惡稅ト認メルト云フコトヲ言ツタコトガアル、實

ニ惡稅苛稅ニハ違ヒナイガ、國家ノ維持ガ出來ヌト云フコトニナレバ仕方ガ  
ナイカラ、本員ナドモ贊成シテ居ル、ドノヤウナ惡イ稅モ國家ノ維持ト云フコ  
トハ實ニ大切デアル、併ナガラ鐵道ナドハ何デモナイ、國家ノ維持ガ出來ヌト  
云フデモ何デモナイ、ソレノミナラズ公債ナドト云フモノハ多クナレバ自然  
ニ廉クナル、何デモサウデス、獨リ公債ノミデハナイ、物ガ多クナレバ廉クナ  
ルト云フコトハ自然ノ理デヤゴザイマヌカ、然ル所、公債ナドニ至リマシタナ  
ラバ、多クナレバ益<sup>ミ</sup>下落スルノハ極<sup>タ</sup>コトデアル、遂ニハモウ紙屑同様ニ  
ナツテ仕舞フカモ知レヌ、實ニ日本ハ戰爭ニハ非常ナル好イ成蹟ヲ得テ、實ニ  
結構デハアリマスケレドモ、本員ナドハ公債ノ爲ニ國ガ亡ビハセヌカト思フ、  
或ハ亡ビルカモ知レナイ、公債ヲ續々出シテ行ッタラ、終ヒニハ仕方が無イデ  
セウ、持ツテ居ル者モ、斯ウ澤山出セバ必ズ賣ラウト云フコトガ出ルニ違ヒナ  
イ、續々賣出ス、政府ガ幾ラ買上<sup>ゲ</sup>ヤウト云ウテモ水ノ決スル如ク賣出シタ  
ラ、ドウデセウ、ソレハ政府ガ限り無ク賣出スト云フコトニナツタラ、必ズ  
セウ、持ツテ居ル者モ、斯ウ澤山出セバ必ズ賣ラウト云フコトガ出ルニ違ヒナ  
イ、續々賣出ス、政府ガ幾ラ買上<sup>ゲ</sup>ヤウト云ウテモ水ノ決スル如ク賣出シタ  
ラ、ドウデセウ、ソレハ政府ガ限り無ク賣出スト云フコトニナツタラ、必ズ  
セウ、持ツテ居ル者モ、斯ウ澤山出セバ必ズ賣ラウトキニ、國債局長ハ  
十萬圓ノ公債ハ市場ニ賣ルコトハ出來ヌト云フコトヲ言ハレタコトガアル、  
斯ノ如キ譯デゴザイマスカラ、今日はガ澤山出マシタラ終ヒニハ賣ルコトモ  
出來ヌ、ドウスルコトモ出來ヌト云フコトニナルニ違ヒナイ、サウシマシタ  
ラバ、外國カラ金ヲ<sup>シ</sup>謂ハユル外資ヲ輸入シヤウト云ウテモ到底出來ヌコ  
トニナル、ソレヲ考ヘマスト實ニドウモ憂慮ニ堪ヘラレス、ソレデ又此鐵道  
ナドト云フモノハ實ハ營利的ノ事業デスカラ<sup>シ</sup>成ルホド歐羅巴アタリデハ  
鐵道國有ト云フコトガアル、有ツタ所ガ大陸ノ話デアリマス、大陸ハサウデ  
アリマセウ、一ツ間違ヘバ直グニ敵國ニ這入レル、又敵國カラモ這入<sup>シ</sup>テ來  
ル、ケレドモ日本ノ如キ島國ニ於テハ、サウデヤナイ、鐵道デ直グ這入<sup>シ</sup>テ  
來ルコトハ出來ナイ、ソレ故ニ大陸デ以テ獨逸アタリデ國有論ヲシタカラト  
言<sup>シ</sup>テ、日本ガ眞似ラスルニハ及バナイ、其證據ニハ英吉利ヤ亞米利加ハ國  
有デモ何デモナイ、ソレデ此營利事業ト云フモノハ成ルベク民間ニサシテ置  
クガ宜イデス、今日マデ幸ヒト鐵道國有ナドト云フコトヲバ出ス政府ガ無カッ  
タノハ、實ニ本員ナドハ幸福ニ思<sup>シ</sup>テ居ル、誠ニ幸福デアル、萬一斯ウ云フ政  
府ノヤウナノガ早ク出テ議員ヲ寵絡シテ、サウシテ鐵道ヲ買收スルト云フコ

トニナツタラ如何デアリマセウカ、ナカノ日本ノ鐵道ハ、大凡五千哩アルガ、五千哩ノ半分モ出來ハシナイ、幸ナルカナ日本ハ私設鐵道ニシタ御蔭デ今日ハ殆ド五千哩ト云フコトニナツタ、ドウデアリマス、政府ハ初カラ國有論デアリマス、ケレドモ政府ノ拵ヘタ鐵道ハ僅カ千五百哩クラヰシカナイ、アトハ皆私設ダ、私設デヤッタカラコソ五千哩ニモ達スルコトニナツタ、若シ早クカラ是ガ國有デアッタラバ決シテ此半分ニモ達シテ居ナイト云フコトハ、明ニ分ッテ居ル、又競争ト云フコトハ極必要ナコトデ、畢竟民間ノ事業ト云フモノハ競争故ニ發達シテ行クノデス、ソレデ今日民間ノ例ヘテ見ルト鐵道ノ寢臺ヲ作ッタカ或ハ食堂ヲ作ッタカ電燈ヲ點ケタトカ速力ヲ早クシタト云フノハ、ドウデアリマセウ、皆私設鐵道ノ手本ヲ見リテヤッタ皆元ハ私設鐵道カラヤッタモノデス、政府カラ進ンデ寢臺ヲ作ルトカ、煖室ヲ作ルトカ、食堂ヲ作ルトカ云フコトハ無イ、私設鐵道ガ先キニヤッタカラ政府モヤッタ、若シ是ガ官設ト云フコトニナツタナラバ今以テア、云フコトモ出來ナイニ違ヒナイ、其證據ニハ電話デモドウデス、電話ト云フモノハ三年五年タテモドウデゴザイマセウ、政府ニ申シテモ容易ニ拵ヘハシナイ、ナゼダト云フニ畢竟スルニ官設ダカラグ、若シ民間ノ事業ダッタラ蜘蛛ノ巣ノヤウニ出來テ居ルニ違ヒナイ、政府ノ事業ト云フモノハ何事モ皆サウデアリマス、又煙草デモドウデゴザイマセウ、政府ノ事業ノ初メニハ隨分煙草ヲ專賣ニシテヤッタラ政府ハ大變金ニナルヤウニ思ッタガ、サマデ金ニナラヌ、煙草ガ良クナルト思ッタガサウデハナイ、本員ハ煙草ヲ喫ミマセヌガ、滿堂諸君煙草ヲ喫ム御方ハ大方サウ仰シヤル、私ハ異口同音ニ承ッテ居ル、近頃煙草ガ高クナツテ煙草ガ惡クナツタト云フコトヲ皆言ハレル、是ガ論ヨリ證據デス、煙草ヲ召上ガル御方ハキット仰シヤルニ違ヒナイ、近頃ハ高クナツテ惡ルクナツタ、鐵道モ矢張リ官設ニナリマシタナラバ賃錢ハ先日廉クセラル、ト言ッタガ決シテ廉クナラナイ、今日賃錢ト申シマスルモノハ民間ノ方ガ旅客ノ賃錢ガ一哩ニ付テ、政府ノハ一錢四厘四毛、私設ハ一錢三厘四毛、ソレダケ廉イ、又貨物デモ一噸ニ付テ一哩ガ、政府ノ方ガ一錢九厘六毛、私設ハ一錢七厘七毛、シテ廉クナラナイ、今年ノ調査デスガ、其通リ民間ノ事業ノ方ガ廉イデス、政府ハ之ヲ廉クサレリト言ハレルケレドモ、是ガ官設トナリマシタナラバ決シテ廉クナラウトハ存ジマセヌ、ソレカラ先日陸軍大臣ガ頻ニ國防上必要ト云フコトヲ言ハレマスケレドモ、本員ノ考ヘマシタノニ是ハ今日何モ起ツタコトデハ無カラウト

思フ、此日露戰爭ニ於キマシテモ、日本ノ此海陸軍ノ忠勇ナルコトハ是ハモウ論ズルマデモナイ、ケレドモ一般人民ト雖モ日本臣民ト云フ者ハ實ニ國家ニ忠實ナル臣民ダト思フ、決シテ何モ兵器ハ持タヌケレドモ、國家ニ盡スト云フ義務ハ皆ドンナ者デモアツタ、本員モアツタ、本員ナドハ粥ヲ啜ッテモ万分ノ一ヲ供シタイト思ッタ、ソレデ此況ヤ日本ノ法律ノ下ニ立ツテ居ル會社ガ何デサウ云フ軍事上ニ不便ヲ與ヘマシタカ、本員ハ決シテドノ會社デモ會社タルモノガ此軍事上ニ於テ何ゾ不便デモ與ヘタト云フコトガアラウカ、決シテ無イト存ジマス、若シ併ナガラ今マデノ會社ニ於テ、日露戰爭ノ場合ニ、斯ウ云フ不便ヲ與ヘタト云フコトガ、陸軍大臣ニアリマシタナラバ、ドウゾ其會社ヲ示シテ戴キタイト思ヒマス、ソレカラ又本員ハ一ツハ議院ノ定見ノ無イト云フコトヲ驚クデス、此委員會ニ於キマシテ之ヲ修正シテ出サレテ、之ヲ通過サセルト云フコトハ本員ナドハ貴族院議員ノ實ニ定見ノ無イノニ驚ク、ナゼト申スノニ、如何デス、昨年鐵道抵當法ガ議院ニ於テ、昨年僅一年パカリ前ハ私設鐵道ト云フモノガ十分認メラレタデヤアリマセヌカ、サウシテ殊ニ此買收ノ場合ナドニハ原案デハ十年トアルノヲ二十年トシマシテ、成ルタケ外資輸入ヲスルノニモ外國ノ安心スルヤウナ大ニ此私設鐵道ト云フモノニ外資輸入ヲ獎勵シタデヤナイカ、ソレヲ贊成シナガラ僅カ一年バカリデ、今度ハ政府ガ皆之ヲ國有ニスルト云フカラ、ソレナラソレニ贊成シマセウト言ウタラバ、實ニ本員ハ貴族院議員タル者ハ定見ノ無イ者ト思フ、ソレデ又此先刻モ此買收價額ノコトニ付キマシテハ、大層價ガ相當デ殆ド賠償同様ニシテアルカラ、決シテ是デハ會社デ無理ハ無イ、相當ナモノダト言ハレルガ、是ハ相當ト本員ナドハ思ヘナイ、ソレデ此日本鐵道ナドニ至リマスレバ現ニ損ヲシテ居リマス、若シ今度ノ買收價額ニ依リマスルト云フト、餘ホド損ガアル、賠償價額ノ當然受ケマスモノハ一億五千七百萬圓デアルノニ一億三千萬圓シカ受ケラレヌ、二千七百萬圓ハ現ニ損ヲスルト云フコトニナル、ソレデスカラ決シテ是ハ公平ト思ハヌ、ソレデ本員ニ於テハソンナラ鐵道買收ハ出來ヌカト云フニ出來得ル、ソレハ此法律ガ無クテモ政府ハ私設鐵道法ニ於テ買收が出來ル、必要ト認メラレルトキニハ政府ハ買收スル、其代リ會社ト協議スルコトニナツテ居リマス、會社ト協議シテ豫定價額ヲ帝國議會ノ協賛ヲ得モ政府ガ當然買收スルト云フコトニシテ謂ハユル本當ノ買收、強奪デナクシ

テ買收ヲスルト云フコトニナリマスカラ、是デ宜イト思ヒマス、ソレカラ委員會ノ修正ニ第一不同意ヲ表シマスルコトハ先程モ質問イタシマシタガ、此

十五會社ト云フモノヲ除イタ、是ハ支線ダカラ除イタト云フコトデアリマスケレドモ、支線幹線ニ本員ナドハ區別ハ無カラウト思フ、同ク國家ニ必要ナ時ニハドレモ使ハナクチヤナラヌ、ソレデドンナ支線デモ皆全國中何所デモ

行カヌコトハ無イ、サウシテ見ルト之ヲ區別スルノハ實ニ分ラヌ、ソレノミナラズ是ダケヲ取除イテ殆ド半分、日本ノ鐵道ヲバ取ッテ仕舞フノデスカラ、是

デ日本鐵道國有ト云フコトハ言ヘナイ、一部分半國有ナラ宜イ、半國有ト云

フコトシカ出來ナイ、ソンナヲカシナコトヲ此名義ノ下ニ斯ンナ鐵道ヲ態ミ設ケルニ及バヌ、ソレカラ年限モ先キホド申シタ通リ何ニモ必要ハ無イ、又

年限ヲ延バシタトテ、ソレデ政府ガソレモ相談デ早クヤリタケレバ早クヤルコトモ出來ル、ソレモ一向效力ガ無イ、ソレニ訴願法ダケヲ設ケラレマシタガ、終局ガ訴願ニナルダケハ結構デアリマス、ケレドモ行政訴訟ヲナゼ許

サヌカ、隨分此官吏ト云フモノモ：行政官モ不都合ナコトヲヤルダラウ、人ノ權利モ障害シマセウシ、法律ノ違反モヤルコトガアル、ソレニ付テドンナ法律デモ不服ノアル者ハ訴願ガ出來ル、併ナガラ權利ノ障害セラレタトキ

ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得トアル、ソレデ行政裁判ヲ除イタト云フノモ是ハ甚ダ面白クナイ、ソレデ訴願ヲ許ス上ニハドウゾ此行政裁判ヲ許サナ

ケレバナラヌ、本員ハドウゾ委員ノ修正モ否決ニナリ、固ヨリ原案モ否決ニナリ、サウシテドウゾ暫ク此案ヲ否決シテ置キタイ、併ナガラ此政府モ日ガ淺ウゴザイマスカラ、段々考ヘテ後ニドウシテモ是ハ國有ニシナクチヤナラヌト云フナラバ此次ノ議會ヘ出サレルト云フコトニナツタラ宜カラウト思ヒ

マス、ソレデ先程モ本員カラ當年ハ一體ドノ位井、三十九年度ニ於テ買收サレル御考デアルカト云フコトヲ尋ネシマシタガ、ソレモマダ分ラヌ、一向イ

ドウゾ是ハ三十九年度ニ是非ヤラナクチヤナラヌト云フ必要デモ無イ、シテ買收スルト云フ見込モ付カヌカラ何モ此重大ナ問題ヲバ此貴族院ニタッタ一週間モ經タメ中ニ是ダケノモノヲ議決サセルト云フコトハ實ニ不當ナ話、

先ヅ我ニモ能ク又考ヘマセウシ、政府モ十分熟考セラレテ御提出アラムコトヲ望ミマスカラ、先ヅ今日ノ所ハ本員ハ是ダケハ否決シタイト存ジマス

○議長（公爵徳川家達君） 田健治郎君

### 〔田健治郎君演壇ニ登ル〕

○田健治郎君 私ハ此鐵道國有法案ノ賛成者ノ一人トシテ賛成ノ理由ヲ申

述ベヤウト存ジマスガ、此問題ハ頗ル經濟上ナリ財政上ナリ或ハ民業上、非常ニ重大ノ關係ノアリマスル問題デゴザイマスル、故ニ之ヲ廣ク論ズルトキニハナカ／＼容易ニハ…數時間デ論ジ盡セルコトデ無カラウト思ヒマス、

併シモウ皆サンガ餘ホド御論ジニモナツタヤウデアリマスシ、殊ニ會期モ非常ニ切迫シテ居リマスルカラ、到底此理論ナドヲ茲デ喋々申上ゲル時間ハ無

カラウト存ジマス、私ハ極メテ簡單ニ鐵道經營ノ實際ニ付テ利害得失ヲ申上

ゲヤウカト存ジマス、抑、此今日ノ鐵道ノ狀態ハ未ダ鐵道ノ建設セラレヌ前カラ論ジタナラバ確ニ便利ナモノガ出來タニ相違アリマセヌケレドモ、之ヲ完

全ニ發達シテ居ル所ノ先進國ノ鐵道ナドニ比シテ見マスルト、實ニ不完全ノ

有様ト言ハナクテハナリマセヌ、其點ニ於テ何ガ一番不完全カト云フ、今日

ノ狀態デハ殆ド割據ノ有様ニナツテ十分ニ疏通ノ道ガ付カナイ、從ツテ人間デアラウトモ、荷物デアラウトモ、旅行ヲスルノニモ、運搬ヲスルノニモ、極メテ

不十分ナル延滯勝チナ目ニ遭ハナクチヤナラナイ、而シテ旅客ノ賃金或ハ荷物ノ賃金ナドモ比較的高イモノヲ拂ハナクチヤナラナイ、斯ウ云フコトガ大

ナル今日ノ缺點デアラウト思ヒマス、是ハドウシテモ之ヲ統一シ整理シナクテハ完全ナモノニハナリマスマイ、今日ノ狀態ニ於テ先ツ缺點ノ實際ヲ申シマスト、此賃金問題ナドモ反對ノ御方ガ決シテ廉クハナラストカ、或ハ高イ

ト云フコトヲ頻ニ仰セラレマスガ、是ハ確ニ廉クナルノデ、ナゼ廉クナルカト申スト、今日ノ賃金ノ率ヲ其儘ニシテ置イテ、少シノ改正ヲ加ヘナクテモ

私ハ非常ニ廉クナルト云フコトヲ證據立テルコトガ出來マス、今日ハ旅客ノ賃金デアラウトモ、荷物ノ賃金デアラウトモ、總テ遠距離統一制ヲ取ッテ居

リマス、是ハ固ヨリ當然ノ方法デアル、ソレ故ニ此鐵道ガ大キクナレバナルホド益、賃率ハ旅客荷物共ニ非常ニ廉クナツテ來ル、小サイ鐵道ハ小サクナル

ホド非常ニ高イ賃率ニナツテ居ルノデ、是ハ固ヨリ然ルベキ筈デアル、例ヘテ見レバ百哩以下ハ是ダケノ直段ヲ取ル、荷物デ見レバ一錢五厘取ル、ソレカラ百哩以上五厘クラヰズ、下ゲテ行キマスト、三百哩四百哩ニナレバ一錢ト

カ、場合ニ依ツテハソレ以下ニモナル、所ガ小サナ鐵道デアルト其小サナモノ

ダケデ計算ヲシマスル故ニ、大變ナ高イ賃金ニナルノデアリマス、是ハモウ

事實ガ明ニ證明シテ居ル、官設鐵道ガ現ニ賃金ガ高イデハナイカ、斯ウ仰シ

ヤルケレドモ、決シテ高クハナイ、是ハ總體寄セテ見ルト、成ルホド官線ト云フモノガ一ツノ仕組ニナツテ居ッタナラバ、モット非常ニ廉クナツテ居リマセウ、官設鐵道ト一口ニ仰セラレマスケレドモ、官設鐵道ハ確ニ八ツ位ニバラ、ニ分レテ居ル、其分レテ居ル所ノ鹿兒島ノ端カラ、山陰道ノ端カラ、奥州ノ端カラ分レテ居ル所ノモノヲ通ジテ御計算ニナルカラ高イト云フ御疑ガ起ル、ケレドモソレデモ高クハナイデスガ、之ヲ若シ一ノ「システム」ニ官線ガナツテ居ッタナラバ確ニ廉イニ相違ナシ、ト云フモノハ現在ガ廉イ、先ヅ大鐵道デ見マスルト云フト荷物ノ運賃ナドガ一噸一哩一錢八厘クラボデアリマス、然ルニ他ノ小サイ各鐵道ヲ調べテ見ルト、皆二錢五厘、或ハ三錢、是ハ官線モ然リ、私線モ然リ、サウ云フコトニナツテ居ル、ソレデ之ヲ綜合シテ見タル所デ廉イカ高イカト云フコトヲ見マスルニ、官線ガ其様ニ割レテ居ルカラ高ク見エマスガ、實際ハ矢張リ高クナシ、其一例ヲ申上ゲルト先づ相似寄タ所ノ鐵道ノ狀態デ較ベナクテハナリマセヌガ、東海道線ト日本鐵道トヲ便宜ノタメ一番大キナモノ同士ヲ較ベテ見マスト、此統計表ニ出テ居ル所デハ、東海道ハ旅客ガ一人一哩一錢四厘トナツテ居リマス、日本鐵道ハ一錢三厘六毛トナテ居ル、チヨット見ルト官線ノ方ガ四毛高イト云フコトヲ斷言ナサルハ當然デアル、ケレドモ之ヲモウ一ツ解剖シテ見タナラバ官線ノ方ガ廉イ、ナゼ廉イカト云フト、官線ハ御承知ノ通り良イ所ヲ澤山ニ占メテ居リマスガ故ニ、一等車二等車ノ旅客ガ比較的多いノデ、日本鐵道ハ此一二等客ガ少イノデアリマス、ソレデアルカラ本當ノ三等客一人當リノ賃錢ヲ割出サウト云フナラバ、二等ナラ十七割、一等ナラ三十割、即チ三倍ニシタモノヲ以テ謂ハユル客ノ積ヲ割出シテ見テ、ソレデ以テヤラナクテハ本當ノ直段ハ出マセヌ、ソレヲヤツテ見ルト官線ガ一錢三厘〇八ト云フモノニナル、日本鐵道ハ一錢三厘一毛、僅カナガラ確ニ官線ノ方ガ廉イ、荷物ニ於テモ亦然リ、是ハ荷物ニ於テマア日本鐵道ヲ較ベテ見ルト無論、公ケノ報告ニ於テ廉ウゴザイマス、同ジ鐵道狀態ノモノデ、略々近イモノデ較ベテ見マスト、併シ一般カラ見タ所デモ又確ニ廉イノデアル、ナゼカト云フト此官線ノ重モナル東海道線ノ如キ貴重ナル所ノ、運賃ノ高イ物ガ歩合ガ非常ニ多イモノヲ運ブ所ト、日本鐵道若クハモーツ九州鐵道、炭礦鐵道ノ如キ極メテ其廉イ所ノ即チ鐵物トカ云フヤウナモノヲ主トシテ運ブ所ノモノト較ベテ、是デ以テ荷物ノ一噸一哩ノ平均ガ官線ハ高イ、斯ウ云フコトヲ論定スルノハ、是ハマルデ矢張リ實質ヲ調べ

ヌ話デアル、之ヲ調べテ見マスト云フト、現ニ非常ナ差ガアリマスル、デ此非常ナ差ノアル所ヲ見マシテモ官線ハ高クナイト云フコトガ分ル、一番情態ノ相似寄ツテ居ル所ノ日本鐵道ト官線ノ東海道線トヲ比べテ見ルト云フト確ニ官線ノ方ガ廉イノデアリマス、是ハモウ統計表ニ明ニ載ツテ居リマスルデ、數字ヲチヨット…舉グマスマサイ、ソレカラ今、村田君ハ官ノスル仕事ハ甚ダ進歩シナイ、コイツハ寢臺ニシロ、食堂ニシロ、或ハ赤帽トカ、列車「ボイ」トカ、總テ私設ニ先ンゼラレテ、官ハイツモ不進歩デアルト言ハレマシタガ、是ハ世ノ中ニモサウ云フ論ガアツタト思ヒマス、併シ是ニハ大ニ理由ガアルコトダト云フコトヲ御承知ニナラナケレバナラヌト思ヒマス、ト言フモノハ是ハ元ノ作業局長官松本氏ガ餘ホド議論ガアツテ、彼ノ寢臺車トカ食堂列車トカ云フモノヲ置カナンダノデアリマス、是ハドウ云フ議論デアルカト云フト、元來一等車、二等車ト云フモノハ之ヲ三等車ニ比ベテ見ルト云フト非常ニ割ノ惡イモノデアル、詰リ一等ノ百人乗リノ車ニ…三等旅客ナラバ百人乗レルガ、一等旅客デハ二十四人ヨリ乘レナシ、四倍ニ取ツテ見テモマダ足ラヌデス、三倍ニ取ルト七十二人シカ乘セヌデス、二十八人分損ガイク、然ルニ一等ハ…ソレノミナラズ三等旅客ハイツモ一パイ滿ツルケレドモ、一等客ハ多クハ隙ガ明イテ居ル、ソレデアルカラ、此車ノ働く…而シテ車ヲ働くセマスニ餘ホド直段ガ違フ、ズット一等車ハ高クナリマス…營業費モ總テ高クナル、ソレデアルカラ元來一等ニ三等旅客カラシテ足シ前ヲ受ケヤツテ居ルヤウナル傾ガアルノデアリマス、ソレガ故ニ松本氏ガ一種ノ平等觀トデモ言ヒマスコトカラシテ、サウ一等旅客ニ贅澤メイタモノヲ與ヘル必要ハ無イト云フノ論デ以テ、容易ニヤルコトヲシナカッタノデアリマス、デ是ハ私ドモハ確ニ反對論者デ、世界ハサウ云フ工合ニナツテ居ラヌノデアルカラ矢張リ世界ノ進運ト伴ウテ相當ノ設備ヲシナケレバナラヌト云フ論者デアリマシタ、彼ノ松本氏モ洋行カラ歸ツテ後ハ大ニ其論ニナツテ居ラヌ、即チ其後著々改良發達ラシテ、今日デハ決シテサウ後レテハ居ラヌ筈デアリマス、デ此論ハ昨年ノ如キ或ル府下ノ有力ナル新聞ガ一等汽車廢止論ト云フモノヲ堂々ト唱ヘタコトガアリマス、デ此論ノ如ク廢止マデハ松本氏ハイカナンダガ、此論ニ餘ホド近イ論デ、是ハ一種ノ社會上ノ大問題デアリマシテ、松本氏ガ彼ノ寢臺ヂヤトカ、或ハ食堂ヂヤトカ、赤帽ヂヤトカ、何トカ云フモノヲ率先シテヤラナングカラ、官線ハ甚ダ不進歩ノコトヲシテ居ルモノダ

ト云フコトヲ論斷スルコトハ、是ハ餘ホド容易ニハ論斷ノ出來ヌコトダラウト考ヘルノデアリマス、ソレカラモウ一ツ……申上ゲタイコトハ幾ラモゴザイマスケレドモ、今日ノ如キ切迫ノ場合ニ於テサウ冗長ニハ申シマセヌガ、念ノ爲ニ申シテ置キタイノハ、此官線ハ總テ私線ニ比ブレバ甚ダ不經濟デアルト云フ論ガゴザイマス、是ハ其事實デアルナラバ、私ドモハ元來熱心ナル國有論者デアリマスガ、若シモ國有ニシタ以上、不經濟デアルト云フ論ガ證據立テラレ、バ、全ク私ハ國有論ヲ打捨テナケレバナラヌ、何トナレバ國有論ヲ主張スルノハ矢張り能ク經濟的ニシテ而シテ大ニ國家公衆ニ便益ヲ與ヘルト云フコトガアルデコソ國有論ヲ大ニ主張スルノデアリマス、是ガ其國有ヲヤッタ曉ニ果シテ不經濟ノモノデアルト云フコトデアッタナラバ、此國有論ノ論據ハ全ク破レルノデゴザイマス、其點ニ就テハ最モ慎重ニ御注意フ願ハナクチャナラヌ、所ガ此不經濟ト云フ論ハ何レノ點カラ比ベマシテモ全ク根據ノ無イ誤ッタ說タルコトヲ確メ得ラレルノデゴザイマス、ソレデ先づ第一ニ皮相ノ論ガ哩數ヤラ「ステーション」ノ數デ以テ、此營業費及從事人員ナンドヲ割當テ、少イ所ハ經濟的ニイキ居ル、多イ所ハ不經濟デアルト云フ論ガアル、是ハ柳原ノ古手屋ト三井ノ吳服塵ト若シ間口ガ同ジャウナ家ガアルナラバ、同ジ營業費デ從事人員モ同ジャウニイカナケレバナラヌト云フ論ト同ジコトデ、是ハモウ論ニナラナイ、ガモウ一層進ンデ收入ト營業費トノ割合ヲ以テ論ズル人モアリマスガ、是モイケマセヌ、イカヌト云フモノハ、若シサウ云フ收入ノ百圓ニ對シテ、營業費ヲ或ハ三十圓、五十圓使ツテ居ル、五十圓ハ三十圓ヨリ不經濟ナリト云フ論ガ立ツナラバ、日本鐵道ハ官線ノ東海道線ヨリハ、百圓ニ就テ十四圓餘計入費ヲ使ツテ居ルカラ、一割四分ノ不經濟ヲヤッテ居ルト言ハナケレバナラヌ、北海道鐵道ハ百圓ニ就テ七十何圓餘計使ツテ居ル、官線ヨリ……、サウスルト云フト七割ナボノ不經濟ヲヤッテ居ルト云フヤウナ論ニナリマスガ、是ハ決シテサウ云フ譯ノモノデハ無イ、ソレデ是モイケマセヌ、ソレデ其次ニイキマシテ列車哩トカ、或ハ哩トカ、人哩トカ云フヤウナ論者、是ハクロウトノ内ニゴザイマス、堂々タル私設鐵道ノ社長ヲシテ居ル人ガ官線ト私線トノ列車哩ノ割付ヲシテ、サウシテ官線ハドウモ私線ヨリモ割當ガ多イカラ不經濟デアル、國有鐵道ハ不經濟ナルモノデアルト云フ論ヲ公ケニシテ居ル人ガアリマスガ、是モ間違ツテ居ル、是ハ餘程クロウトメイテ居リマスケレドモ、固ヨリ参考ノ一

端ニハナルガ、決シテマス、斯ウ云フ列車哩ト云フコトハ其列車ノ中味ヲバイ載セタ場合ト、中味ハ半分ヨリ載ツテ居ラヌ場合ト、モット少イ場合トハ同一ニイカナインデアリマス、官線ハ概シテ餘計載セテ居ル、東海道線ナドハ百ト云フモノヲ中心ニシマシタ所デ、百三十五グラボ載セテ居リマス、マア人カラ云ウテ見マスルト……人ト荷物ヲ別ケテ見ルトスウ云フ數字ガ出テ居リマス、東海道ノ運輸數量ハ人間デ言ヘバ、百一人一哩ニ就テ運ブ所モ、日本鐵道ナドハ五十四人乗ツテ居ル、即チ倍ホドノ人ヲ同ジ列車ガ一哩ニ付テ運ンデ居ル、即チ中味ノ重イ物ヲ運ンデ居ル、其モノヲ以テ列車一哩ノ入費ヲ割出シテ來テ、少シデモ餘計アルモノヲ不經濟ダト斯ウ云フ論斷ニナルノデアリマスカラ、是ハ不當デアリマス、而シテ又此人哩、噸哩ト云フ論モアリマスガ、是ハ丁度列車哩論ト倒マニナル、中味ヲ見テ列車ノ方ヲ見ナイノデアリマスカラ、是モ反対ノ不公平ヲ生ジテ來ルノデアル、斯ウ云フモノヲ以テ論定スルコトハ出來ナイ、之ヲ本當ニ論定シヤウト思ヘバ、モウ一層詰リ此東海道ナラ東海道ノ鐵道ニ實質ガ果シテ勾配ガドウナツテ居ル、曲線ガドウナツテ居ル、即チ此抵抗力ト云フモノヲ算出シテ、分リ易ク言ヘバ進ンデ此中味ハ無論ノコト、此鐵道ノ實質ガ果シテ勾配ガドウナツテ居ル、モ知レヌ、山陽鐵道ハ或ハ四百哩ニナルカモ知レヌ、其差ノノアル線路ヲ見ズシタ率ガゴザイマス、其換算シテ水平哩ニ直シテ置イテ、而シテ此水平哩ノシテ唯之ヲ見ルノハ不當デアル、茲マデ至ラナケレバナラヌ、ソレ等ノコトヲヤラズシテ唯根據ノ間違ツタ標準ヲ以テ官線ナドノ營業ハ不經濟ダト言フコトハ不當ナルコトハ論ヲ俟タスト思ヒマス、之ヲ要スルニ此國有鐵道論ハ公益ト公益トノ争ト存ジテ居リマス、即チ官線ハ國有鐵道ノ公益ヲ目的トシテ居ル、國民ヲ以テ株主トシタモノデアルト云ウテ宜シイ、而シテ此私設鐵道ハ即チ一部ノ株主ノ利益ヲ目的トシタモノデアリマスカラ、此點ニ於テ利害得失ガアル、此法律論ハ是ハ別トシマシテ大體ノ上ニ於テハ愈々必要ナリト云フ以上ハ、非常ナル公益ト云フモノヲ目的ト致シタ方ガ強イ理由ヲ持ツテ居ルト見ナケレバナラヌノデゴザイマス、色々議論ガゴザイマセウガ、

「ノーノー、ヤルベシ、ヤルベシ」ト呼ブ者アリ」

〔子爵谷干城君發言ノ許可ヲ求ム〕

〔議場騒然〕

○議長（公爵徳川家達君） 静肅ニ願ヒマス、谷子爵ニ發言ヲ許シマシタ  
〔子爵谷干城君演壇ニ登ル〕

○子爵谷干城君 谷ハ例ニ依ツテ大變長イコトヲ言フヂヤラウト云フ御考モ  
アルカモ知レマセヌ、ハヤ討論終結ナドト云フ御意見モ出テ居ル、併ナガラ  
ヒドウ長ウハ今度ハ申サヌ積リデアリマス、併ナガラ諸君ノ誤ツテ居ルコト  
ハ正サニヤナラヌ、殊ニ今、田健治郎君ガ遞信省ノ次官モセラレ、又我ニ二  
十五年ヨリ六年ニ亘ルトキノ鐵道會議ノアッタ時分ノ幹事モシテ居ラレタ、  
我ニ當年御益ヲ戴ク年齢ニハナツテ居ルケレドモ、サウ物ヲ忘レハセヌ、決  
シテサウ物ハ忘レハセヌ、サウスレバ若イ御方ニガサウ御忘レナサル筈ハ無  
イケレドモ、時ニ依ツテ斯ウナル

〔笑聲起ル〕

〔拍手スル者アリ〕

ソレデ違フノデアル、ソレデ之ヲ私ガ反對ヲスルニ付テハ順序ヲ立テ、辯  
ジテ置カナケレバナラヌ、私ノ從來ノ考ヘハ諸君ノ中ニハ御承知ノ御方モア  
ラウガ、私ハ支那ノ聖人主義ヲ採ルノデアル、ソコデ此鐵道ニ付テハ主義ニ  
於テ全然タル國有主義デアル、決シテ道路ト達フモノデナイ、道路橋梁ト達  
フモノデナイカラシテハ、國家ガ架ケテ人民ガ唯デ通レルヤウニシタイト云  
フノガ、是ガ私ガ極端ノ主義デアル、今茲ニ河ガアル、其河ノ橋ヲ專有ニサ  
シテカラニ一錢ナリ二錢ナリ取ラレテ御覽ナサイ、是ハ實ニ煩ニ堪ヘナイ、  
ケレドモ何レノ國デモ皆學者ノ希望ハソレニアル、ケレドモ經濟上許サヌカ  
ラ、ソレデ此錢ハ取ツテ居ル、我ニモ決シテ此理想上ノコトヲ實行シヤウト  
云フコトハ時勢デ無イト思フガ、國ガ富ンダナラバ先ヅ此官線ハ賃錢ヲ廉ク  
シテ、廉ウシテ性質ハ唯デモイケルヤウニシタイト云フノガ是ガ考ヘ、斯ウ  
言ヘバ谷ハ社會主義、言語道斷デヤト、斯ウ仰シヤルカモ知ラヌガ、サウ  
デハ無イ、總テ此道理上、聖人ノ理想ト云フモノハサウシタモノダ、ソレ故  
ニ鐵道ニ限ラズ國家ヲ代表シ國家ノ道路、國家ノ鐵道ト云フモノハ國家ガ義  
務トシテ架クベキモノデアル、決シテ之ヲ私ノ會社ニ委ネテ仕舞ッテ、營利  
ノ事業ニスベキモノデ無イト云フガ自分ノ信ジテ居ル所デアル、併シ今申シ

タ通り今日我ニ理想ノ行ハル、時デハナイ、ソレカラ或ハ此鐵道會議ノ時分  
ニ田君ハ即チ其幹事デオアンナサレタ、ソユデ斯ウ云フ御反問ガ出ルカモ知  
レナイ、谷ハアノ時分ニハ切りニ私設鐵道ヲ段々許スニ反對シタデハナイ  
カ、鐵道ハ先ヅ言ハゞ嫌ヒノヤウニ見エタ、ソレガ時機デアル、此際ハドウ  
云フ景況デアツタカト云フト、一方ニハ成ルホド御説ノアッタ通り、鐵道買收  
法案デ買入レテ國家ガ持ツ、一方デハ其口ノ下カラ此私設鐵道ヲ漸々許ス、斯  
ウ云フ理窟デアッタ、ソコデ私ハ常ニ鐵道ハドウシテモ國家ガ持タヌナラヌ  
ト云フ主義デアツタモノデヤカラ、利益ニモナラヌ鐵道ヲ勝手ニ許シ散ラシ  
タラバ治マリガ付カヌヤウニナル、又會社ガ迫モ成立ツモノデナイ、經濟上、  
日本ニドレホド鐵道ヲ架ケタ所ガ許サナイト云フコトヲ斷言シテ其時分ニモ  
居タ、ソレデ私ノ意見ハ此京釜鐵道ニ反對シタトキノ演說ニ、長イ演說デ  
アルガ、是ニ言ウテアル、成ルホド今日讀ンデ見ルト多少誤見モアルカハ知  
レスケレドモ、大抵私ノ言フ通リニ行ツテ居ル、ソレデ先ヅ私ノ執ツテ居ル主義  
ハ即チ國道ヲ代表スル大幹線ハ國家ガ持ツ、ソレカラシテ地方ノ便益、或ハ  
商賣上ニ、或ハ參宮鐵道、成田鐵道ト云フヤウナ此利益ヲ目的トシテ架ケタ鐵  
道、サウ云フモノハモウ是ハ勝手ニ任カシテ宜イ、斯ウ云フノガハ必シモ廣  
軌ニハ及バヌ、極ク輕便鐵道デモ宜イ、斯ウ云フ考デアル、ソレデ陸軍大臣  
ハ軍事ノコトヲ頻ニ仰シヤル、是ハ陸軍大臣ノ海防論ハ…國防論ハ私ハ御  
同感デアル、今日デモ多ク陸軍大臣ノ軍事軍事ト仰シヤルコトニ反對ノ人  
ガ多イガ、是ハ畢竟軍事ヲ知ラヌノデアル、又陸軍大臣ノ位置トシテ之ヲ十  
分辯解ナサルコトハ實ハムヅカラウト思フ、ケレドモ若シ今日此私ガ二  
十五年ニ出シタ建議案ガ通ツテ居タレバドウナル、ソレコソ諸君手ヲ叩イテ  
贊成セラル、デアラウガ、私ハ其時ニハ即チ包圍攻擊ヲセラレタ、先ヅ第一  
ニ遞信省ハ我ニノ敵ナリ、ソレカラシテ陸軍省ハ我ニノ敵ナリ、唯一ツ海軍  
省ハ全然我ニノ味方デアッタ、デ海軍ヨリ代表サレテ來タ人ハ誰デアルカト  
云フト、有馬新一君デアル、ソレカラ陸軍カラ代表セラレテ來タ人ハ誰カト  
云フト議長ハ即チ川上操六君、參謀次長デアル、ソレカラシテ又兒玉源太郎  
君、ソレカラ高橋維則君、山口圭藏君、ソレカラ山根武亮君、斯ウ云フヤウ  
ナ人方ガ皆其時ノ會議員デアッタ、此時ノ會議ト云フモノハ決シテ其今日カ  
ラ想像スルト公平ナモノデハ無カツタ、又頻ニ其私設ヲ願ウテ來テ鐵道會議  
デ議シテ來タコトハモウ翌朝知レル、祕密ニセニヤナラヌト言ウテ喧マシウ

シテ居ツタガ、色ミノ因縁カラシテカラニ誠ニ其不潔極マツタ有様デアッタ、我ニハ證據ヲ押ヘテ居ルコトモアルガ、田健治郎君ハ其時分ノ幹事デ御アリナサレタカラ十分御記憶ガアル等デアル、是ハ私ハドウシテモ今日言ツテ置カニヤナラヌ、私ガ此建議案ハスウ云フノデス、私ハ經濟上カラ言ヘバ日本ハ海鼠ノ如キ所デアリ、且ツ山嶽ハアリ、雨量ハ多シ、ソレ故ニ逆モ經濟デ十分ニ引合フ譯ニハ行カヌト云フガ、當時ノ意見デアル、ソレデ軍事ヲ目的ニセヌナラヌ、偏ニ軍事ヲ目的トスル

一日本鐵道中央ノ幹線ハ經濟上ヨリハ寧ロ軍事上ヲ主眼トス可キコト一已ニ軍事ヲ以鐵道ノ主眼トセハ青森ヨリ東西兩京ヲ貫キ馬關ニ達スル幹線ハ今日ヨリ廣軌道ノ主旨ヲ取ラサル可カラス

一廣島ヨリ山口ヲ經テ馬關ニ至ルノ線、東京ヨリ甲府ヲ經テ名古屋ニ至ルノ線、福島ヨリ山形秋田ヲ經テ青森ニ至ルノ線ハ廣軌道ノ手初メトシ手始メデスヨ、一體ニ此幹線ハ皆支線モ此軌道條例ヲ變ヘテ廣軌ニスルト云フノガ私ガ書イテ置イタノデアル、ソレデ手始メト云フカラニ

他ノ幹線ニ當ル既成ノ分ハ漸々變更スルコト  
一文線及特別線ハ舊來ノ狹軌道ヲ用ユルコト  
但軍港及要塞ニ連接スルモノハ成ル可ク廣軌道ヲ用ユルコト  
右鐵道會議議事規則第八條ニ依リ提出致候也

明治二十五年十二月十四日

鐵道會議各員 谷 干 城

鐵道會議々長川上操六殿

ソレデ私ハ今申シタ通り、此幹線ハ國家デ主宰スル、サウシテ軍事ニ最モ必要デアル、鐵道會議ノ起ツタトキ、即チ此大ニ國家鐵道主義ヲ固メ、且又軍事上世界上最モ大事ト思フ所ノ廣軌道ヲ取ラネバナラヌ、斯ウ云フ主義デアッタ、所ガ田君ナドモ御承知ノ通リ海軍ノ代表者有馬君一人デアル、此我我ノ說ニ極端ニ贊成セラレタノハ、此有馬君ノ言ハレタコトモ此速記録ニ載ッテ居リマスケレドモ是ハ先づ讀ミマセヌ、所ガ陸軍ノ方ハドウデアッタカト云フト、兒玉源太郎君モデス、初メ贊成デアルト云フコトヲ言ハレタ、是モ筆記ニ載ツテ居ル、又谷子爵ノ建議案ハ大體ニ於テ私モ贊成デゴザイマス、ト云フコトヲ言ハレタ、所ガ次第次第ニ陸軍ノ代表者モ變ツテ來テ側面ノ攻擊ヲセラルレバ……我モ十分議論モアルガ側面攻擊ヲセラレル、正面カラ來ナ

ク側面カラ攻撃セラレル、戰ニ於テモ正面ニ當ツテ來ラレルナラバ防ギモ付キマスガ、ソコヤコ、ヤ側面攻撃ト云フモノホド苦シイモノハナイ、ソレデ遂ニ此私ノ原案ハ委員ヲ作ツテ調ベルト云フコトデ、委員ノ報告書ト云フモノモアリマスガ、之ヲ今若シ御讀ミニナツタナラバ實ニ抱腹絶倒デアル、即チ田健治郎サンハ幹事デ能ク御承知ノコトデアルガ、大分今御話ニナツタ鐵道ハ絕對ニ國有ノ主義デアルト云フコトデアッタガ、ドウモ其時分ノ様子ハサカラモウツ田君ハ責任ノアル人デアルカラシテ、私ハ誤ツテ居ラレルデヤラウト云フコトヲ言フノデアル、田君ノ長イ御意見ヲ新聞ニ於テ拜見シテ、我ハ切抜イテ持ツテ居ル、ソレカラ今ノ御論ニ於テモ詰リ統一シタラ非常ニ利益デアル、斯ウ云フ御論デアル、ガ私ハ統一シテスッカリ之ヲ押延ベテ仕舞ツタナラバ決シテサウ利益ハ無イ、例ヘテ言ヘバ此水ヲ此所ニザット撒イタラ此所ダケハ一バイニナルガ、之ヲ此滿場ニ振り撒イタラ何所ヘ行ツタヤラデナイ、ソレデ動トモスレバ獨逸ガドウカ、佛蘭西ガドウカ、澳地利ガドウカ、斯ウ云フコトヲ言ウテ外國ノ例ヲ御引キニナルケレドモ、日本ハタッタ此五千万人ダケノ人ガ此鐵道ニ乗リ居ル、所ガ獨逸デアレ、澳地利デアレ、佛蘭西デアレ、又ハ西班牙、葡萄牙、アスコラハ歐羅巴大陸ノ三千万、四千万或ハ五千万、露西亞ニ於テハ一億二千万、今日ハ一億四千万、此人間ガ交通スル所デアル、荷物ノ噸數ト云フモノハ、新シイノガハ持ツテ居リマセヌガ、二十四五年此時分ノガハ荷物ノ噸數ト人トヲチャント持ツテ居リマス、ソレハ今日ハ言ハナイ、所ガ日本ハ利益利益ト云フコトヲ仰シヤルニ付テハ、我ヨ一箇年日本ノ乘客ハ何億アリマスト云ウテ問ウテ見テモ、ソレハ分ラヌ、ソレカラ又噸數ハ何ボアリマスト云ウテモ、此一箇年ノガハ分ラヌ、歐羅巴ノガハ近イ統計ハ私ハ持チマセスケレドモ、チヤント分ツテ居ル、ソレハ隨分夥シイモノデアルガ、夥シイモノデアルト云フハ、今言フ通リ四千万五千万ノ人間ガ甲乙丙丁、斯ウ歩イテ行ク、殊ニ佛蘭西ナドト云フ所ニ行ツタラ、御承知ノ通り旅ヲシタ者ハ少クトモ佛蘭西ニ二度戻ツテ來ル、多ケレバ三度戻ツテ來ル、サウアル、ソレ故ニ利益モナカノアリマス、アリマスケレドモ日本ノハ日本鐵道ノヤウナ旨イ利益ハアリマセヌ、ソレデ先づ其島國ト半島國ト云フモノノ

利益ノ無イコトハ私ハ明カデアルト思フ、伊太利ノ鐵道ト云フモノハ官線ニシテ失敗シタコトハ、是ハ皆分ッタ人ハ御承知デアル、ナゼ是ガソレホド利益ガ無イカト云フト、是ハ半島國デアッテカラニ三面ハ皆便利ヲ海ニ取ルカラ、ソレ故ニ佛蘭西、獨逸ノヤウニハ行カナイ、ソレデ頻ニ日本ノ鐵道ガ利益ノ有ルヤウニ仰シャル、且ズット引延ンダラ歐羅巴ノ鐵道ヨリモ數倍多クアルヤウニ聞エルガ、是ハ其本ヲ揣ラズシテ其末ヲ齊シウスルト云フコトデ、斯ウ云フ工合ニ上ゲテ見レバ下ノ方ハ隙イテ仕舞フト云フコトニナル、ソレデ此點ハ私ドモノ信ズル所トハ非常ナ違ヒニナツテ居ル、是デ私ハ日本ノ鐵道ガサウ利益デアルト云フコトハ信ジナイ、ソレカラ又總理大臣ハ國有主義ト云フコトヲ頻ニ仰シヤツタガ、是ハ最早既ニ根據ガ破レテ仕舞ッテ居ルカラ、今日申ス必要ハ無イガ、日本ハ横濱ト東京ノ間ヘ鐵道ヲカケタ時ニハ役人ヨリ外ニ洋行シタ者ハ無イ、ソレデ役人ハ井上勝君ガ行ッテ見テ來ラレテ、サウシテ卒先シテヤラレタ、誰モ人民ハ洋行シタ者ガ無イカラ争フ必要ガ無イカラ、之ガ爲ニ鐵道ノ主義ガ定マッタト云フコトハ驚入ッタ話、サウ云フ時機デハ無イ、ソレカラ又廣軌ト狹軌トノコトニ付テハ是ハ定メテ寺内大臣ハ御承知デアラウ、我ミモ亦覺エテ居ルガ、明治七年カ八年ニ亞米利加ノ「ゼネラル」ガ來テ、サウシテ日本カラ始メテ支那、ソレカラ西洋各國ヲ見テ歸ッタ所ノ報告書ト云フモノガ、東亞兵制報告書ト云フモノガアル、此報告書ノ中ニ日本ノ進歩ヲ大變覆ヌテアル、且又其中ニハ支那ノ意氣地ノ無イコトヲ擧ゲテ、遂ニア、云フコトデハ日本ニモ征服セラル、カモ知レヌト云フコトガ書イテアルガ、實ニ是ハ卓見デアル、其人ノ書イタモノニ、遺憾ナコトハ日本ハ英吉利ノ舊式ニ依テ狹軌道ヲ採ツテ居ル、是ガ誠ニ遺憾千萬デアルト書イテアル、ソレカラ又明治二十二年ニ私ガ心安ウシタ西洋人ガ來タ、此人ハ鐵道ノ毎週新聞ヲ發行シテ居ツテ鐵道ノコトハ餘ホド委シイ、是ニ一席ノ話ヲ聞イテチャント筆記シテ留メテ置イタ、一ヲ聞イテ二テ知ルト云フ程デハ無イガ、我ミハソレカラ論理ヲ考ヘ出シタノデ、是モドウモ日本ハ廣軌道ヲ採ラズシテ狹軌道ヲ採ツテ居ルト云フコトハ甚ダ遺憾デアル、併ナガラ此地形ヲ見ルト成ルホド是ハ已ムヲ得ナイガ、軍事ノ目的デアレバ、ドウシテモ此幹線ハ廣軌ニシテ置カネバイカヌ、次第ニ國力モ進ムシ、今後ドウ云フ困難ガ來ルヤラ知レヌカラ、其爲ニ此鐵道ノ速力、鐵道ノ積載力、是ダケハドウシテモ盧ツテ置カナケレバナラヌト云フガ、自分ノ發明ノ説デハナイ、其人ノ意

見ヲ以テ私ハ明治二十六年ニ意見ヲ出シタ、所ガ何ヲ谷ガ知ルカト云ウテ大ニ攻撃ヲサレタノガ渡邊洪基君、陸軍ノ方デハ、高橋維則君ガ餘ホド利知ツテ居ラレタト思フ、ソレデ總テ遞信省モ此通り其意向ハドコドコマデモ狹軌デヤラ、斯ウ云フコトデアル、即チ我ミタツタ一人ノ贊成者ヲ得テ包圍攻撃ヲサル、斯ウ云フコトヲ言ハレバ、ソレハ今デモ尙ホ遺憾デアル、ソコデ今日ノ案ニ就テ寺内大臣ノ委員會デ辯ゼラレル所ニ依ツテ承リマスルト云フ終ニ分ラヌ、矢張リ廣軌主義ヲ執ラレルヤウデアルケレドモ、幹線鐵道ヲ買收シタ以上ハドウナルカト云フト、御明言ハサレスケレドモ衆議院ニ於テ辯明セラレタ所ヲ速記録デ見ルト、一列車ニ千人ノ兵卒ヲ積ムト云フコトヲ言ハレテ居ル、然ラバ一列車ニ千人積ムニハドウシテモ、歐羅巴ニ普通行ハレテ居ル廣軌デナケレバソレハ出來ナイ、算盤上出來ナイ、露西亞ノ此廣軌ガドノ位ヰ積ムカト云フト、是ハ千三百人ホド積メル、日本ハ今ノ鐵道デハ半大隊、五百人バカリシカ積メナイ、殊ニ馬ナドハ縱ニ積マナケレバナラヌ、横ニ積ムコトハ出來ナイ、ソレデ我ミ今申シタ通リノ建議ヲシタケレドモ破レタ、其破レタ理由ハドウカト云フト、是ハ少シ言ツテ置カナケレバハイケナイ、若シ今ノ鐵道ヲ谷ノ建議ノ通リ廣軌ニスルト云フコトニナルト、其時ニタツタ千八百六十哩ホカ架ツテ居ラヌ、ソレシカナカツタ、ソレヲ廣軌ニスルト云フコトニ就テハ一哩ニ付テ一萬六千六百二十圓ホドヲ要スル、二割五分ホド要スル、ソレダカラ之ヲ變更スルニハ少クトモ二千五六百萬圓ヲ要スル、逆モスンナコトハ出來ナイ、斯ウ云フ論デアッタ、ソレカラ又色ニナモノヲ持ッテ來テ、貨車ガ夥シイコトデアル、ソレカラシテ、貨車ノ數ヲ申シマスレバ、此所ニアリマスガ、千三百輛アル、ソレカラシテ又其機關車ガ三百八十輛、客車ガ千三百輛、是ホドアルカラシテ、逆モ其改造スルト云フコトハ出來ナイ、斯ウ云フ論デアッタ、ソレデ二割五分増スノデ出來ヌ、ドウシテモ金ガ夥シクカ、ルカラニ一千ナンボカ、ルカラ出來ヌト云フヤウナコトデアッタ、ソレデ總テ、斯ウ云フコトハ歴史的ニ考ヘテ置カヌト忽チ不覺ヲ取ル、今日ハ寺内大臣ハ我ガ論ニ最モ極メテ贊成セラレテ居ラウト思フ、ソレカラシテ軌道ニ就テ私ハ世界的ノ軌道デナケレバナラヌト云フコトヲ言ウタ所ガ、ソレモ世界的ノ軌道ナドト云フコトハ無イ、詰リ英吉利ハ印度ノ方ヘ向ウテカラニ軍事ノ目的デ五尺三寸ノ軌道ヲ採ツテ居ルト云フコトデ、色ニノ英吉利ノ古物ヤラ新物ヤラヲ集メテ攻撃セラレタ、ソレデ此京釜鐵道ノ時ニモ斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、

ドウシテモ鐵道ハ世界的ニ維持シテ置カネバイケナイト云フコトハ、謂ハユ  
ル世界的ニシテ置クガ宜イト云フコトハ、露西亞ノ西比利亞鐵道ニ接續シ、  
或ハ商業上ノ關係ヲ密接ニスル、ソレカラシテ或ハ此支那ノ内地ノ方へ連絡  
スル、斯ウ云フヤウナ理窟デ商業ヲ發達スル上ニ就テハ、我モ鐵道ヲ架ケナ  
ケレバナラヌ、サウスレバドウシテモ世界ノモノト連絡スルヤウニナラナケ  
レハイカヌト云フ意見ヲ言ウテ居ッタ、所ガ我より先見ハ如何セム破レテ仕  
舞ッタガ、此二十七八年ノ戰役ニ於キマシテモ、此日本ノ鐵道ガ私ノ言フ通  
リニ廣軌ニナツテ居ッタナラバ、兵ノ輸送カラシテ何カラ餘ホド便利デアッタ  
ラウト思フ、トヨロガ僅ニ一大隊クラヰヅ、送ルト云フヤウナコトダカラシ  
テ頗ル日數ヲトップ、ソレカラシテ又向フヘ渡ツテモサウデス、成ルホド露西  
亞鐵道ハ五尺デアルカラ是ハイケナイ、兎モ角進ンデ行クニ内地ノ鐵道ノ軌  
道ト同ジコトデアツタナラバ、ズンヽ其四尺八寸ノ鐵道ニ依ツテ運バレルカ  
ラシテ兵ノ送リモ頗ル迅速ニイカヌ、サウシテ積載力モ非常ニ少イ、ソレデ詰  
リ今度ハ多分此不便ハ感ゼラレタコトデアラウト考ヘル、若シ果シテサウナ  
レバ谷ハ全然反對ヲセヌ、贊成ヲシサウナモノデアルカト云フニ、サウデナ  
イ、改造ヲスルニハ必ズ其官線ニセンデモ改造スルコトガ出來ル、軌道條例ヲ  
變ヘテ、サウシテ此政府カラ改造スル補助ヲ與ヘ、サウシテ改造ヲ幹線ニ當  
テ居ル鐵道ニサセルナラバ十分出來ル、此私ガ建議ヲシマシタ當時ノ考ヘ  
ハ即チ補助ヲヤッテ一割五分ノ補助ヲヤッテカラニ改造スルト云フノ意見デ  
アツタ、ソレデ今日デモ之ヲ悉ク國ノ所有ニセナクテモ此大キナ金ヲ使フ、其  
幾部分ヲ以テ私設鐵道ニ補助ヲヤッテ必要ノ所ダケラ改造シテ置ケバ：：行  
ケバ即チ寺内大臣ノ御希望通り一千人ノ兵ヲ送ルコトガ出來ル、ソレカラ又  
此陸軍當局者ノ國防論ヲ大變迂濶ナヤウニ笑フ人ガアリマス、現ニ衆議院ナ  
ドモ爾ホド冷笑ヲシタ方モアリマスガ是等ハマルデ軍事ノコトヲ知ラナイ  
人ノ論デ、戰爭ハドウシテモ謂ハユル不虞ニ備ヘルト云フコトデ、萬一ノ時  
安心ガ出來ルモノデナイ、今日ノ社會ハ支那ノ春秋戰國ノ世ト同ジコトデ、  
ノ準備ト云フモノヲシテ置カケレバナラヌ、ソレデ今日英同盟ナドト云ツ  
テカラニ、非常ニ鞏固ナモノト思ウテカラニ皆安心シテ居リマスガ、決シテ  
戰デ利ノ爲メニ戰フノデアルカラ、利害ガ異ナツタラ今日ノ朋友モ明日ノ  
敵ニナル、ソレダカラ決シテ油斷ガナラヌ、若シ今日ノ所デモ是カラ先キ或

ハ二箇國同盟、三箇國同盟ト云フコトデヤッテ來ラレタ時ニハ、之ヲ正面攻撃セズニ今言フ側面攻擊デ、露西亞ノ軍艦ガ丁度東京灣ニ來タヤウニ其所ヤデアル、決シテ國ノ防禦ト云フモノニ人ガ味方シテ吳レルカラ安心デアル、軍艦ガ澤山出來タカラ安心デアルト云フ、斯ンナ馬鹿ゲタコトハ無イ話デアル、是ハ流石ニ陸軍大臣ノ言ハレル如ク不虞ニ備ヘル、萬一二ニ備ヘルノデアルカラ、サウスルト愈々廣軌鐵道ノ必要ト云フモノハ積載力ガ多イ、サウシテ速力ガ早イ、ソレデオハ言フ、是ハ軌道ハ變ヘヌデモ、馬ヲ載セルニモ幅ヲ廣ウシテ置クト云フヤウナ說モアルヤウデスケレドモ、實ニ驚入ッタ說デアル、上ノ物ヲ變ヘルナラバ下ノ物モ直スノガ從テ必要デアル、又易イ話ガ狹イ軌道ノ上ニ大キナ物ヲ載セタラ、ソレコソ危險デアル、サウシテ軌道モ直グニスレバ宜イガ、今ノヤウナ蛇ノ、ノタクッタヤウナモノニナッタナラバ大風雨ニデモ遭ツタナラバ中心力ヲ失ツテ筈川ノヤウナコトハモウ幾度來ルカ分ラヌ、ソレデ我ゝノ質問シタノニ陸軍大臣ノ明言セラレヌノハ實ニ遺憾ニ思フ、遺憾ニ思フケレドモ今日ハ必ズ我ゝト同感デ居ラレルデアラウト思フ、サウスレベ今言フ通り私設ヲ無理ニ買上ゲテ仕舞ハナケレバ國防ノ目的ヲ達セラレヌト云フコトニハナラヌ、命令的デドンナコトデモソレハ出來ル譯デアルカラ、統一統一ト云フコトヲ言ハル、ガ、此統一ハ經濟ト云フコトデアル、其經濟ト云フコトガ我ゝ根本カラ反對デアル、決シテ日本ハ、五千萬シカ居ラヌ日本國デアルカラ、伊太利ヨリハマダ不經濟ニナル、伊太利ハ初メ國有ニシタ時ニ漸ク三朱グラ弁ニナツタ、曾テ民間ニヤラシテ見タ所ガ少イ、今度ハ聞ケバ政府ニ取上ゲタト云フコトデアル、サウ云フモノデ此日本ノ島國デ五千萬人ノ人間ガ往ツタリ來タリスルモノダカラ決シテ歐羅巴ノ利益ノヤウナコトヲ持ツテ來タラ抑々大間違ヒ、ケレドモ統一ガ惡イノデハナイ、遂ニ自然ニ統一ニナツア來ル、ソレハ何カト云フト先刻尾崎君ノ言ハレタ通りデアル、政府ガ買上グルト云フコトニナルト、チヤント是ニモアルガ株ガ上寶ハ私設會社ノヤクザ鐵道ト云フモノハ困リ切ツテ居ル、此際ニドウカ買上ガズテ居ル、ソレデ其時分デモ、ヒヨロ／＼シテ居ツタガ、唯國ノ便利トカ何トカ云フノデハナイ、株券ヲ製造シテサウシテ利益ヲ得ルト云フノデス、捨ヘテ置イテハ賣ル、又捨ヘテ賣レバ宜イガ、サウデナイ、唯權利株ノ賣買ヲシタ、ソ

レデ此二十六年、五年六年ノ鐵道會議ノ時分ホド不潔ナ會議ハ無カッタ、ソレ故ニ我ミハドウモ面白ウナイカラ、スッカリ斷ッテヤメテ仕舞ツタ、ソレデ今モ此ボロ鐵道ナドハ餘ホド人間ヲ腐敗セシメル原因ニナツテ居ルダラウト思フ、政府ハ頻ニ國有ニスレバ何モ彼モ出來ルヤウニ仰シヤルケレドモ、私ノ意見ノ通リニスルナラバ俄ニ國有ニセスデモ、ソレハ必ズ轉ガリ込ンデ來ルノデ、政府ニ買ウテ吳レト言ツテ來ルヤウニナル、或ハ鐵道ガ出來ルト外國人ガ買フトカ云フヤウナ心配ガアルト云フ、馬鹿ナ論ガアルヤウデアルケレドモ、此東カラ西ニ通ル幹線ハ是ハ固ヨリ相當ノ利益ガアリマスガ、其他ノヤクザ物ヲ利口ナ外國人ナドガドウシテ買ヒマセウカ、買フ道理ガ無イ、ソレデ恐ル、必要モ何モ無イ、之ヲ要スルニ我ミハ之ヲドウシテモ今日デナケレバイカヌ、今ガ時機デアル、斯ウ云フハ頗ル間違タ話デ、ソンナ御心配スルコトハ無イ、ソレデ是ガ十年經タラバドウナルカ、今日本ノ勢ト云フモノハ十八億ト云フ大キナ借錢ヲシタ、其借錢ノ惰力デ斯ウ大變氣力ガ付イテ居ル、ケレドモ、是ハ次第二年ヲ經ルニ從ツテ其惰力ハ消滅シテ仕舞フ、サウスルト逆モ其第一ニ鐵道ガ夥シイ人ガ乗ツテ一割以上ノ平均シテ荷ノアルナドト云フコトハ、ソレハ決シテ當局ノ御方デモ御信ジガアルマイ、若シ之ヲ御信ジニナレバ誠ニ御氣ノ毒デアルガ、愚ノ至リト言ハナケレバナラヌ、決シテソレハヤレマイト思フ、ソレデ之ヲ證據ヲ擧ゲテ言ヒマスレバ大分アリマスガ、第一ニ外國ノ鐵道ノ例ヲ以テ利益ヲ言フノハ大間違ヒ、ソレカラシテ今日デナケレバ皆取ラレテ仕舞フヤウニ言フガ、昨年ハドウデスカ、昨年ハ外國人ト朋友ニナツテ經濟上ノコトモ何モ彼モ皆共通シテヤラウデヤナイカ、斯ウ云フ主義デ鐵道質入法案ヲ拂ヘテ、誠ニ謂ハユル世界的ノ考ヘデ御ヤリナサルカト考ヘタ、所ガ今年ニナルト大變様子ガ變ツテ居ル、私等ハ世界的ト云フケレトモ、國家ヲ忘レル世界的デハナイ、國家ヲ本位ニ置イテ交ハル世界的ニシナケレベナラヌ、ソレ故ニ鐵道モ統ニシテヤラナケレバナルヌト云フ考ヘデアル、諸君、此案ニ於キマシテハドウモ分ラナイ、何カ他ニ原因ガ有リハセスカト思フケレドモ、其他ノ原因マデ我ミ立入ッテ推測スルコトハコヽデハシマセヌ、シマセヌガ、今言フ通り之ヲ廣軌道ニシナケレバナラヌト云フコトハ、我ミモ同感デアル、ソレガ今マデ申シタ通リノ方法デ出來ル、ソレカラ其利益ガアル、非常ニ利益ガ増スト云フコトハ大キナ嘘デス、ドウゾ此案ニ我ミ同様ニ御反對ナサレムコトヲ偏ニ希望イタシマス

レデ此二十六年、五年六年ノ鐵道會議ノ時分ホド不潔ナ會議ハ無カッタ、ソレ故ニ我ミハドウモ面白ウナイカラ、スッカリ斷ッテヤメテ仕舞ツタ、ソレデ今モ此ボロ鐵道ナドハ餘ホド人間ヲ腐敗セシメル原因ニナツテ居ルダラウト思フ、政府ハ頻ニ國有ニスレバ何モ彼モ出來ルヤウニ仰シヤルケレドモ、私ノ意見ノ通リニスルナラバ俄ニ國有ニセスデモ、ソレハ必ズ轉ガリ込ンデ來ルノデ、政府ニ買ウテ吳レト言ツテ來ルヤウニナル、或ハ鐵道ガ出來ルト外國人ガ買フトカ云フヤウナ心配ガアルト云フ、馬鹿ナ論ガアルヤウデアルケレドモ、此東カラ西ニ通ル幹線ハ是ハ固ヨリ相當ノ利益ガアリマスガ、其他ノヤクザ物ヲ利口ナ外國人ナドガドウシテ買ヒマセウカ、買フ道理ガ無イ、ソレデ恐ル、必要モ何モ無イ、之ヲ要スルニ我ミハ之ヲドウシテモ今日デナケレバイカヌ、今ガ時機デアル、斯ウ云フハ頗ル間違タ話デ、ソンナ御心配スルコトハ無イ、ソレデ是ガ十年經タラバドウナルカ、今日本ノ勢ト云フモノハ十八億ト云フ大キナ借錢ヲシタ、其借錢ノ惰力デ斯ウ大變氣力ガ付イテ居ル、ケレドモ、是ハ次第二年ヲ經ルニ從ツテ其惰力ハ消滅シテ仕舞フ、サウスルト逆モ其第一ニ鐵道ガ夥シイ人ガ乗ツテ一割以上ノ平均シテ荷ノアルナドト云フコトハ、ソレハ決シテ當局ノ御方デモ御信ジガアルマイ、若シ之ヲ御信ジニナレバ誠ニ御氣ノ毒デアルガ、愚ノ至リト言ハナケレバナラヌ、決シテソレハヤレマイト思フ、ソレデ之ヲ證據ヲ擧ゲテ言ヒマスレバ大分アリマスガ、第一ニ外國ノ鐵道ノ例ヲ以テ利益ヲ言フノハ大間違ヒ、ソレカラシテ今日デナケレバ皆取ラレテ仕舞フヤウニ言フガ、昨年ハドウデスカ、昨年ハ外國人ト朋友ニナツテ經濟上ノコトモ何モ彼モ皆共通シテヤラウデヤナイカ、斯ウ云フ主義デ鐵道質入法案ヲ拂ヘテ、誠ニ謂ハユル世界的ノ考ヘデ御ヤリナサルカト考ヘタ、所ガ今年ニナルト大變様子ガ變ツテ居ル、私等ハ世界的ト云フケレトモ、國家ヲ忘レル世界的デハナイ、國家ヲ本位ニ置イテ交ハル世界的ニシナケレベナラヌ、ソレ故ニ鐵道モ統ニシテヤラナケレバナルヌト云フ考ヘデアル、諸君、此案ニ於キマシテハドウモ分ラナイ、何カ他ニ原因ガ有リハセスカト思フケレドモ、其他ノ原因マデ我ミ立入ッテ推測スルコトハコヽデハシマセヌ、シマセヌガ、今言フ通り之ヲ廣軌道ニシナケレバナラヌト云フコトハ、我ミモ同感デアル、ソレガ今マデ申シタ通リノ方法デ出來ル、ソレカラ其利益ガアル、非常ニ利益ガ増スト云フコトハ大キナ嘘デス、ドウゾ此案ニ我ミ同様ニ御反對ナサレムコトヲ偏ニ希望イタシマス

○公爵ニ條基弘君 討論終結ノ動議ヲ  
〔「贊成」ト呼ブ者多シ〕

○議長（公爵德川家達君）二條公爵ノ討論終結ノ動議ニ贊成者ガゴザイマシタカラ採決イタシマス、討論終結ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長（公爵德川家達君）過半數ト認メマス、是ヨリ議長ガ宣告ヲ致シマスコトヲ能ク御聽キフ願ヒマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベキヤ否ヤノ採決ニ付テ記名投票ヲ以テ決セラレタイト云フ要求、並ニ無記名投票ヲ以テ決セラレタイト云フ要求、兩様トモ出テ居リマス、ソレニ付テ第一ニ採決ヲ致サウト存ジマス、記名投票ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長（公爵德川家達君）大多數ト認メマス、大多數ト認メマシタカラ採決ハ記名投票ヲ以テ決シマス

〔議場騒然〕

○議長（公爵德川家達君）議長ガ宣告ヲ致シマスカラ御靜肅ニ願ヒマス、本院規則第百八條ニ據リマシテ本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ハ白色票ヲ、反對諸君ハ青色票ヲ御投入ニ相成ルコトヲ希望イタシマス、御分リニナリマシタカ

〔「分リマシタ」ト呼ブ者アリ〕

〔「能ク分ツテ居リマス、反對……」ト述ブル者アリ〕

○議長（公爵德川家達君）是ヨリ氏名點呼ヲ行ヒマス

〔書記官氏名點呼ヲ行フ〕

○議長（公爵德川家達君）投票ハ終リマシタカラ是ヨリ開票ヲ致シマス

〔書記官投票ヲ計算ス〕

○議長（公爵德川家達君）記名投票ノ結果ヲ御報告ニ及ビマス、投票總數、二百六十七、白色票、即チ本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル者二百五、青色票、即チ反對者六十二、右ノ通リノ結果デゴザイマスカラ、第二讀會ニ移スベカラズトスル者ハ少數ト認メマス

○侯爵黒田長成君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ望ミマス

○男爵川口武定君 贊成

〔其他「賛成」ト呼ブ者多シ〕

○議長（公爵徳川家達君） 直チニ第二讀會ヲ開クト云フ黒田侯爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者多シ〕

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマス

○議長（公爵徳川家達君） 第二讀會ヲ開キマス、諸君ニ御諮詢致シマスガ、是ハ一條一條ニ致サズニ、全部ヲ問題ニ供シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者多シ〕

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマス、全部ヲ問題ニ供シテ御異存ゴザイマセヌカ

○議長（公爵徳川家達君） 起立者 多數

○議長（公爵徳川家達君） 過半數ト認メマス、是ニ於テ第二讀會ハ終リマシタ

○侯爵黒田長成君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ……

○議長（公爵徳川家達君） 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「賛成」ト呼ブ者アリ〕

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマスカラ直チニ第三讀會ヲ開キ

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマスカラ直チニ第三讀會ヲ開キ

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマスカラ直チニ第三讀會ヲ開キ

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマス

○議長（公爵徳川家達君） 議事日程第九ニ移リマス、京釜鐵道買收法案、政

府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告……ドウゾ御靜肅ニ願ヒマス

京釜鐵道買收法案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十六日

右特別委員長

侯爵黒田長成

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔侯爵黒田長成君演壇ニ登ル〕

○侯爵黒田長成君 京釜鐵道買收法案ノ委員會ノ結果ヲ報告イタシマス、是ハ韓國ノ經營ノタメ、且又滿洲ニ於ケル我國ノ利益ノ發展ノ爲ニ此法案ヲ必要トスルノデ、即チ官設ノ京義線ト私設ノ京釜鐵道ト一ツニ致シテ、此縱貫線ガ區々ニナツテ居リマシテハ甚ダ今日ノ所ハ不便デアル、故ニ之ヲ買收シテ、統監ガ之ヲ管理スルト云フコトニ致スノガ我國ノ爲ニ利益デアルト云フ所カラ、此法案ガ出タノデアリマス、且又一朝有事ノ時ニ當ツテモ海路ノ交通且又滿韓ノ交通上、必要デアルト云フコトモアリマスノデ、之ニ付テハ格別反對ノ諸君モ無カツタノデ、谷子爵ガ絶対ニ反対ヲセラレマシテ、今日ノヤウナ國債ノ多い時期ニ斯ノ如キ買收ヲスルノハ國家ノ爲ニ不利デアル、全體斯ウ云フ買收ニハ絶対ニ反対デアルト云フ、谷子爵ノ説ガアリマシタガ、大多數ハ委員會ニ於テ之ヲ原案ノ通り可決スベキモノト決シマシタ、ドウゾ是ハ讀會ノ順序ヲ省略シテ……即チ讀會省略ノ動議ヲ提出イタシマスカラ、諸君ニ於テモ御賛成アラムコトヲ希望イタシマス

○男爵川口武定君 賛成

〔其他「賛成」ト呼ブ者多シ〕

○男爵伊達宗敦君 私ハ前ノ案ト違ツテ、此京釜鐵道ニハ賛成デアリマス、即チ前ノ暴戾極マル所ノ案ニハ絶対ニ反対デアッタガ、此京釜鐵道ニハ賛成ヲ

スル譯デアリマスカラ、一言シテ置キマス

○議長（公爵徳川家達君） 黒田侯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ賛成者ガアツタト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長（公爵徳川家達君） 三分ノニ以上ト認メマス、原案ヲ可トスル諸君ノ

起立ヲ請ヒマス

○議長（公爵徳川家達君） 過半數ト認メマス

○伯爵清棲家教君 此場合ニ於キマシテ、議事日程ヲ變更サレマシテ、先刻報告ニナリマシタ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ公民權及議員選舉權被選舉權ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ御開キニナルコトヲ希望イタシマス

○男爵松平正直君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 清棲伯爵ノ議事日程追加ノ動議ニハ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマスカラ是ヨリ第一讀會ヲ開キマス

刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ公民權及議員選舉權被選舉權ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月二十七日

衆議院議長杉田定一

貴議院議長公爵徳川家達殿

刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ公民權及議員選舉權被選舉權ニ關ス

ル法律案

明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ハ其ノ猶豫期間市町村ノ公民權ヲ停止シ市町村會議員北海道會議員及衆議院議員ノ選舉權被選舉權ヲ有セサルモノトス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言ガゴザイマセヌケレバ、特別委員ノ選舉ニ移リマス

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕  
○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ選定ハ議長ニ御任せニナリマスカ  
〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無イト認メマスカラ直ニ特別委員ヲ指名

イタシマス

〔小原書記官朗讀〕

刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ公民權及議員選舉權被選舉權ニ關スル法律案特別委員

子爵酒井 忠亮君

子爵松平 親信君

兒島 惟謙君

男爵若王子 文健君

男爵二條 正麿君

野崎 啓造君

菊池 武夫君 高木 豊三君 日高榮三郎君

○議長(公爵徳川家達君) 諸君ニ申上ゲマス、唯今修正可決セラレマンシタ鐵道國有法案ハ衆議院へ送付イタシマシタ、衆議院ノ議決ノ模様ニ依リマシテハ、此議場へ再び御集マリヲ願フコトガアラウト存ジマス、故ニ暫時休憩ヲ致シマス、ソレカラチヨット諸君ニ申上ゲテ置キマスガ、本日ハ御承知ノ通り此議會ノ最終ノ日デゴザイマスカラ、諸君ニ於テモ成ルベク御退院ノ無イコトヲ希望イタシマス

午後五時三十七分休憩

午後七時三十五分開議

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

〔小原書記官朗讀〕

本院ハ關稅定率法改正法律案ノ成案ヲ可決セリ因テ議院法第五十六條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月二十七日

貴議院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔左ノ成案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕

關稅定率法改正法律案兩院協議會成案

第七條中第二十一號ヲ左ノ如ク改ム

二十一 國、府縣ノ輸入スル種馬、種牛及種豚、產馬組合ノ輸入スル種馬又ハ產牛組合ノ輸入スル種牛

(別表)

番號	品	名	單	位	稅	率
三一四	印刷料紙					

一 一枚千〇八十六方インチヨリ少

ナカラサルモノ五百枚毎ニ四十

五ポンド以下ノ重量ヲ有スルモ

二	其ノ他	同	每百斤	一、〇〇	一、九五
ノ					

## 三一五 筆記用紙 同

二、四二

○議長(公爵徳川家達君) 諸君ニ御詰リヲ致シマスガ、唯今書記官ガ朗讀ヲ致シマシタ通リ、衆議院ニ於テハ關稅定率法改正法律案ノ協議會ノ成案ガ可決セラレマシタサウデアリマス、其會議ヲ是ヨリ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程ノ變更ニ相成リマス

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ…

關稅定率法改正法律案

右別冊ノ通兩院協議會成案成立セリ依テ及報告候也

明治三十九年三月二十七日

關稅定率法改正法律案兩院協議委員議長

伯爵正親町 實正

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔別冊兩院協議會成案ハ前ニ載錄セルモノト同ジキナ以テ茲ニ略ス〕

〔男爵松平正直君演壇ニ登ル〕

○男爵松平正直君 唯今正親町伯爵ガ此協議會ノ議長デアリマスカラ、御報告ヲ致ス等ニアリマスガ、今缺席デアリマスカラ、取敢ヘズ其委員ノ中罷出マシタ者ノ中デ御報告ヲ致シマス、段々協議ヲ盡シマス爲三十分討論モ盡シマシタガ、唯互ニ主張スルト云フニ止マリマシテハ纏リ如何ト云フ所デ、小委員ヲ設ケルコトヲ衆議院ノ大津委員ヨリ發言ニナリマシテ、皆一統同意シマシテ、コチラカラハ平山君、藤田君、サウシテ此松平ト三人、向フカラモ三人出マシテ六八ノ小委員ニ於テ相談ヲ致シマシテ、其結果ト致シマシテ斯ウ云フ修正ニナリマシタ、第七條ノ第二十一、此貴族院ニ於キマシテ修正シマシタ文章ヲ前後シマシタ、「產馬組合ノ輸入スル種馬、產牛組合ノ輸入スル種牛」ト云フノヲ、ソレヲ頭ニ置キマシタノヲソレヲアトニ付ケマシタ、今度ノ修正文ハ「國、府縣ノ輸入スル種馬又ハ產牛組合ノ輸入スル種牛」斯ウ云フコトニ修正スル、斯ウ云フコトニ止メマシタ、ソレカラ別表ニ於キマシテ「印刷料紙」ト

云フ此稅、種々之ヲ議ヲ盡シマシタ結果デ、此衆議院ノ「從價」ト云フノヲ「從量」ト致シマシタ、此コトハ貴族院ノ案ニ同意ヲシマシタ、其稅ノ金額ハ「一」ト云フ方ニ於テ「一圓十七錢」ト云フノヲ「一圓」、「二」ト云フ方ニ於キマシテ「一圓六十五錢」ト云フノヲ「一圓九十五錢」ニ上ゲル、此「二」ノ方デ上ゲテ「一」ノ方デ減ズル、斯ウ云フコトニ交渉ガ出來マシテ、是デ協議會ガ全會一致ヲ以テ決議イタシマシタ次第デゴザイマス、此段ヲ御報告イタシテ置キマス

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 成案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認ヌマス

○議長(公爵徳川家達君) 起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認ヌマス

○伯爵廣澤金次郎君 私ハ一ツノ緊急動議ガアリマス、動議チャアリマセヌガ衆議院ノ事務局ニ向クテノ動議ガアリマス、ソレハ私ハ唯今傍聽ヲ致シテ居リマシタガ、衆議院ノ書記官ハ貴族院ノ修正案ヲ一ツ讀ミ漏シテ居リマスカラ、此際會期切迫デアリマスカラ、衆議院ニ御交渉ヲ願ヒタイト考ヘマスル、ソレハ此國有法案第十二條ノ末項ノ貴族院ノ修正デアリマスルガ、條項ヲ讀ミマスルト「買收後公債證書ノ交付ヲ終ル迄ニ要スル清算人ノ職務ニ關スル會社ノ費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ支辨ス」此條項ヲ衆議院ニ於キマシテハ貴族院ノ修正ト云フコトヲ書記官ガ朗讀ヲ省キマシタガ、是ハ大問題ト思ヒマスカラ、何卒議長ニ於カレマシテ衆議院ニ早速御交渉アラムコトヲ希望イタシマス

○子爵曾我祐準君 本員モ其席上デ聽イテ居リマシタガ、勿論傍聽席デアリマスガ、確ニ讀ミマセヌノデアリマス、ソレデ或ハ恐ル、衆議院ハ貴族院ノ修正ノ此一條ハ同意ヲセヌデアッタカト思ヒマス、ドウカ是ハ速ニ御確メラムシタ文章ヲ前後シマシタ、「產馬組合ノ輸入スル種馬、產牛組合ノ輸入スル種牛」ト云フノヲ、ソレヲ頭ニ置キマシタノヲソレヲアトニ付ケマシタ、今度ノ修正文ハ「國、府縣ノ輸入スル種馬又ハ產牛組合ノ輸入スル種牛」斯ウ云フコトニ修正スル、斯ウ云フコトニ止メマシタ、ソレカラ別表ニ於キマシテ「印刷料紙」ト

〔男爵伊達宗敦君發言ノ許可ヲ求ム〕

〔伯爵廣澤金次郎君「本員ノ緊急動議」ト述ブ〕

○議長(公爵徳川家達君) マダ廣澤伯爵ニハ發言ヲ許シマセヌ

〔男爵伊達宗敦君「私ニモマダ御許シ下サイマセヌカ」ト述ブ〕

〔發言ノ許可ヲ求ム者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 衆議院ヨリハ鐵道國有法案ノ本院カラ回付イタシ  
マシタ案ニ付テ、同意ヲ表セラル、ヤ否ヤノ通牒ハ未ダ受領イタシマセヌ

○伯爵正親町實正君 此際議事日程ヲ追加セラレテ、明治三十九年度歲入歲  
出追加豫算案外三件ノ會議ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 正親町伯爵ニチヨット申上グマスガ、唯今政府ヨ  
リ通牒ヲ受領イタシマシタカラ、其報告ヲ終リマシタ、アトデ採決イタシマ  
ス

〔太田書記官長朗讀〕

本月二十八日貴族院ニ於テ帝國議會閉會式執行被仰出候此段及通牒候也

明治三十九年三月二十七日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

貴族院議長公爵徳川家達殿

○議長(公爵徳川家達君) 正親町伯爵ノ唯今ノ動議ハ此豫算全部ノコトデゴ  
ザイマスカ

○伯爵正親町實正君 左様デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 此議事日程追加デゴザイマスカ

○伯爵正親町實正君 左様デザイマス

○伯爵萬里小路通房君 正親町伯爵ニ賛成

〔其他「賛成」ト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 正親町伯爵ノ議事日程追加ノ動議ニ御異存ゴザイ  
マセヌカ

〔異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

一明治三十九年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)

一明治三十九年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)

一豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

一明治三十九年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)  
右衆議院ヨリ送付シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモ  
ノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

豫算委員長  
伯爵正親町 實正

○伯爵正親町實正君 豫算委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申シマス、豫算委  
員會ハ一昨日開キマシテ直チニ大體ノ政府ノ説明ヲ終リマシタ後ニ、分科ニ  
渡シマシタ、昨日中ニ分科ノ調査ヲ終リマシテ、今朝午前九時ヨリ總會ヲ開  
キマシタ譯デアリマス、此度ノ追加豫算ハ第二號ト三號トゴザイマスルガ、  
此第二號ノ豫算ハ御覽ノ通リニ歲入ガ六百五十八萬圓餘デ——歲入歲出共ニ  
六百五十八萬圓餘ニナツテ居リマス、此豫算ノ出マシタ所以ハ先達テ總豫算  
ノ節ニ臨時軍事費豫備費ニ於キマシテ衆議院ニ於テ五百萬圓餘ヲ削除イタシ  
マシタ、ソレハ此五百萬圓ヲ軍事費ヨリ削除シテ、之ヲドウカ生産的ノ事業  
ニ向ケテ欲シイト云フ意味ヲ以テ削除シタト云フコトデゴザイマス、ソレデ  
政府ハ此意ヲ承ケマシテ此度豫算ヲ提出サレタ、斯ウ云フ譯デゴザイマス  
ソレデ此豫算ノ中ニ於キマシテ此度豫算ヲ提出サレタ、斯ウ云フ譯デゴザイマス  
設鐵道改良費百五十萬圓、此兩方合セマシテ四百萬圓ニナリマス、是ガ即  
チ重モナル歲出デアリマス、之ニ對シマシテハ事業公債四百萬圓ヲ募集シ  
テ之ニ充テルト云フ譯ニナリマス、其他ノコトハ詰リ法律ノ結果ニ基キマシ  
テ例ヘバ此間議決サレタ廢兵院ノ費用デアルトカ、其他サウ云フ或ハ臨時已  
ムヲ得ザル費用トカ云フ極ク小サイモノデゴザイマス、其他ニ今一つハ國本  
培養ト云フヤウナ意味ヲ以テ農事改良獎勵費三十六萬圓ト云フモノガ農商務  
省所管ニ計上サレテゴザイマス、大體ハ先づサウ云フコトニナツテ居リマス、  
其他マダ土木費ニ於キマシテ河川修築費トシテ内務省所管ニ六十二萬圓バカ  
リ計上サレテ居リマス、重モナルモノハ先づ左様ナコトデアリマス、ソレデ  
委員會ニ於キマシテハ、種々質問モアリ審査ノ結果、總テ全部衆議院送付案  
ノ通り可決スルコトニ決マリマシタ、其他特第一號、是ハ此豫算ニ基キマシ  
タ公債募集金ノ收入並ニ支出ニ關スルコトヲ計上サレテ居リマス、ソレカラ  
豫算外國庫ノ支辨、是ハ此度在カルカツタ領事館、在廣東領事館、其他公使  
館ヲ大使館ニ改ムルト云フヤウナコトニ付テ契約ヲ結ブコトヲ得ルト云フ箇  
條デゴザイマス、サウ云フコトデゴザイマシテ、總テ此案ハ衆議院送付案ノ  
通リニ可決スルコトニ決マリマシタ、此段……

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言ガゴザイマセヌカラ採決ヲ致シマセウト存ジマスガ、諸君ニ於テ御異存ガゴザイマセヌケレバ、唯今豫算委員長ノ報告全部ヲ問題ニ供シマス

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、全部豫算委員長ノ報告ヲ可トセラル、諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者

多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 諸君ニ御諸リヲ致シマスガ、議長ノ手許ニ法律案九件ノ報告ガ委員長ヨリ出テ居リマス、本日ガ最終ノ日デゴザイマスカラ、悉ク議事日程追加デ議シテハ如何デゴザイマス

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ是ヨリ帝國鐵道會計法案外四件ノ特別委員長ノ報告ヲ煩ハシマス、三件デアリマス、議長ハ誤リマシタ

○子爵曾我祐準君 御尋ネラ致シマスガ、此四案ハ鐵道國有法ニ關聯シテ居リマスガ、鐵道國有法ガ通過シマセヌケレバ、是ハ殆ド無用ノモノデゴザイマス、依テ報告ハ致シテ置キマシダガ、本議場ニ於テ決セラル、ノハ鐵道國有法ノ決シタ後ガ當然デアラウト考ヘマス、チヨット申上げマス

〔侯爵細川護成君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 細川侯爵ハ…

○侯爵細川護成君 其次ニアリマスル海上衝突豫防法中改正法律案第一讀會ノ續ヲ此際御開キヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) ソレハモウ諸君ノ御贊成ヲ得テ議長ガ唯今申上ゲヤウト存ジマシタ

○議長(公爵徳川家達君) 海上衝突豫防法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

海上衝突豫防法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十七日

右特別委員長  
侯爵細川護成

貴族院議長公爵徳川家達殿  
〔侯爵細川護成君演壇ニ登ル〕

○侯爵細川護成君 此海上衝突豫防法中改正法律案ハ今朝我ニ委員ニ委託ニナリマシテ、晝ニ委員會ヲ開キマシタ、實ハ此會期切迫ノ際、種々ナ案ガ出マスノデ、成ルベクハ次ノ議會ニ延バシタイト云フ考ヘヲ本員等ハ持ッテ居リマシタケレドモ、此問題ハ是非此際決シナケレバナラヌ問題デアリマスカラ、今日議シタノデアリマス、是ハ此度英國ヨリ我帝國ニ修正案ヲ出サレマシタ、サウシテ我帝國ヨリノ加入書ハ各國公使館ヲ經マシテ、此案ノ施行ニナッテ居リマスル國ニ其交渉ヲ致シマシタ所ガ、ソレガ丁度一昨日トカ交渉ニ皆應ジタト云フコトヲ言ッテ參リマシタサウデアリマス、ソレデ如何ニモ會期切迫デハアリマスケレドモ、今日之ヲ議シテ置キマセナイト此施行期日ガ本年ノ五月ニナッテ居リマシテ、此海上衝突豫防ニ關シマシテ列國共通ノ案デアリマスカラ是非此際議シタイ案デアリマス、ソレヲ本員等ハ能ク見ル暇ガ無カッタノデアリマスガ、此委員ニハ吉井伯爵、赤松男爵、黒岡君ナド、海軍ノコトニ付テ御經驗ノアル御方ガ御居ニナリマシテ、是非コレハ列國共通ノ案デアルカラ今日通過スルガ宜シトイ云フ御意見デアリマスカラ、本員ハ委員長トシテ…可決イタシマシテ唯今御報告スル次第デアリマス、サツ云フ譯デアリマスカラ成ルベク讀會省略ニナリマシテ速ニ可決アラムコトヲ希望イタシマス

○男爵徳川厚君 讀會省略ニ贊成

〔其他〔贊成〕ト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 細川侯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ贊成者ガアツタト認メマス、讀會省略ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

〔太田書記官長朗讀〕

鐵道國有法案

右貴院ノ回付ニ係ル政府提出案本院ハ貴院ノ修正ニ同意シ奏上セリ因テ議院法第五十五條ニ依リ及通知候也

明治三十九年三月二十七日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

○伯爵廣澤金次郎君 先キホド私ハ述ベマシタガ、傍聽席ニ私ハ居リマシテ耳ヲ立て、案ヲ持ッテ聽イテ居リマシタガ、先キホド本員ガ申シマシタ如ク、本院ノ修正中ノ第十二條末項ハ衆議院書記官ノ朗讀ガ省ケテ居リマス、シテ見マスレバ、今本院ノ修正ニ同意セリト云フノハ此十二條ノ末項ニモ同意シタカト云フコトヲ此際衆議院ヘ御協議アラムコトヲ希望イタシマス

○伯爵柳原義光君 贊成  
○議長(公爵徳川家達君) 廣澤伯爵ニ申上ゲマス、唯今書記官長ヲシテ朗讀イタサセマシタ衆議院議長杉田定一君ヨリ貴族院議長ヘノ通牒文ニハ、衆議院ニ於テ朗讀シタルト云フ文字ガ無イノデアリマス、ソレデアリマスカラ、本院カラ衆議院ニ回シマシタ案ニ同意ラシテ、サウシテ奏上ヲシタト云フ通牒デゴザイマセウト存ジマス、故ニ廣澤伯爵ノ御請求ニハ柳原伯爵ノ賛成ガアツタニ拘ラズ衆議院ヘ交渉スル必要ハ毫モ認メマセヌ……

〔「ヒヤ／＼」ト呼ブ者アリ〕

併シ諸君ニ於テ諸君多數ノ御意見ガソレデアリマスレバ、議長ハ強ヒテ議長ノ考ヘヲ貫カウトハ申シマセヌ

○男爵伊達宗敦君 チヨット私ハ一言述ベタイト思ヒマス、私ハ今ノ廣澤伯爵

少シ御聽キナサイ……  
〔「無用無用」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 無用ト云フ御聲ハ御免ヲ蒙リタウゴザイマス、苟モ議員ガ發言ヲシテ居ルノデゴザイマスカラ、不都合ナラバ議長ガ差止メマス

○男爵伊達宗敦君 サウ云フ混雜ノ際デ或ハ聽漏レガアツカモ知レヌト思ヒマスカラ、私ハサウ思ッテ居リマシタガ、併シ議長閣下ガ其コトヲ御述べニナリマシタカラ、モウ何モ申シマセヌ

〔「蛇足蛇足」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御靜肅ニ願ヒマス、唯今衆議院ヨリ通牒ガゴザイマシタニ依リマシテ是ヨリ曾我特別委員長ノ登壇ヲ促サウト思ヒマス、曾我子爵

〔「子爵曾我祐準君演壇ニ登ル」〕

○子爵曾我祐準君 議事日程ヲ追加シテ此ニ四ツノ案ヲ報告イタシマス……  
○議長(公爵徳川家達君) 報告ハ皆束ネテ宜シウゴザイマスカラ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

帝國鐵道會計法案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十七日

右特別委員長

子爵曾我祐準

貴族院議長公爵徳川家達殿

官設鐵道用品資金會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

ノ動議ニ賛成ヲスルト云フ譯デハアリマセヌガ、私モ廣澤サンノ仰シヤル通り讀ヲ漏シタト云フコトモ承ッテ居リマスガ、如何ニモ先程ノ衆議院ノ模様ヲ見マスト、議長閣下ニモ御覽ニナッタ通り諸君モ御覽ニナッタ通り、實ニ帝國議會ノ……

明治三十九年三月二十七日

右特別委員長

子爵會 我 祐準

貴族院議長公爵德川家達殿

韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ關スル法律案  
右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十七日

右特別委員長

子爵會 我 祐準

貴族院議長公爵德川家達殿

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ報告候也  
法律案  
明治三十九年三月二十七日

右特別委員長

子爵會 我 祐準

貴族院議長公爵德川家達殿

○子爵會我祐準君 第一ガ帝國鐵道會計法案、第二ガ官設鐵道用品資金會計法中改正法律案、第三ガ韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ關スル法律案、第四ガ鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ買收シタル鐵道ノ出納官吏ニ關スル法律案、第五ガ鐵道國有法及京釜鐵道買收法ニ依リ買收シタル鐵道ノ出納官吏ニ關スル法律案、此四案デゴザイマス、勿論會期切迫ノ際デアリマスカラ甚ダ不十分ナ調査ヲ致シマシタ、第一ト申シマシタル所ノ帝國鐵道會計法案ト云フモノハ是マデハ官設鐵道會計法ト云フモノガアリマス、ソレヲ名稱ヲ改メ、中ノ内容モ多少改メマシテ、サウシテ是ハ唯今ノ官線ノミナラズ買收ヲ致シマシタ所ノ大キナル鐵道ノ會計法ニナルト云フノデアリマス、是ハ隨分此時間ノ無イ割ニハ長イコト掛リマシタ、晝ノ休憩中、ソレヨリ先刻午後ノ休憩中兩度ニ涉ツテ審査ヲ致シマシタガ、是ハ原案通リニ委員デハ可決イタシマシタ、第二ハ今ノヨリハ條數ガ少イ・少イデハアリマセヌ、是ハ法中ノ改正デアリマスカラ僅ニ二三箇條デス、是ハ帝國鐵道用品資金ノ高ヲ決メルコトデ、

今マデハ二百五萬圓デアッタノヲ此經濟ヲ大キクシナケレバナラヌニ依ツテ用品資金ヲ五百萬圓ニスルト云フノデアリマス、アトハ其勘定ノ仕様ノヤウナモノガ附イテ居リマス、是モ原案通り、第三ト申シマシタノハ韓國ニ於テ經營スル鐵道ノ會計ニ關スル法律案、是ハ韓國ノ鐵道ヲ、即チ京釜鐵道買收案ガ法律トナツテ出マシタ以上ハ、韓國ニ於ケル鐵道ヲ日本ノ帝國鐵道會計法ニ依ツテ・・・準ジテソレヲ凡テ行フ、サウシテ此韓國ニ於ケル鐵道ノ爲ニハ用品資金百萬圓ヲ備ヘテ置ク、是ダケ・・・單一ナル極ク單純ナル法律案デアリマス、第四ト申シマシタ所ノモノハ日本ノ鐵道ニ於キマシテモ鐵道ヲ新ニ買ハレマシタ所ノ其所ノ鐵道ノ官吏・・・官吏トハ言ハレマセヌ、雇員ニアリマス、其者ニ當分ハ出納ヲ掌ラシメル必要ガアルニ依ツテ、即チ鐵道ノ出納官吏ハ當分ノ内雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトガ出來ルト云フダケデアリマス、是ハ此政府ガ鐵道ヲ引受ケル際ニ際シテ斯クナクテハナラヌ必要ナコトデアリマセウガ、案ハ至ツテ簡単ナモノデアリマス、四案共ニ委員會ニ於テハ可決イタシマシタ  
○議長(公爵德川家達君) 採決ハ唯今特別委員長ノ報告ノ四案連ネテ宜カラウカト存ジマスガ、如何デゴザイマスカ  
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ  
○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス  
○伯爵柳原義光君 讀會省略ノ動議ヲ提出イタシマス  
○伯爵大原重朝君 贊成  
○伯爵柳澤保惠君 贊成  
〔其他「贊成」ト呼ブ者アリ〕  
○議長(公爵德川家達君) 柳原伯爵ノ讀會省略ノ動議ハ定規ノ贊成者ガアツタト認メマス、讀會省略ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス  
起立者 多數  
○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案ニ御異存ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ  
○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス  
○關義臣君 此際議事日程ヲ追加イタシマシテ、地租條例ヲ北海道ニ施行ス

ル件ニ關スル法律案

○議長（公爵徳川家達君） 關君ニ申シマスガ、關君モ御聽キニナッテ居ッタラ  
ウト存ジマスガ、議長ノ手許ニ報告イタシテ居ル九件ハ皆議事日程追加ノコ  
トヲ諸君ニ御説リイタシマシテ其御賛成ヲ得テ居リマスル、左様御承知ヲ願  
ヒマス

○議長（公爵徳川家達君） 國債ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第  
一讀會ノ續、特別委員長報告…議長ガ御説リヲ致シマスノヲ落シマシタガ、  
登錄稅法中改正法律案モ同一委員ニ付託イタシマシタカラ、報告ハ同時ニ委  
員長ヲ煩ハシテ宜シウゴザイマスカ

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマス  
國債ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十七日

右特別委員長

男爵沖 守 固

貴族院議長公爵徳川家達殿

登錄稅法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十七日

右特別委員長

男爵沖 守 固

〔男爵沖守固君演壇ニ登ル〕

○男爵沖守固君 國債ニ關スル法律案ニ付キマシテ委員會ノ經過ヲ御報告イタ  
シマス、今朝此案ハ委員ニ付セラレマシテ委員會ハ休會中ニ開キマシテ…：

此休ミ中ニ開キマシタノデス、休憩中デゴザイマス、休憩中ニ開キマシテ追  
追政府委員ノ説明モ承リマシタ、段々質問モ致シマシタル所、此案ハ名前ハ國  
債ニ關スルト云フコトニナッテ居リマスルガ、即チ國債ニ關スル所ノ手續ヲ  
詳細ニ決メマスル所ノ案デゴザイマス、追々各種ノ公債ガ殖エマスニ付キマ

シテ、今日マデノ取扱デハ不十分デアリマスルノデ、ドウシテモ是ダケノ手續

ヲ制定ニナリマセヌケレバ大ニ不便デアリマス、是ニ依リマシテ此案ガ提出

ニナリマシタノデ、ソレデ簡條ハ隨分澤山ニゴザイマスルガ、皆取扱ニ關係イ  
タシマシタル所ノ箇條ノミデゴザイマス、格別一々説明ヲ申上ゲルニ及バヌ  
ト考ヘマス、且又此案ハ一字一句モ委員會ニ於テ修正ハ致シマセヌ、原案ノ儘

可決イタシマシタノデゴザイマス、ドウカ讀會省略ニナリマシテ此案ハ速ニ

可決アラムコトヲ希望イタシマス、並ニ此登錄稅法中改正法律案、是ハ前申ス  
通リ追々此國債モ段々積エテ參リマス、ソレニ付キマシテハ登錄稅ト云フモ  
ノガ唯今マデゴザイマス、此登錄稅ニハ百分ノ一ノ稅が課ツテ居リマシタノ  
コトゴザイマス、今日ヨリシテ此稅ヲ廢シマシテ少數ノ手數料ニ改メルト云フ  
コトゴザイマス、是ハ極簡單ナ案デゴザイマス、前案ト關聯ヲ致シテ居リ  
マス、是モ速ニ前案同様ニ讀會ヲ省略ニナリマシテ速ニ可決ニナリマスコト

ヲ希望シマス

〔「贊成」ト呼ブ者アリ〕

○議長（公爵徳川家達君） 諸君ニ御説リヲ致シマスガ、特別委員長ノ報告モ

二案連ネテ報告サレマシタカラ、問題ニ供スルノモ二法案連ネテ御異存ハゴ  
ザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマス

〔「讀會省略ニ贊成」ト呼ブ者多シ〕

○議長（公爵徳川家達君） 沖男爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ贊成者ガアッ  
タト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

〔起立者 多數〕

○議長（公爵徳川家達君） 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ゴザイマセ  
ヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマス

○議長（公爵徳川家達君） 刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ公民權及議員選舉  
權被選舉權ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委  
員長報告

刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ公民權及議員選舉權被選舉權ニ關スル法律案  
右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十七日

右特別委員長

子爵酒井 忠亮

貴族院議長公爵德川家達殿  
〔關義臣君演壇ニ登ル〕

○子爵酒井忠亮君 唯今議題ニナリマシタル刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ  
公民權及議員選舉權被選舉權ニ關スル法律案、此法律案ノ委員會ヲ先刻開キ  
マシタ、例ニ依テ政府委員ノ説明ヲ求メ、其理由トスル所ハ極メテ簡單ナモ

ノデ、又必要デアッテ、詰リ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ハ、其間ダケハ市  
町村ノ公民權ヲ停止シ、又衆議院議員ノ選舉權、被選舉權ヲ有ナセナイト云  
フダケノ極簡單ナモノデアッテ、委員ノ中ニハ子爵松平親信君、男爵二條正  
磨君、其他高木君、兒島君ノ如キ鑑々タル法律學者ガ御揃ヒデアリマシテ、  
少シモ異議ナクシテ可決ト云フコトニナリマシタカラシテ、ソレダケヲ御報  
告シマス、殊ニ斯ウ云フ極メテ簡單必要ナ案デアリマスカラ、諸君ニ於テモ  
別ニ御異議ハ無イコトト思ヒマスカラ、ドウカ讀會省略デ議決ニナラムコト  
ヲ希望イタシマス

○伯爵柳原義光君 讀會省略贊成

〔其他「讀會省略贊成」ト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 酒井子爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ贊成者ガゴ  
ザイマシタ、讀會省略ヲ可トセラル、諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ゴザイマセ  
ヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法律案、  
政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告  
地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十七日

右特別委員副委員長  
關 義 臣

貴族院議長公爵徳川家達殿  
〔關義臣君演壇ニ登ル〕

○關義臣君 地租條例ヲ北海道ニ施行スル件ニ關スル法律案デスガ、諸君御  
承知ノ如ク是ハ午前ニ日程追加ニナッテ一讀會ヲ開カレタノデゴザルデ、

〔笑聲起ル〕

委員會ヲ唯今…休憩中ニ委員會ヲ開キマシタ所ガ、

〔笑聲起ル〕

ドウゾ御笑ヒハアトニ…是ハ北海道モ追ニ年數ヲ經ルニ從ヒマシテ、拓殖  
事務モ進ンデ參リマシタ、就テハ明治九年ノ地租條例ニ地價百分ノ一ト云フ  
決メニナッテ今日マデ地價ヲ納メテ參リマシタガ、併シ今日ハ愈、開拓事業ガ  
進ンデ參リマシタノミナラズ、宅地ニ付キマシテモ收益ヲ標準トシテ地價ヲ  
付スル、斯ウ云フコトニナッテ參リマシタ、依ツテ内地同様地租ヲ取ッテ差支ナ  
イノミナラズ、寧ロ公平ト云フ政府ノ考デアッテ百分ノ二箇半ト云フ趣旨デ  
此案ガ北海道ニ地租條例ヲ施行スルコトニナッタソニアリマス、然ル所衆議  
院ニ於キマシテハ地租條例ヲ施行ヲ致スコトハ政府案ニ同意シテアリマスケ  
レドモ、總テ郡村宅地、市街宅地、其區別ナシニ矢張リ從前ノ如ク、地租定  
率ハ當分地價百分ノ一ト云フコトニ修正ニナッタノデアリマス、是ハ政府ノ  
本意ハ矢張リ二箇半ノ地租條例ニ依リタイ様子ニハアリマスケレドモ、遠カ  
ラズ一般地價修正ノ場合ニモナリマスカラ、ソレマデノ間ハ是マデノ通り地  
租條例ヲ施イタニ拘ラズ、矢張リ當分ノ中ハ地價百分ノ一デ置クト云フコト  
デ、政府ハ衆議院ノ案ニ同意セラレタノデアリマス、所ガ委員會ニ於キマシ  
テモ一人ノ異議ナク衆議院修正ノ通リニ議決イタシタ譯デゴザイマスカラ、  
此段御報告ニ及ビマスルガ、御承知ノ簡單ナ案デゴザイマスカラ、ドウゾ讀  
會省略ヲ以テ可決アラムコトヲ希望シマス

○伯爵柳原義光君 讀會省略ニ贊成

〔其他「讀會省略」ト呼ブ者多シ〕

○子爵山口弘達君 贊成

〔木村誓太郎君「チヨット質問イタシタウゴザイマス」ト述ブ〕

○議長（公爵徳川家達君） 御質問デスカ

○木村誓太郎君 ハイ

○議長（公爵徳川家達君） 宜シウゴザイマス

○木村誓太郎君 公爵徳川家達君 御質問デスカ

○伯爵廣澤金次郎君 私ハチヨット委員長ニ極簡單デアリマスガ、質問イタシマス、唯今委員長ノ御報告ハ否決ト云フノデアリマスカ、議決ト云フノデアリマスカ、チヨット聽取レマセヌデシタカラ…

○關義臣君 私ノ申シマシタノハ議決デゴザイマス

○議長（公爵徳川家達君） 讀會省略ノ動議ハ定規ノ賛成者ガアッタト認メマス、關君ノ讀會省略ノ動議ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長（公爵徳川家達君） 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長（公爵徳川家達君） 御異議ナイト認メマス

○議長（公爵徳川家達君） 議事日程第十二移リマス…議事日程第十、東京

市制案、衆議院提出、第一讀會

東京市制案

右本院提出案及送付候也

明治三十九年三月二十二日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

東京市制目次

第一章 總則

第一款 市

第二款 區域

第三款 住民

第二章 市會

第一款 組織及選舉

## 第二款 職務權限

### 第三章 市參事會

#### 第一款 組織及選舉

#### 第二款 職務權限

### 第四章 市行政

#### 第一款 市吏員ノ組織及選任

#### 第二款 市吏員ノ職務權限

### 第五章 紿料及給與

### 第六章 財務

#### 第一款 財產營造物及收入支出

#### 第二款 歳入出豫算及決算

### 第七章 監督

### 第八章 區

#### 第一款 總則

#### 第二款 區會及區行政

#### 第三款 區ノ財務

### 第九章 附則

### 東京市制

#### 第一章 總則

#### 第一款 市

#### 第二款 區域

#### 第三款 住民

#### 第四款 市會

#### 第五款 貢賦

#### 第六款 財務

#### 第七款 附則

#### 第八款 附則

#### 第九款 附則

#### 第十款 附則

#### 第十一款 附則

#### 第十二款 附則

#### 第十三款 附則

#### 第十四款 附則

第六條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財産並營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及市ノ負擔

ヲ分任スル義務ヲ負フ

第七條 市住民ニシテ左ノ要件ヲ備フル者ハ市公民タルノ權ヲ有ス

一 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スルコト

二 男子ニシテ滿二十五年以上タルコト

三 二年以來市ノ負擔ヲ分任スルコト

四 二年以來市内ニ於テ直接國稅ヲ納ムルコト

前項第三號及第四號ニ定ムル二年ノ制限ハ市會ノ議決ヲ經テ特免スルコトヲ得

家督相續ニ因リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル

納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市ノ區域變更ノ爲中斷セラル

シキトキハ區長抽籤シテ之ヲ定ム

選舉人毎級各別ニ各選舉區ヲ通シテ議員定員ノ三分ノ一ヲ選舉ス其ノ各

選舉區ニ於ケル每級ノ議員數ハ第十條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

被選舉人ハ同級又ハ同選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

本條直接市稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ニ

於ケル賦課額ニ依ル

第十三條 選舉權ヲ有スル者ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲タル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三十日ヲ經過セサル者亦同シ

一 有給ノ市吏員

二 府ノ官吏及有給ノ府吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

前項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

市ノ爲工事ノ請負若ハ物件勞力供給ノ契約ヲ爲ス者又ハ市ノ爲同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス

第十四條 議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ總選舉期日ヨリ四年トス

又ハ市會若ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ

第十二條 選舉人ハ各選舉區ニ於テ之ヲ三級ニ分ツ

選舉人中直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三

分ノ一二當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人中直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ一級選舉人ヲ除キタル選舉人ノ納ムル總額ノ二分ノ一二當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ三級トス

前項ノ場合ニ於テ一級選舉人ノ數二十名ニ満タサルトキハ直接市稅ノ納額最多キ者二十名ヲ以テ一級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ若兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ市内ニ住所ヲ有シタル年數ノ多キ者ヲ上級ニ入ル住所ヲ有シタル年數ニ依リ難キトキハ年長者ヲ以テシ年齡相同シキトキハ區長抽籤シテ之ヲ定ム

選舉人毎級各別ニ各選舉區ヲ通シテ議員定員ノ三分ノ一ヲ選舉ス其ノ各

選舉區ニ於ケル每級ノ議員數ハ第十條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

被選舉人ハ同級又ハ同選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

本條直接市稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ニ

於ケル賦課額ニ依ル

第十三條 選舉權ヲ有スル者ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲タル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三十日ヲ經過セサル者亦同シ

一 有給ノ市吏員

二 府ノ官吏及有給ノ府吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

前項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

市ノ爲工事ノ請負若ハ物件勞力供給ノ契約ヲ爲ス者又ハ市ノ爲同一ノ行

爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス

第十四條 議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ總選舉期日ヨリ四年トス

又ハ市會若ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ

第十二條 選舉人ハ各選舉區ニ於テ之ヲ三級ニ分ツ

選舉人中直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三

ノ指揮ニ從ヒ區長之ヲ調製スヘシ

名簿ハ其ノ選舉期日前四十日ヲ期シ其ノ日ヨリ七日間區役所ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ區長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項區長ノ決定ニ不服アル者ハ市參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定シ爾後一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ適用ス但シ名簿若ハ選舉ノ無效トナリタルニ因リ又ハ補闕選舉ノ爲ニ調製シタル名簿ハ本項ノ期間内ニ行ハルル總選舉並其ノ後ノ補闕選舉ニ適用ノ限ニ在ラス

異議ノ決定訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ區長ハ直ニ之ヲ修正スヘシ但シ名簿確定後ナルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前三日迄ニ修正スヘシ

名簿ヲ修正シタルトキハ區長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ  
名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ニ登録セラルヘキ確定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ名簿ニ登録セラレタル選舉人中其ノ直接市稅ノ納額自己ノ納額ニ最近キ者ノ屬スル等級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テ最近キ者兩級ニ在ルトキハ下級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ  
名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得但シ名簿ハ之ヲ修正スルノ限ニ在ラス  
異議ノ決定訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿無效トナリタルトキハ更ニ選舉期日前定メ本條ノ規定ニ依リ名簿ヲ調製スヘシ  
名簿ノ様式ハ市長之ヲ定ム

第十七條 選舉ノ執行ハ改選ノ場合ニ於テハ議員ノ任期満了ノ翌日トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ市長ノ定ムル期日ニ依ル

前項ノ期日選舉ノ場所投票ノ時限及各選舉區各級ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ市長之ヲ告示スヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

第十八條 選舉會ハ區長選舉長トナリ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選舉會ニハ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ置キ臨時ニ選舉人中ヨリ區長之ヲ選任ス

選舉立會人ハ名譽職トス

第十九條 選舉會場ニハ選舉人ノ外入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者又ハ選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス  
選舉會場ニ於テ演説討論ヲ爲シ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ選舉會場外ニ退出セシメ必要アルトキハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ其ノ投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ得投票用紙ニ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二 二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

三 同一ノ氏名ヲ連記シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

第二十二條 投票ノ受否並效力ニ關スル事項ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決ス

第二十三條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス但シ

其ノ選舉區其ノ等級ニ於ケル議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル當該級ノ選舉人總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコト

ヲ要ス

前項投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ取り年齢相同シキトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

第二十四條 選舉長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

選舉錄ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ

選舉錄ハ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二十五條 當選者定マリタルトキハ區長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者ニシテ當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

第十三條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應スルヤ否ヲ市長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカラ市長ニ申出ツヘシ但シ第

十三條第三項ノ官吏ノ當選シタル者ニ關シテハ其ノ期間ヲ二十日トス第二項ノ期間内ニ當選ノ應否ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

當選ニ應シタル者ノ氏名及其ノ住所ハ市長之ヲ告示スヘシ

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第二十六條 選舉人又ハ區長ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ前條告示ノ日ヨリ七日

以内ニ市參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項訴願ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市長ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項訴願ノ有無

ニ拘ラス第二十四條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ市參事會ノ決定ニ付スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條市參事會ノ裁決若ハ決定ニ關シテハ市長又ハ區長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル虞ナキ部分ハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第二十八條 選舉若ハ當選ニシテ無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ查定ニ錯誤アリタル爲當選無効ト確定シタルトキハ第二十九條 議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ

前項被選舉權ノ有無ハ市會之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十九條 議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ

前項被選舉權ノ有無ハ市會之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十一條 議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第三十二條 市會ハ市ノ公共事務ニ關スル事件並法律勅令ニ依リ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第三十三條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 市條例及市規則ヲ設定スルコト

二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事件但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歲入出豫算ヲ定ムルコト

四 決算報告ヲ認定スルコト

五 法律勅令ニ定ムルモノノ外使用料手數料及市稅ノ賦課徵收ニ關スル

六 不動產ノ管理處分並買受讓受ニ關スルコト

七 基本財產及積立金等ノ設置管理並處分ニ關スルコト

八 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムルコト  
九 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ  
抛棄ヲ爲スコト  
十 市吏員ノ身元保證ニ關スルコト  
十一 市ニ係ル訴訟及和解ニ關スルコト  
十二 區ノ名稱又ハ市役所區役所ノ位置ニ關スルコト  
第三十四條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事件ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得  
第三十五條 市會ハ法律勅令ノ定ムル所ニ依リ選舉ヲ行フヘシ  
第三十六條 市會ハ市事務ノ處理議決ノ執行ニ付市長ノ報告ヲ請求シテ其  
ノ當否ヲ検査スルコトヲ得  
市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付官廳ニ建議ヲ爲スコトヲ得  
市會ハ官廳ノ諮詢アルトキハ意見ヲ答申スヘシ  
第三十七條 市會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ  
議長及副議長ハ議員ノ任期間之ヲ改選セス  
第三十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アル  
トキハ年長ノ議員又ハ臨時ニ選舉シタル議員ヲ以テ假議長トス  
第三十九條 市長及其ノ委任ヲ受ケタル市吏員ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辯  
明スルコトヲ得  
前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之  
カ爲議員ノ演説ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十條 市會ハ議長之ヲ招集ス若議員定員四分ノ一以上又ハ市長ノ請  
求アルトキハ直ニ之ヲ招集スヘシ但シ議長副議長共ニ無キトキハ市長ニ  
於テ之ヲ招集ス  
招集並會議ノ事件ハ急施ヲ要スル場合ノ外少クトモ三日前ニ之ヲ告知ス  
ヘシ  
第四十一條 市會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコ  
トヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ出席議員尙半數ニ滿タサ  
ルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第四十二條 市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ  
決ス

第四十三條 議長及議員ハ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與ス  
ルコトヲ得ス但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコト  
ヲ得  
第四十四條 市會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ投票ヲ爲シ有效投票ノ  
過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數  
ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム此ノ場合ニ於テ同數者ア  
ル爲二名ヲ取り難キトキハ其ノ同數者ニ就キ議長抽籤シテ之ヲ定メ更ニ  
投票セシム  
前項ノ再投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキ  
ハ議長抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム  
第二十條 第一項第三項及第二十一條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用シ  
投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス  
本條ノ選舉ニハ市會ノ議決ヲ以テ特別ノ方法ヲ用フルコトヲ得  
第四十五條 市會ノ會議ハ公開ス但シ議長若ハ議員ノ發議ニ依リ傍聽禁止  
ヲ可決シタルトキ又ハ市長ヨリ傍聽禁止ノ要求アリタルトキハ此ノ限ニ  
在ラス  
前項ノ發議ハ討論ヲ用ヰス其ノ可否ヲ決スヘシ  
第四十六條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ議場ノ秩序ヲ保持ス  
議員又ハ傍聽人中會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長之ヲ制止シ命ニ從  
ハサルトキハ場外ニ退出セシメ必要アルトキハ警察官吏ノ處分ヲ求ムル  
コトヲ得  
第四十七條 議長ハ會議事件ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ  
第四十八條 市會ニ書記其ノ他ノ有給吏員ヲ置キ議長之ヲ任免ス  
前項ノ吏員ハ議長ノ指揮ヲ承ケ會議ニ關スル庶務ニ從事ス  
第四十九條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名  
ヲ記載セシムヘシ  
會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ  
定ム  
第五十條 議員正當ノ事由ナクシテ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ  
市會ノ議決ヲ經テ其ノ職ヲ解クコトヲ得  
前項市會ノ議決ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第一項ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ處分ハ確定ニ至ル迄其ノ執行ヲ停止ス

第五十一條 市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本法並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ

公開シタル議場ニ於テ譴責シ又ハ會議日三日以内出席ヲ停止スルノ規定

ヲ設クルコトヲ得

### 第三章 市參事會

#### 第一款 組織及選舉

第五十二條 市參事會ハ市長副市長及市參事員十二名ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十三條 市參事員ハ名譽職トシ市會議員ニ非サル市公民中ヨリ定員ノ半數以内ヲ選舉シ其ノ他ヲ市會議員中ヨリ選舉ス

前項市參事員ノ選舉ハ總選舉後ノ市會ニ於テ直ニ之ヲ爲スヘシ

市參事員ノ任期ハ市會議員ノ任期終了日ヲ以テ満了ス

市參事員中闕員アルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

本條ノ選舉ニ關シテハ第十三條第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

第五十四條 市參事員ノ當選ハ市長之ヲ當選者ニ告知シ其ノ他第二十五條

第二項第三項及第五項乃至第七項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 市參事員若ハ市會議員ニ於テ市參事員ノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ市參事會ノ決定ヲ求ムル

コトヲ得其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條及第二十八條ノ規定ハ市參事員ノ選舉ニ之ヲ適用ス但シ第二十八條但書ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 市會議員ヨリ出テタル市參事員議員ノ職ヲ失ヒタルトキハ其ノ職ヲ失フ市會議員ニ非シテ市參事員タル者議員ニ當選シ其ノ當選ヲ辭セサルトキ亦同シ

第五十七條 市參事員ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス但シ被選舉權ノ有無ハ市參事會之ヲ決定ス

第五十八條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障アルトキハ副市長之ニ代リ市長副市長共ニ故障アルトキハ市參事員中ヨリ臨時假議長ヲ選舉スヘシ

#### 第二款 職務權限

第五十九條 市參事會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタル事項

二 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フルコト

三 財產及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項

四 豫備費支出ニ關シ重要ナル事項

五 市長ノ諮詢シタル事項ニ對シ意見ヲ述フルコト

六 其ノ他法律命令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十條 市參事會ハ市長之ヲ招集ス若市參事員定員半數以上ノ請求アルトキハ直ニ之ヲ招集スヘシ

第六十一條 市參事會ニ會議ハ傍聽ヲ許サス

第六十二條 市參事會ニ書記ヲ置キ市吏員中ヨリ市長之ヲ命ス

第六十三條 市參事員正當ノ事由ナクシテ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ第五十條ノ規定ヲ適用ス

第六十四條 第三十五條第三十六條第二項第三項第三十九條第四十一條乃至第四十四條第四十六條第四十八條第二項及第四十九條ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

### 第四章 市行政

#### 第一款 市吏員ノ組織及選任

第六十五條 市ニ市長副市長各一名ヲ置ク

第六十六條 市長及副市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

市長ハ内務大臣ノ奏上シタル三名ノ候補者中ヨリ勅任ス

前項ノ候補者ハ内務大臣市會ヲシテ之ヲ選舉セシムヘシ

副市長ハ内務大臣市會ヲシテ候補者ヲ選舉セシメ奏上裁可ヲ請フヘシ  
市長及副市長ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第六十七條 市長及副市長ハ市公民ニ限ラス但シ其ノ任ヲ受クルトキハ在職中市公民タルノ權ヲ得

第六十八條 市長及副市長ハ第十三條第二項第二號乃至第五號ニ掲クル職ト相兼ヌルコトヲ得ス又同條第四項ニ掲クル行為ヲ爲シ若ハ同一ノ行爲

ヲ爲ス法人ノ役員タルコトヲ得ス

第六十九條 市長及副市長ハ内務大臣ノ認可ヲ得ルニ非サレハ營業又ハ他

ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

第七十條 市ニ出納司一名ヲ置ク

出納司ハ市長之ヲ選定シ市會ノ承認ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

市長又ハ副市長トノ間ニ父子兄弟ノ緣故アル者ハ之ト同時ニ出納司タル

コトヲ得ス若其ノ緣故アル者市長又ハ副市長ニ就任シタルトキハ出納司

ハ其ノ職ヲ失フ

出納司ニ關シテハ第六十六條第一項第六十七條及第六十八條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 市ニ出納監理二名ヲ置ク

出納監理ハ名譽職トシ市會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉シ一會計年度間任ス

出納監理ニ關シテハ前條第三項ノ規定ヲ準用ス其ノ出納司トノ間ニ緣故アル場合亦同シ

第七十二條 市ハ市條例ヲ以テ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トシ市公民中ヨリ選任スヘシ

委員ノ組織及任期等ニ關スル事項ハ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十三條 市公民ニ限り任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ公民權ヲ喪失シ

又ハ第九條但書ノ規定ニ該ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲市公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ第九條但書ノ規定ニ該ルトキ亦

同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ内務大臣ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止シ併セテ其ノ報酬又ハ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得

第七十四條 市ニ主事技師其ノ他必要ノ有給吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム  
第二款 市吏員ノ職務權限

第七十五條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス  
市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付議案ヲ發シ並其ノ議決ヲ執行スルコト  
二 財產及營造物ヲ管理スルコト但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事

務ヲ監督スルコト

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スルコト

四 證書及公文書類ヲ保管スルコト

五 使用料手數料及市稅ヲ賦課徵收スルコト

六 其ノ他法律命令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第七十六條 市長ハ市會ニ提出スル議案ニ付市參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ市參事會ノ意見ヲ議案ニ添へ市會ニ提出スヘシ

第七十七條 市長ハ出納監理ヲ除クノ外市吏員ヲ指揮監督シ其ノ任命ニ係ル市吏員ニ對シ市規則ノ定ムル所ニ依リ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

第七十八條 市長ハ市會又ハ市參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越ヘ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ自己ノ意見又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ再議ニ付シ若ハ再選舉ヲ行ハシメ尙之ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ市會又ハ市參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキ亦同シ

第七十九條 市長ハ市會成立セス又ハ會議ヲ開クコト能ハサルトキ若ハ招集ノ暇ナシト認ムルトキハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長及副市長ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項市參事會ノ議決ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ市參事會ノ議決ニ付スルコト能ハサルトキ及市會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ選舉ヲ行ハサルトキハ市長ハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

本條ノ處分ハ之ヲ次回ノ市會ニ報告スヘシ

第八十條 市長ハ市參事會成立セス又ハ會議ヲ開クコト能ハサルトキ若ハ招集ノ暇ナシト認ムルトキハ市參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得市參事會ニ於テ其議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキ亦同シ

前項市長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ處分ハ之ヲ次回ノ市參事會ニ報告スヘシ

第八十二條 市長其ノ他市吏員ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ國ノ行政事務ヲ掌ル

行政事務ニ付テハ市會ノ同意ヲ經國ノ行政事務ニ付テハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十三條 副市長ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキハ之ヲ代理ス

第八十四條 出納司ハ市ノ出納並第八一條ニ關スル國ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事務ハ第八十二條第一項ノ例ニ依リ市長ニ於テ其ノ一部ヲ區出納司ニ分掌セシムルコトヲ得

出納司故障アルトキハ市長ノ選定シタル市吏員之ヲ代理ス但シ其ノ選定ハ豫メ市會ノ承認ヲ受クヘシ

第八十五條 出納監理ハ市ノ出納及財產ニ關スル計算並正否ヲ監査ス

第八十六條 委員ハ財產若ハ營造物ヲ管理シ又ハ一時ノ委託ニ依リ市行政事務ノ一部ヲ調査ス

委員正當ノ事由ナクシテ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ第五十條ノ規定ヲ適用ス

第八十七條 第七十四條ノ市吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十八條 市ノ事務ニ關スル處務規程ハ市長之ヲ定ム

第五章 紙料及給與

第八十九條 名譽職員ニハ職務ノ爲要スル實費ヲ給スルコトヲ得

出納監理及委員ニハ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第九十條 名譽職員ノ實費報酬並有給吏員ノ給料旅費等ノ支給額及其ノ支給方法ハ市規則ヲ以テ之ヲ定ム

第九十一條 有給吏員ノ退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ム

第九十二條 本章ノ給料及給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ市參事會之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ

出訴スルコトヲ得

前項市參事會ノ決定ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六章 財務

第一款 財產營造物及收入支出

第九十三條 市ハ不動產積立金等ヲ基本財產トナシ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ取得シタル財產ハ基本財產ニ加入スヘシ但シ寄附ニ係ル物件ニシテ寄附者其ノ使用ノ目的ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設クルコトヲ得

第九十四條 市住民ニ於テ財產又ハ營造物ヲ特ニ使用スル舊來ノ慣行ハ市會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ之ヲ改ムルコトヲ得ス

第九十五條 財產ヲ賣却貸與シ又ハ物件勞力ノ供給若ハ工事ノ請負ヲ爲サシムルトキハ競爭入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ若ハ入札スヘキ價額其ノ費用ニ比シ得失相償ハスト認ムルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條 市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲ストヲ得

第九十七條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法律命令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ義務ニ屬スル費用ヲ負擔ス第八十一條ノ事務ヲ執行スル爲必要ナル費用及第八十九條乃至第九十一條ノ規定ニ依ル支出亦同シ但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十八條 市ハ營造物若ハ公共ノ使用ニ供スル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ及特ニ一箇人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十九條 第九十四條及前條ニ規定スル財產ノ使用方法ニ關シテハ市規則ヲ設クルコトヲ得

第一百條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府稅ノ附加稅

二 特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府稅ニ附加シ均一ノ税率ヲ以テ市ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トシ特別稅ハ別ニ稅目ヲ設ケ課稅スルノ必要アルトキ之ヲ賦課徵收ス

國稅ノ附加稅タル府稅ニ對シテハ附加稅ヲ附加スルコトヲ得ス

第一百一條 九十日以上市内ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ市稅ヲ納ム

ル義務ヲ負フ

第一百二條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ九十日以上滯在スルコトナシト雖市内ニ於テ物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ若

ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ物件營業及行爲ニ對シ又ハ其ノ收入ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ

但シ國ノ事業若ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラバ

第一百三條 市住民及九十日以上市内ニ滯在スル者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ若ハ占有スル物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

收入ニ對シ市稅ヲ賦課スルトキ其ノ納稅義務者ニシテ同一收入ニ付他市町村ニ納稅義務ヲ有スルトキハ其ノ收入ヲ他市町村ト平分シ其ノ一部ニ

賦課スヘシ但シ物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

他市町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ營業若ハ其ノ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ附加稅ヲ賦課スルトキハ其ノ方法ヲ定メ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第一百四條 左ニ掲タルモノニハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ供用者以外ニ納稅義務者アルトキ其ノ納稅義務者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

一 所得稅法第五條ニ掲タル所得  
二 國府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ直接ノ公用ニ供スル物件並營造物  
三 公共ノ施設ニ係ル學藝美術又ハ慈善ノ用ニ供スル物件並營造物  
四 神社遙拜所寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物ニシテ其ノ境内地ニ存在スルモノ及其ノ境内地  
五 教會所說教所ノ用ニ供スル建物ニシテ住宅ナラサルモノ及其ノ構内地

前項ノ外市稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

皇族ニ係ル市稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第一百五條 市稅ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律中別段ノ規定アルモノノ外勅令ノ定ムル所ニ依ル

第一百六條 納稅義務者中特別ノ事情アル者ニ對シ市長ハ納稅延期ヲ許スコトヲ得但シ其ノ會計年度出納閉鎖期ヲ超ユル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

第一百七條 使用料手數料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例ニハ二圓以下ノ過料ニ處スルノ規定ヲ設クルコトヲ得財產若ハ營造物ノ使用方法ニ關スル市規則ニ付テモ亦同ジ

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ市長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ市參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得前項市參事會ノ裁決ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一百八條 市稅ノ賦課額ハ之ヲ告示スヘシ  
市稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付後九十日以内ニ市長ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得財產若ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
前項市參事會ノ決定ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得本條ノ規定ハ使用料及手數料ノ徵收ニ關シ之ヲ準用ス

第一百九條 使用料手數料市稅其ノ他市ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ市條例ノ規定ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

滯納者前項ノ督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ尙完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

前項ノ處分ニ不服アル者ハ市參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項市參事會ノ裁決ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ其ノ處分確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス  
第一百十條 使用料市稅其ノ他官廳ノ命令ニ依ル市ノ收入ノ賦課徵收ニ關シ

必要アルトキハ市長ハ市吏員ヲシラ日出ヨリ日没迄ノ間關係者ノ家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ臨檢及検査ハ營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内之ヲ爲スニトヲ得

第一百十一條 第百九條ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第一百十二條 市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ天災事變等已ムヲ得サル支出若ハ永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スル場合ニ限り市會ノ議決ヲ經テ市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ關シ議決ヲ經ヘシ

豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要アルトキハ本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

#### 第二款 歲入出豫算及決算

第一百十三條 市長ハ毎會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前十日迄ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ其ノ市會ニ提出スヘキ期限ハ仍五十日前トス

市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ併セテ事務報告書及財產明細書ヲ提出スヘシ

第一百十四條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第一百十五條 數年ヲ期シ支出ヲ要スル費用ハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第一百十六條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ市會ノ否決シタル費用途ニ充ツルコトヲ得ス

第一百十七條 豫算ハ市會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一百十八條 市ハ市會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設タルコトヲ得

第一百十九條 豫算成立シタルトキハ市長ハ其謄本ヲ出納司ニ交付スヘシ出納司ハ市長又ハ内務大臣ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

市長ノ命令ヲ受クルモ其ノ豫算ナキトキ又ハ財務ニ關スル規定ニ依ラズルトキ亦同シ

第一百二十條 出納閉鎖ハ會計年度經過後三箇月ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖後二箇月以内ニ證書類ヲ添へ出納司ヨリ市長ニ提出スヘシ市長ハ前項出納監理ノ審查ニ關シ意見ヲ異ニスルトキハ出納監理ノ意見ヲ決算ニ添へ市會ニ提出スヘシ

市長ハ之ニ豫算ニ對スル増減ノ説明ヲ附シ出納監理ノ審查ヲ經テ次ノ

決算及其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ハ之ヲ内務大臣ニ報告シ決算ハ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一百二十一條 市ノ支拂ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第一百二十二條 現金ノ出納及保管ノ爲市金庫ヲ置キ銀行ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ外市金庫ニ關シ必要ナル事項ハ市規則ヲ以テ之ヲ定ム

第一百二十三條 豫算調製ノ式並費用目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル事項ハ市規則ヲ以テ之ヲ定ム

#### 第七章 監督

第一百二十四條 市行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第一百二十五條 内務大臣ハ第七十八條ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會ノ議決若ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

前項ノ取消處分ニ不服アル市會又ハ市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一百二十六條 本法中別段ノ規定アル場合ノ外市ノ行政ニ關スル市長ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百二十七條 本法ニ依リ市參事會ニ訴願ヲ爲シ又ハ決定ヲ求ムル場合ニ於テハ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

第一百二十八條 本法ニ規定スル異議若ハ訴願訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ各十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ本法中別ニ期限ヲ定メタルモノハ

此ノ限ニ在ラス

本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ申立人ニ交付スヘシ

本法中別段ノ規定アル場合ノ外異議ノ申立又ハ訴願訴訟ノ提起ニ因リテ處分ノ執行ヲ停止スルコトナシ但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第一百二十九條 内務大臣ハ市行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スル爲行政事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ並實地ニ就キ事務ヲ视察シ出納ヲ檢閱スルコトヲ得

内務大臣ハ市行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得  
第一百三十條 法律命令ニ依リ負擔スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ内務大臣ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

市又ハ市長其ノ他ノ吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ内務大臣又ハ其ノ委任ヲ承ケタル官吏吏員ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ市ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル市又ハ市長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一百三十一條 内務大臣ハ勅裁ヲ經テ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得  
市會解散ノ場合ニ於テハ九十日以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第一百三十二條 内務大臣ハ市長副市長共ニ故障アルトキ市參事員中ヨリ臨時市長代理者ヲ選任スヘシ若市參事員ナキトキハ府知事又ハ其ノ代理者ヲシテ市長ノ職務ヲ管掌セシム但シ其ノ費用ハ市ノ負擔トス

前項臨時市長代理者ノ報酬及旅費額等ハ内務大臣之ヲ定ム

第一百三十三條 左ニ掲タル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市條例ヲ設定スルコト

二 第七十七條第九十條第百二十二條及第百二十三條ニ依ル市規則並營造物ニ關スル市規則ヲ設定スルコト

三 基本財產ノ處分ニ關スルコト

四 寄附若ハ補助ヲ爲スコト

五 區ノ名稱ニ關スルコト

第一百三十四條 左ニ掲タル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコト

ヲ要ス

一 市債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムルコト但シ

第一百十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅使用料手數料ヲ新設シ若ハ變更スルコト

三 直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スルコト但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

四 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スルコト

五 均一ノ稅率ニ依ラシテ國稅又ハ府稅ノ附加稅ヲ賦課スルコト

第一百三十五條 内務大臣及大藏大臣ハ市ノ行政ニ關シ其ノ許可ヲ與フヘキ事件ニ付更正シテ許可スルコトヲ得

第一百三十六條 内務大臣ハ市長副市長出納司出納監理及委員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

市長及副市長ノ解職ハ勅裁ヲ經ルコトヲ要ス

内務大臣ハ第一項ノ吏員ニ對シ解職ヲ行ハムトスル前停職ヲ命シ且場合ニ依リ報酬又ハ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得

第一百三十七條 市吏員ノ服務紀律賠償責任ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

## 第八章 區

### 第一款 總則

第一百三十八條 區ハ其ノ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他從來法律命令ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

第一百三十九條 區ハ從來ノ區域ニ依ル

區ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百四十條 區ノ境界ニ關スル事項ハ市參事會之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項市參事會ノ決定ニ關シテハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一百四十一條 區內ニ住所ヲ有スル者ハ本法ニ從ヒ區有財產並區ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及區ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

前項ノ外區内ニ住所ヲ有スル者ニ關シテハ市ノ住民ニ關スル規定ヲ準用ス

督ス

第一百四十二條 區ハ第一ニ於テ市長之ヲ監督シ第二ニ於テ内務大臣之ヲ監

區ノ監督ニ關シテハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第百二十五條第百二十九條及百三十條第一項ノ規定ニ依ル内務大臣ノ職權ハ市長モ亦之ヲ行フコトヲ得

### 第二款 區會及區行政

第百四十三條 區會ハ區有財產並區ノ營造物ニ關スル事項及法律勅令ニ依リ區會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

區會ハ區ノ出納ニ關シ計算書ヲ檢閱シ及其ノ當否ヲ監査スルコトヲ得

第百四十四條 區會議員ハ市ノ名譽職トシ其ノ定員ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ム

第百四十五條 區會議員一級選舉ノ投票ニ關シテハ市條例ノ規定ニ依リ連名投票ヲ用フルコトヲ得

連名投票ヲ用フル爲投票ノ效力ニ關シ必要ナル事項ハ前項ノ市條例中ニ規定スヘシ

第百四十六條 區會議員ノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關スル異議及被選舉權ノ有無ニ付テハ市會議員ニ關スル規定ヲ適用シ其ノ他區會ニ關シテハ前三條ニ規定スルモノノ外市會ニ關スル規定ヲ準用ス

區會ト區關係ニ付テハ市會ト市長トノ關係ニ關スル規定ヲ準用ス  
第百四十七條 區會ノ解散ハ内務大臣之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ九十日以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第百四十八條 區ニ區長區書記其ノ他必要ノ有給市吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

區長ノ任命ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

區長ハ之ヲ一名トシ區書記其ノ他ノ吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ免ス

區ニ區出納司一名ヲ置キ市長副市長出納監理及區長トノ間ニ父子兄弟ノ緣故アラサル區書記中ヨリ市長之ヲ命ス

第百四十九條 區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ區內ニ關スル市ノ事務並區ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他ノ吏員ハ府知事若ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ國及府ノ行政事務ヲ掌ル

區長ハ區書記ヲシテ前二項ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得  
第百五十條 區長ニ於テ區ノ事務ヲ處理スルニ付テハ本款ニ規定スルモ

ノノ外市行政ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第七十八條及第七十九條第三項ニ於テ内務大臣トアルハ之ヲ市長トス  
第百五十一條 區長故障アルトキハ上席區書記之ヲ代理ス但シ區出納司タル區書記ハ代理スルコトヲ得ス

第百五十二條 區出納司ハ市長又ハ出納司ノ命ヲ承ケ市及區ノ出納並第百四十九條第二項ニ關スル國及府ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス  
區出納司故障アルトキハ市長ノ指名シタル區書記之ヲ代理ス

第百五十三條 區書記其ノ他ノ吏員ハ區長ノ指揮監督ヲ承ケ庶務ニ從事ス  
第百五十四條 區ノ事務ニ關スル處務規程ハ市長之ヲ定ム

### 第三款 區ノ財務

第百五十五條 第百三十八條ノ事務ニ要スル支出及區ニ屬スル市ノ名譽職員ニ給スル實費並報酬ハ區ノ負擔トシ其ノ他ノ事務ニ要スル支出ハ市ノ負擔トス

第百五十六條 區ハ其ノ負擔ニ屬スル支出ニ充ツル爲市稅トシテ區費ノ賦課徵收ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ財產及營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第百五十七條 區ノ財務ニ關シテハ前二條ニ規定スルモノ及市條例並市規則ノ設定ヲ除クノ外市ノ財務ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第百十七條及第百二十條ニ於テ内務大臣トアルハ之ヲ市長トシ第百十九條ニ於テ内務大臣トアルハ之ヲ監督廳トス

區ノ現金ノ出納及保管ハ市金庫ヲシテ之ヲ取扱ハシム

### 第九章 附則

第百五十八條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス但シ第十條ノ市會議員定員ハ次ノ總選舉迄之ヲ六十人トス

第百五十九條 本法施行ノ際現ニ助役收入役名譽職參事會員市會議員及區會議員ノ職ニ在ル者ハ本法施行後ト雖左ノ區分ニ依リ在職ス但シ市會議長區會議長並其ノ代理者ハ本法施行ト共ニ其ノ職ヲ失フ  
一 助役ハ之ヲ副市長トス但シ助役二名以上アルトキハ市會ニ於テ其ノ中ヨリ選定シタル者ヲ副市長トシ其ノ他ハ職ヲ失フ  
二 收入役ハ之ヲ出納司トス

三 名譽職參事會員ハ之ヲ市參事員トシ本法施行後明治二十一年法律第一號市制ニ依ル半數改選期迄在任ス

一號市制ニ依ル半數改選期迄在任ス但シ市會議員ノ任期其ノ前ニ終了スルトキハ市參事員モ共ニ其職ヲ失フ

四 市會議員及區會議員ハ本法施行後明治二十一年法律第一號市制ニ依ル半數改選期迄在任ス

前項第三號ニ依リ就職シタル市參事員ニシテ第五十三條第一項ノ制限ニ適セサルトキハ補闕選舉ノ際順次其ノ制限ニ依ラシムヘシ

第一百六十條 本法施行ノ際現ニ市長ノ職ニ在ル者及前條ニ依リ就職シタル副市長並出納司ハ本法施行後明治二十一年法律第一號市制ニ依ル殘任期間在任ス但シ殘任期間四年ヲ超ユルトキハ之ヲ四年トス

第一百六十一條 本法ニ定メタル直接稅間接稅ノ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第一百六十二條 本法ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(公爵徳川家達君) 御發言ガゴザイマセヌケレバ次ノ議事日程ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉……御異議ガゴザイマセヌケレバ議長ガ選定イタシマス

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 此委員ハ郡制ノ委員ニ付託シテハ如何デゴザイマセウカ

〔異議ナシト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十三、屠場法案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

屠場法案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月二十六日

右特別委員長

伯爵廣澤金次郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

「伯爵廣澤金次郎君演壇ニ登ル」

○伯爵廣澤金次郎君 唯今日程ニ上ボリマシタ屠場法案ノ委員會ノ審査ノ要領ヲ成ルベク簡単ニ御報告イタシマス、本案ハ條數ハ十九條モアリマスルガ、

此會期切迫ノ際デゴザイマスカラ最早成ルベク簡単ニ申ス積リデアリマス、唯本案ハ衆議院委員會ハ、委員會ニ於キマシテハ全會一致トハ申シマセヌガ、委員ノ中ノ一人

ノ御方ヨリ修正案ガアリマシタガ、ソレハ成立イタシマセヌデ、大多數ヲ以テ原案ノ通リニ可決スペキモノト決定シタ次第デアリマス、唯本案ハ衆議院提出案デゴザイマスルガラ、此本案ノ提出ノ理由ダケ極ク簡單ニ申上げテ置カウト思ヒマス、此屠場取締ト云フコトハ縣々ニ於キマシテ、府縣ニ於テノ

取締ノ外ハ法律モ何モ無イノデアリマス、從ツテ各府縣ニ於テ其取締ノ法ガ區々ニナッテ居ルノデアリマス、併ナガラ今日ノ如ク肉食ガ增加ニ從ヒマシテ毎年屠殺スル獸類ハ殆ド此十年間ニ倍以上ニナッテ居ル次第デアリマスル、

公衆衛生上是等屠場ノ如キ取締ハ法律ヲ以テ各府縣ヲ通ジテ取締ル必要ガアルト云フノガ重モナル理由デゴザイマス、其他申上グレバ申上ゲルコトハ幾ラモアリマスガ最早會期切迫ノコトデゴザイマスカラ、御質問ガゴザイマスレバ幾ラデモ申上グマスガ、何卒原案ノ通リ諸君ニ於テ議決セラレムコトヲ希望イタシマス、附加ヘテ討論……附加ヘテ讀會省略ノ動議ヲ提出シテ置キマス

○伯爵吉井幸藏君 讀會省略ニ贊成

〔賛成ト呼ブ者多シ〕

○男爵伊達宗敦君 チヨット質問ガアリマスカラ演壇ニ居テ下サイ……唯今御述ベニナッタ報告ハ極ク簡略ノ又簡略デ殆ド私ナドニハ分ラナイノデアリ

マス、勿論之ニ全體異議ハナイノデアリマスガ、委員長ガ十年間ニ牛ヲ殺ストガ倍以上ニナッタノデアリマスカ、十年ノ間ニ一匹ダッタノガ二匹ニナッタノダカ何ダカ分ラナイ、倍以上ト云フコトハ今マデ十年間ニ幾ラ牛ヲ殺シタカ分ラナイ、又場所ハドウ云フ所デドウ云フ方法デ設ケラレテアルノカ分ラナイ、實ハ私ハ案ガ茲ニ無イカラ分ラナイ、ソレデ伺フノデアリマス

○伯爵廣澤金次郎君 ソレハ牛ニハ限リマセヌ、此食料ニ要シ……使ヒマス獸類ヲ屠殺スルコトガ此十年間ニ倍ニナッタト云フコトハ委員ノモノニ貰ヒマシタ参考書ガアリマスカラ、是ハ後程伊達サンニ御緩クリ御目ニ掛ケル

ヤウニ致シマス、其次ノ御質問ハ何デゴザイマスカ

○男爵伊達宗敦君 ソレデハモウ一遍言ヒマセウ、牛ヲ屠ル場所、屠場デス、ソレハドノ位井數ガアリマスカ、其牛ヲ殺ス場所ト云ツテモ何カ圍カ何カナケレバナリマセヌト思ヒマス、私ハ極ク不案内デゴザイマスカラ、委員長ハ

牛ヲ澤山「聽取り難シ」委シイコト思ヒマスカラ伺ヒマス

○伯爵廣澤金次郎君 全國ノ屠場ノ數ハ千四百餘ニナッテ居リマス、其アトノ圍ヒヲスルトカ何トカ云フコトハ寧ロ政府委員ニ御尋ネヲ願ヒマス、本案屠場ノ設備ノコトニ付テハ將來成ルベク設備ヲ良クシテ、檢疫ノ方法ナドハ十分政府ニ於キマシテ力メラレテ成ルベク黴菌ガアッタリ其他惡イ牛肉ヲ始終販賣シナイヤウニスル案デアリマス、圍ヒ其他ノコトニ付テハ委員會ニ於テ別ニ質問モアリマセヌデゴザイマシタカラ、若シ其點ニ付テ御質問ガアレバ政府委員ニ御尋ネヲ願マス

○男爵伊達宗敦君 次ノ議會デ伺ヒマス

○伯爵大原重朝君 讀會省略ニ贊成

○武井守正君 政府ハ此案ニ御同意ニナリマシテゴザイマスカ、如何デゴザイマス

〔政府委員窪田靜太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(窪田靜太郎君) 政府ハ此案ニハ全然賛成イタシマシタノデゴザイマス

○武井守正君 讀會省略ニ贊成

○議長(公爵徳川家達君) 廣澤伯爵ノ讀會省略ノ勸議ニハ定規ノ賛成者ガアッタト認メマス、讀會省略ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ニ請願ノ會議デアリマスガ、第十四ヨリ第三十  
六マデ連ネテ問題ニ供シテ御異存ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

意見書案

羽越線鐵道速成ノ件

右ノ請願ハ新發田米澤間ニ鐵道ヲ敷設シテ奥羽北陸ノ兩線ニ連絡セシメ日本海岸ニ於ケル交通機關ノ利便ヲ完備シ兼テ日本海岸ト太平洋岸トヲ連結シテ軍事上及經濟上ニ於ケル活動ヲ計ルハ現下ノ急務ナリト信スルヲ以テ之ヲ第一期線ニ繰上ケ速ニ起工ニ著手セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年 月 日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

貴族院議長公爵徳川家達

韓米輸入稅撤廢ニ關スル件  
意見書案

韓國釜山港居住米穀貿易商大池忠助外一名呈出

右ノ請願ハ韓國唯一ノ重要輸出品タル米糲ニ對シ課稅スルトキハ輸入ノ途ヲ杜絶シ隨テ韓人ノ購買力ヲ減殺シテ本邦商品ノ輸出ニ多大ノ影響ヲ及ボスヘシ故ニ若シ戰後經營上尙之カ課稅ヲ廢止スルヲ得スンハ近時日韓兩國ノ經濟上特殊ノ關係ニ鑑ミテ兩國協商ノ上一定ノ條件ノ下ニ輸出入共ニ相アッタト認メマス、韓國ヲシテ輸出稅ヲ全廢セシメ我ハ輸入ノ米穀ニ對シ起立者 多數  
○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

明治三十九年 月 日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

貴族院議長公爵徳川家達

意見書案

朝鮮米及穀輸入稅廢止ノ件

大阪市西區北堀江大阪朝鮮貿易商總取締小泉清左衛門呈出

右ノ請願ハ韓國唯一ノ重要輸出品タル米穀ニ對シテ課稅スルトキハ其ノ輸入ヲ杜絶シ隨テ韓人ノ購買力ヲ減殺シテ本邦商品ノ輸出ニ多大ノ影響ヲ及

ホスカ故ニ我保護國タル朝鮮ノ米穀ニ對シテハ他ノ外國米ト同視セス速ニ之カ課稅ヲ廢止セラレ日韓貿易ノ發展ヲ計ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

取引所稅法及賣買取引ノ方法改正ニ關スル件

右ノ請願ハ現今日露戰役ノ結果トシテ國債及地方債ノ發行高ヲ增加スルノ趨勢ニアリ而シテ此等多額ノ債券有在スルモ我カ金融市場ノ秩序ヲ紊スナ

ク財界ノ安康ヲ破ラサランメントセハ宜シク之カ市價ヲ調整シ其ノ信用ヲ保全スルニアリ故ニ取引所稅法及賣買取引ノ方法ニ改正ヲ加へ以テ取引所ニ於ケル此等債券ノ取引ヲ容易ナラシメ需用供給ノ關係ヲ適和シ其ノ取引授受ノ利通ヲ計ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

商法第百五十六條ノ規定改正ニ關スル件

大阪商業會議所會頭土居通夫呈出

右ノ請願ハ商法第百五十六條ノ規定ハ法文不備ノ爲之カ解釋ノ結果實際ノ應用上不便渺ナカラサルヲ以テ同條第二項ニ「但第百九十條ニ掲ケタル書

類ニ付テハ其ノ項目ノミヲ記載スルコトヲ得」トノ但書ヲ追加セラレタシ

明治三十九年月日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

貴族院議長公爵徳川家達

ノト旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

舞鶴開港ニ關スル件

大阪商業會議所會頭土居通夫呈出

右ノ請願ハ露領西比利亞及滿韓地方ニ對スル我カ通商貿易ノ擴張ヲ圖ルノ必要アル時ニ方リ日本海ヲ橫斷シテ對岸北部亞細亞地方ニ達スル近捷有利ノ通商路ヲ開キ彼我貿易ノ發達ヲ計ルハ現下ノ急務ナルヲ以テ舞鶴港ヲ開港シテ輸出入貿易港ト爲サシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

大阪市街法制定ニ關スル件

大阪商業會議所會頭土居通夫呈出

右ノ請願ハ當大阪市ハ帝國商工業ノ中心地ニシテ其ノ發達力ノ優大ナル全國ニ冠タリト雖道路ノ狹隘ニシテ街衢ノ不整頓ナル等大都市タルノ面目ニ適セサルモノ多ク爲ニ市ノ體面ト實利トヲ損スルコト渺ナカラサルヲ以テ速ニ適當ノ市街法ヲ制定シテ本市ノ健全ナル發達ヲ計ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

貴族院議長公爵徳川家達

## 意見書案

豊日鐵道第一期線上ノ件

宮崎縣宮崎郡宮崎町平民商水間此農夫外六十三名呈出

右ノ請願ハ近時鐵道ノ敷設漸ク進捗シ各地率ニ其ノ便ヲ得タルニ反シ獨宮崎縣ハ未タ其ノ利便ニ均霑スルコト能ハス爲ニ饑多ノ物資ハ鬱積シテ流通セス水陸到ル所徒ニ其ノ價值ヲ埋沒シ丁ルモノ多ク從テ各般ノ事業萎靡シテ振ハス文物運用ノ機ヲ阻礙スルモノ實ニ大ナルヲ以テ鐵道敷設法九州豫定線中第二期ニ屬スル鹿兒島下吉松若ハ國分ヨリ大分縣大分ニ達スル豊日二州縱貫鐵道ヲ第一期線ニ繰上ケ速ニ敷設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ探擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

## 意見書案

掛川驛ヲ自由下車驛トナスノ件

静岡縣小笠郡掛川町町長代理大庭善吉外三十一名呈出

右ノ請願ハ東海道鐵道ノ掛川驛ハ公私ノ關係甚廣ク且當町及附近村落ノ人口稠密ニシテ物產ニ富メリ隨テ旅客ノ乗降貨物ノ集散頗ル頻繁ナルノミナラス靜岡驛ヲ距ル三十哩濱松驛ヲ距ル十八哩ノ地方ニ在ルヲ以テ同驛ヲ自由下車驛トセラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ探擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

## 意見書案

矢作川改修工事ニ關スル件

愛知縣碧海郡中郷村村長稻垣新五郎外二十二名(二通)呈出

八戸區裁判所管轄變更ノ件

青森縣三戸郡八戸町平民瀧澤治兵衛外百一名呈出

## 意見書案

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

## 意見書案

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

右ノ請願ハ當參河國ノ最大流タル矢作川ハ其曲折甚シク流域ノ廣キカ故ニ灌漑運輸ノ利便ハ多キモ毎年秋霖ノ候ニハ洪水汎濫シテ損害ヲ被ルコト甚大ナリ然レトモ之カ治水工事ノ如キ一地方ノ資力ヲ以テスバコト能ハサルノミナラス區々タル瀬縫策ハ到底之カ慘害ヲ救フニ足ラサルニ依リ矢作川河身改修根本工事ヲ國庫ノ支辨ニヨリ施設セラレムコトヲ第十四議會以來毎回請願ヲナシ幸ニ衆議院ニ於テハ探擇セラレタルニ拘ラス未タ政府ノ容ルルトコロトナラサルヲ以テ速ニ請願人等願望ノ貫徹ヲ計ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ探擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

## 農業資料交付ノ件

宮城縣刈田郡福岡村村長一條一平外百十二名(七通)呈出

右ノ請願ハ請願人等ノ地方ハ明治三十八年米作ノ大凶歉ニ遭ヒ小作農者ノ窮乏其ノ極點ニ達セリ故ニ縣ニ於テハ土木工事耕地整理桑樹栽培等ノ救濟事業ヲ起セルモ此等事業ニ從事シテ得タル賃銀ハ辛シテ日夕ノ生活ヲ支フルニ過キニ到底力ヲ自家ノ農事ニ致ス能ハス空シク耕地ヲ荒廢セシメサルヲ得サル悲慘ノ境遇ニ在ルヲ以テ此ノ際耕耘季節中四五六ノ三箇月間一人一日約三合宛ノ扶助米ヲ給與シテ秋收迄ノ生活ヲ維持セシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ探擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

## 意見書案

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

右ノ請願ハ巖手縣九戸郡ハ裁判所構成法發布以來盛岡地方裁判所及福岡區裁判所ノ管轄ニ屬シ今日ニ至レルモ地勢經濟風俗習慣其ノ他諸般ノ法律關係上不便不利ヲ感スルコト極メテ多キヲ以テ此ノ際現裁判所管轄區域ヲ變更シ即チ裁判所構成法第十四條第十五條第十六條ニ規定スル權限ハ八戸區裁判所ニ又同第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條ニ規定ノ權限ハ青森地方裁判所ニ屬セシメ以テ從來ノ不便不利ヲ除去セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

村立小學校特別補助ノ件

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

右ノ請願ハ明治三十五年米作ノ不良ニ次クニ昨三十八年

ノ大凶歉ヲ以テシ加之日露戰役ニ伴フ負擔ニ任シ戸々飢餓ニ瀕スルノ慘境

ニ陷レリ而シテ教育費ノ如キハ最モ重要ノモノナルモ現時ノ狀態ニ於テハ到底之カ維持ニ堪ヘサルヲ以テ此ノ際町村教育資金ヲ交付セラレタシトノ

旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

町村小學校教育費國庫補助ノ件

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

右ノ請願ハ請願人等ノ地方ハ明治三十五年米作ノ不良ニ次クニ昨三十八年ノ大凶歉ヲ以テシ今ヤ戸々飢餓ニ瀕スルノ慘境ニ陷レリ而シテ教育費ノ如キハ最モ重要ナルモノナルモ現時ノ狀態ニ於テハ到底其ノ負擔ニ堪ヘサル

ヲ以テ此ノ際市町村立小學校教員俸給額ヲ國庫ヨリ補助セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

狩獵法中一部改正ノ件

静岡縣富士郡加島村平民農松永晴太郎外二十四名呈出

右ノ請願ハ明治三十四年四月改正發布セラレタル狩獵法ハ實地ニ適當セサル迂遠ノ條項尠ナカラス就中同法第十一條ノ規定ハ免許稅ノ基礎タル所得稅及地租營業稅ノ區分階級ノ標準太タ不備ニシテ權衡ヲ得サルモノアルヲ以テ本法ノ一部ヲ改正セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

教科書改正ニ關スル件

東京府豊多摩郡大久保村平民休職判事中田憲信呈出

右ノ請願ハ現行小學校教科書ハ其ノ撰太タ精シカラス其ノ義最モ當ヲ得サルモノニシテ嘗テ軍人ニ賜リタル勅諭竝ニ教育勅語ノ大精神ニモ合ハサルトコロアルヲ以テ之ヲ改正シ其ノ正鵠ヲ得セシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

## 意見書案

地方各町村ニ招魂社建設ノ件

福井縣坂井郡本庄村平農藤野市九郎呈出

右ノ請願ハ東京ニ靖國神社アリテ殉國者ノ忠魂ヲ鎮祭シ春秋二季ニ祭祀ヲ行ヒ百世廟食ノ光榮ヲ附興セラルト雖遠隔ノ地ニ在ルノ遺族ハ親シク其ノ盛典ヲ目擊スルコト能ハサルカ故ニ國庫ノ補助ト寄附金トヲ以テ全國各町村ニ招魂社ヲ建設シ殉國者ノ遺物及各種ノ戰利品等ヲ陳列シテ永ク其ノ勳功ヲ表彰シ其ノ遺族ヲ慰撫シ兼テ一般人民ヲシテ義勇奉公ノ念ヲ喚起セシムルノ措置ヲ採ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

## 意見書案

水面埋立ニ關スル件

千葉縣香取郡小見川町平民農石毛巳之助外五十四名呈出

右ノ請願ハ利根川河身改修工事ニ因リ地先水面並川流ノ過半ハ不用ニ歸スヘキヲ以テ此ノ工事ノ捨土ヲ利用シテ不用水面ヲ埋立テ之ヲ請願人等ニ貸下ケラレ此ノ埋立地ニ水田ヲ拓キ農產ノ増殖ヲ圖ルトキハ將來二百餘町歩ノ良田ヲ得地方民人ノ福利ヲ增進スルノミナラス國家永遠ノ利源トナルニ依リ之カ起業ノ容易ナル今日ニ於テ速ニ著手セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

## 意見書案

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

水面埋立ニ關スル件

## 意見書案

漆樹栽培獎勵ノ件

福島縣大沼郡川路村士族漆樹業初瀬川健増外二名呈出

右ノ請願ハ主務省ニ於テ漆樹ノ栽培ヲ獎勵スル爲各府縣ニ模範林ヲ設ケ縣郡村及學校ノ基本財產ト爲スモノニハ國有林ヲ無料ニテ貸下ケ又清國ヨリ液搔取工ヲ雇聘シテ其ノ方法ヲ改良シ專務掛員ヲ置キテ督勵セシムル等ノ方法ニ依リテ漆業ノ發達ヲ計ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

日露戰爭罹災者救濟ノ件

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

横濱市太田町貿易商津久居平右衛門外二名呈出

夏秋蠶專門蠶業講習所設置ノ件  
長野縣東筑摩郡本郷村平民農鳥羽久吾外六十三名呈出

右ノ請願ハ現今養蠶事業大ニ發達セシト雖春蠶ノ年一回ノミニテハ未タ十分ノ利益ヲ收ムル能ハサルヲ以テ茲ニ夏秋蠶ノ飼育行ハレ秋蠶ハ逐年增加シテ益有望ナルモ夏蠶ハ從來大ニ行ハレタルモノニアラス殊ニ秋蠶ニ至リテハ實ニ近年ノ發明ニシテ加フルニ短時日ヲ以テ飼育收繭ヲ期スルカ故ニ之ヲ春蠶ニ比スレハ大ニ其ノ趣ヲ異ニシ試驗研究ノ事項モ亦從テ多キカ故ニ斯業ニ堪能ノ人物ヲ養成スル爲夏秋蠶專門蠶業講習所ヲ設置シ而シテ其位地ヲ秋蠶ノ發明根本地タル長野縣東筑摩郡内ニ定メラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

以テ之カ爲被リタル損害ニ對シ相當ノ救濟方法ヲ設ケラレ罹災ノ商人ヲ救濟シ其ノ事業ヲ保護スルノ途ヲ開カレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體

ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

貴族院議長公爵德川家達

明治三十九年月日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

○議長(公爵德川家達君) 全部採擇ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス、是デ散會ヲ告グマス

午後八時二十六分散會

意見書案  
北陸鐵道三國支線敷設ノ件

福井縣阪井郡三國町平民商牧野礪外二十四名呈出

右ノ請願ハ越前國三國町ハ古來ヨリ北陸ニ於ケル貨物集散ノ要地ニシテ近時大ニ港灣ヲ修築シ船舶ノ碇泊ニ便ニセシヲ以テ鐵道ヲ連絡セシムルトキハ海陸ノ交通全キヲ得テ北海道及九州地方トノ通商ニ至大ノ便益ヲ與ヘ且將來對外貿易ノ發展ヲ促スヘキヲ以テ速ニ北陸線丸岡金津兩驛ノ孰カ其ノ一方ヨリ三國港口ニ達スル支線ヲ敷設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十九年月日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案  
鳥見山靈跡之古蹟顯彰ノ件

奈良縣宇陀郡榛原町平民農神阪恭藏外二十一名呈出

右ノ請願ハ大和國宇陀郡榛原町大字萩原字天ノ森ノ地ハ往昔神武天皇ノ靈時ヲ立テサセラレ皇祖天神ヲ祭リ以テ大孝ヲ申ヘサセ給ヒシ夫ノ鳥見山中野ノ榛原ノ古蹟ニシテ又金鷦天降ノ奇瑞アリシ靈域ナルニ拘ラス現今榛莽ニ委シ耕牧ニ瀆シテ將ニ湮滅ニ歸セントスルハ我國體上大ニ慨スヘキコトナルヲ以テ適當ナル方法ニ依リ此ノ靈域ヲ顯彰セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也